

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第89集

たか の はる
高野原遺跡 第5地点

国営大淀川左岸農業水利事業高浜ファームボンド建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第89集

【高野原遺跡第5地点 調査大流川左岸農業水利事業高野ファームポンド建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

正誤表

ページ・図番号	誤		正	
目次	序文		序	
図版目次	SI1(南より)	SI2(南より)	SI1(東より)	SI2(東より)
図版目次	SI6(南より)	SI7・8(南より)	SI6(東より)	SI7・8(北より)
p18 第11図				
p22 表キャプション	第3図 第Ⅱ文化層石器計測表		第3表 第Ⅱ文化層石器計測表	
p25 第17図 凡例	㊦一層・塊石器(敲石・台石など)		㊦一層塊石器(敲石・台石など)	
p38-L33	主要剥離面の上側		主要剥離面側の上側	
p76 第58図				
p103 図版3 キャプション	SI1(南より)	SI2(南より)	SI1(東より)	SI2(東より)
p104 図版4 キャプション	SI6(南より)	SI7・8(南より)	SI6(東より)	SI7・8(北より)

p22 第3表
・追加データ

図版番号	文化層	注記番号	器種	グリッド	層位	ブロック	石材	接合番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
38	Ⅱ	X層-25	刮片	E-3	X	1	チャートI	Ⅱ-2	2.70	2.15	1.14	6.20	

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第89集

たか の はる
高野原遺跡 第5地点

国営大淀川左岸農業水利事業高浜ファームボンド建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県埋蔵文化財センターでは、国営大淀川左岸農業水利事業高浜ファームポンド建設事業に伴い、高野原遺跡第5地点の発掘調査を実施しました。今回の調査では、後期旧石器時代から縄文時代早期の貴重な資料を得ることができました。

なかでも、旧石器時代については、層的に4期の石器群が確認されており、宮崎県内の石器の年代や変遷を考えていく上で、基礎的な資料になるものと考えられます。

こうした先人の歩みを振り返り、郷土の歴史を解明する貴重な資料が得られたことは、大きな成果と言えるでしょう。

本書が学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護と活用に対する認識と理解の一助となることを期待します。

調査にあたって御協力いただいた関係諸機関をはじめ、地元の方々に心からの謝意を表します。

平成16年2月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 米良弘康

例 言

1. 本書は、高浜ファームポンド建設事業に伴い実施された、宮崎県東諸県郡高岡町大字高浜所在の高野原遺跡第5地点の発掘調査報告書である。調査は九州農政局宮崎農業水利事務所の委託を受けて宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
2. 本遺跡は「高野原遺跡」として発掘調査および整理作業を行ってきたが、すでに平成11年度に高岡町教育委員会が付近を「高野原遺跡（第1地点～第4地点）」（高岡町教育委員会 2002「高野原遺跡」高岡町埋蔵文化財調査報告書第23集）で調査しており、今後、名称等で混乱も予想されることから、町教育委員会と協議し、「高野原遺跡第5地点」として報告する。
3. 現地調査に関する実測および写真撮影は日高広人、丹俊詞が担当し、柳田宏一、玉利勇二、杉田康之、福田泰典、田中光が補助した。なお、空中写真については宮崎県文化財調査・サポート協同組合に委託した。
4. 土層断面および土器の色調については農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」に準拠した。
5. 遺物および図面等の整理については宮崎県埋蔵文化財センターにて行った。そのうち遺物実測・トレースについては整理作業員と日高、重留康弘、柳田裕三が行い、一部の石器実測については（株）九州文化財研究所に委託した。また、図面作成・トレースについては日高、丹が行った。
6. 遺構計測表は日高、丹が作成し、石器計測表作成を日高、土器観察表作成は柳田が行った。
7. 石器の石材同定については赤崎広志、廣田晶子（高岡町教育委員会）からご教示を得た。
8. 自然科学分析については古環境研究所に委託した。
9. 本書に使用した方位は座標北と磁北があり、磁北を用いた場合にのみ図中に「M.N.」を示した。座標は国土座標第Ⅱ系に拠る。またレベルは海拔絶対高を用いた。これらの基準点の設置は、株式会社高岡コンサルタントに委託した。
10. 遺物写真については、日高が撮影した。
11. 本書に使用した位置図は、国土地理院発行の5万分の1図「宮崎」を、また周辺地形図は高岡町作成の5万分の1図、農林水産省九州農政局宮崎水利事務所作成2百分の1図をもとに作成した。
12. 本書で使用した遺構略号は次のとおりである。
SC=土坑・陥し穴状遺構、SI=築石遺構
13. 挿入図の縮尺は各図に示している。
14. 本書の執筆は主に日高が、他に第Ⅰ章・第1節を竹井真知子（文化課）、第Ⅲ章・第2節1(2)を柳田が担当した。編集は日高が担当した。
15. 調査の記録類および出土遺物は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

目次

序文	
例言	
第I章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 遺跡の位置と環境	2
第II章 調査の記録	4
第1節 遺跡の立地	4
第2節 調査の経過	4
第3節 遺跡の層序	6
第III章 調査の記録	9
第1節 旧石器時代の調査	9
1. 第I文化層	10
(1) 礫	10
(2) 石器	11
2. 第II文化層	15
(1) 礫群	15
(2) 石器	15
3. 第III文化層	22
(1) 礫群	22
(2) 石器	26
4. 第IV文化層	75
(1) 礫群	75
(2) 石器	75
第2節 縄文時代早期以降の調査	81
1. 縄文時代早期の遺構と遺物	81
(1) 遺構	81
(2) 縄文土器	82
(3) 石器	83
2. その他の遺構と遺物	89
(1) 遺構	89
(2) 遺物	89
第IV章 自然科学分析	91
第1節 テフラ分析	91
第2節 放射性炭素年代測定結果	95
第3節 樹種同定	96

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図 3	第32図 第Ⅱ文化層石材別分布図 (1) 44
第2図 遺跡周辺地形図 5	第33図 第Ⅱ文化層石器実測図 (15) 45
第3図 調査区配置図 6	第34図 第Ⅱ文化層石器実測図 (16) 46
第4図 基本土層柱状図および土層断面図 7	第35図 第Ⅱ文化層石器実測図 (17) 47
第5図 発掘深位図 11	第36図 第Ⅱ文化層石材別分布図 (2) 49
第6図 第Ⅰ文化層遺物分布図 11	第37図 第Ⅱ文化層石器実測図 (18) 50
第7図 第Ⅰ文化層石器実測図 (1) 12	第38図 第Ⅱ文化層石器実測図 (19) 51
第8図 第Ⅰ文化層石器実測図 (2) 13	第39図 第Ⅱ文化層石器実測図 (20) 52
第9図 第Ⅰ文化層石器実測図 (3) 14	第40図 第Ⅱ文化層石器実測図 (21) 53
第10図 第Ⅱ文化層遺物分布および石器石材別分布図 17	第41図 第Ⅱ文化層石器実測図 (22) 54
第11図 第Ⅱ文化層礫分布および礫群1実測図 18	第42図 第Ⅱ文化層石器実測図 (23) 55
第12図 第Ⅱ文化層石器実測図 (1) 19	第43図 第Ⅱ文化層石器実測図 (24) 56
第13図 第Ⅱ文化層石器実測図 (2) 20	第44図 第Ⅱ文化層石器実測図 (25) 57
第14図 第Ⅱ文化層石器実測図 (3) 21	第45図 第Ⅱ文化層石器実測図 (26) 58
第15図 第Ⅲ文化層遺物分布図 23	第46図 第Ⅱ文化層石器実測図 (27) 59
第16図 第Ⅲ文化層礫群分布図および礫群3実測図 24	第47図 第Ⅱ文化層石器実測図 (28) 60
第17図 第Ⅲ文化層器種別分布図 25	第48図 第Ⅱ文化層石器実測図 (29) 61
第18図 第Ⅲ文化層石器実測図 (1) 28	第49図 第Ⅱ文化層石器実測図 (30) 62
第19図 第Ⅲ文化層石器実測図 (2) 29	第50図 第Ⅱ文化層石器実測図 (31) 63
第20図 第Ⅲ文化層石器実測図 (3) 30	第51図 第Ⅱ文化層石器実測図 (32) 64
第21図 第Ⅲ文化層石器実測図 (4) 31	第52図 第Ⅱ文化層石材別分布図 (3) 65
第22図 第Ⅲ文化層石器実測図 (5) 32	第53図 第Ⅲ文化層石器実測図 (33) 66
第23図 第Ⅲ文化層石器実測図 (6) 33	第54図 第Ⅲ文化層石器実測図 (34) 67
第24図 第Ⅲ文化層石器実測図 (7) 34	第55図 第Ⅱ文化層石器実測図 (35) 68
第25図 第Ⅲ文化層石器実測図 (8) 35	第56図 第Ⅲ文化層石器実測図 (36) 69
第26図 第Ⅲ文化層石器実測図 (9) 37~38	第57図 第Ⅱ文化層石器実測図 (37) 70
第27図 第Ⅲ文化層石器実測図 (10) 39	第58図 第Ⅳ文化遺構・遺物分布図 76
第28図 第Ⅲ文化層石器実測図 (11) 40	第59図 礫群13実測図 76
第29図 第Ⅲ文化層石器実測図 (12) 41	第60図 第Ⅳ文化層石器実測図 (1) 77
第30図 第Ⅲ文化層石器実測図 (13) 42	第61図 第Ⅳ文化層石器実測図 (2) 78
第31図 第Ⅲ文化層石器実測図 (14) 43	第62図 第Ⅳ文化層石器実測図 (3) 79

第63図 縄文時代早期遺構配置図および敷礎分布図	80	第69図 縄文時代早期土器実測図	88
第64図 集石遺構実測図(1)および出土遺物実測図	84	第70図 縄文時代早期石器実測図	89
第65図 集石遺構実測図(2)	85	第71図 時期不明遺構配置図	90
第66図 集石遺構実測図(3)	86	第72図 土坑および表採資料実測図	90
第67図 陥し穴状遺構実測図	87	第73図 土層柱状図	94
第68図 縄文時代早期遺物分布図	88	第74図 火山ガラス比ダイヤグラム	94

表 目 次

第1表 石器組成表	10	第8表 集石遺構一覧表	81
第2表 第Ⅰ文化層石器計測表	14	第9表 陥し穴状遺構一覧表	82
第3表 第Ⅱ文化層石器計測表	22	第10表 縄文土器観察表	83
第4表 第Ⅲ文化層ブロック別石器組成表	27	第11表 縄文時代石器計測表	83
第5表 第Ⅲ文化層石材別石器組成表	27	第12表 土坑一覧表	89
第6表 第Ⅲ文化層石器計測表	70	第13表 火山ガラス比分析結果	94
第7表 第Ⅳ文化層石器計測表	79	第14表 屈折率測定結果	94

図 版 目 次

図版 1	101	SI 1 (南より)	
高野原第5地点遠景		SI 2 (南より)	
図版 2	102	SI 3 (東より)	
土層堆積状況		SI 4 (東より)	
旧石器時代第Ⅰ文化層遺物出土状況(南より)		図版 4	104
第Ⅱ文化層1号礫群(南東より)		SI 5 (南より)	
第Ⅱ文化層遺物出土状況(東より)		SI 6 (南より)	
第Ⅱ文化層スクレイパー出土状況(東より)		SI 7・8 (南より)	
第Ⅲ文化層2号礫群(南東より)		SI 10 (東より)	
第Ⅲ文化層遺物出土状況1(北東より)		SI 11 (北より)	
第Ⅲ文化層遺物出土状況2(南東より)		SI 11配石(南より)	
図版 3	103	SI 12・13 (南東より)	
第Ⅲ文化層ナイフ形石器出土状況		SI 12・13割り込み(東より)	
第Ⅳ文化層遺物出土状況(南西より)		図版 5	105
第Ⅳ文化層3号礫群(北より)		SC 1 (1)(南より)	
縄文時代早期敷礎出土状況(北より)		SC 1 (2)(南より)	

SC 2 (1) (南より)		図版 9	109
SC 2 (2) (南より)		第Ⅱ文化層出土石器 (15)	
SC 3 (1) (南より)		第Ⅲ文化層出土石器 (16)	
SC 3 (2) (南より)		第Ⅲ文化層出土石器 (17)	
SC 4 (南より)		第Ⅲ文化層出土石器 (18)	
SC 5 (南より)		第Ⅲ文化層出土石器 (19)	
図版 6	106	第Ⅲ文化層出土石器 (20)	
第Ⅰ文化層出土石器		図版 10	110
第Ⅱ文化層出土石器 (1)		第Ⅱ文化層出土石器 (21)	
第Ⅱ文化層出土石器 (2)		第Ⅱ文化層出土石器 (22)	
第Ⅱ文化層出土石器 (3)		第Ⅲ文化層出土石器 (23)	
第Ⅱ文化層出土石器 (4)		第Ⅲ文化層出土石器 (24)	
第Ⅱ文化層出土石器 (5)		第Ⅲ文化層出土石器 (25)	
第Ⅲ文化層出土石器 (1)		第Ⅲ文化層出土石器 (26)	
図版 7	107	図版 11	111
第Ⅲ文化層出土石器 (2)		第Ⅲ文化層出土石器 (27)	
第Ⅲ文化層出土石器 (3)		第Ⅲ文化層出土石器 (28)	
第Ⅲ文化層出土石器 (4)		第Ⅲ文化層出土石器 (29)	
第Ⅲ文化層出土石器 (5)		第Ⅲ文化層出土石器 (30)	
第Ⅲ文化層出土石器 (6)		第Ⅲ文化層出土石器 (31)	
第Ⅲ文化層出土石器 (7)		第Ⅲ文化層出土石器 (32)	
図版 8	108	図版 12	112
第Ⅲ文化層出土石器 (8)		第Ⅲ文化層出土石器 (33)	
第Ⅲ文化層出土石器 (9)		第Ⅳ文化層出土石器 (1)	
第Ⅲ文化層出土石器 (10)		第Ⅳ文化層出土石器 (2)	
第Ⅲ文化層出土石器 (11)		縄文時代早期石器	
第Ⅲ文化層出土石器 (12)		縄文時代早期石器	
第Ⅲ文化層出土石器 (13)		弥生石器	
第Ⅲ文化層出土石器 (14)			

第I章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

農林水産省九州農政局宮崎農業水利事務所では、「大淀川左岸農業水利事業」のもと、畑地灌漑水路網の整備工事を継続実施しているが、要所に配置する大型集給水施設の一つとして、東諸県郡高岡町高浜地区にファームポンドの建設を計画していた。

県文化課では、かねてより、当該建設予定対象域が周知の高野原遺跡の近隣地であることに留意してきたが、平成12年、計画が実施段階へ向けて具体化し、宮崎農業水利事務所から埋蔵文化財の有無について照会があったのを受け、協議を開始した。この時点で、すでに、建設予定地南側の谷を挟み隣接する丘陵上において高岡町教育委員会が発掘調査を実施しており、高野原遺跡の範囲が建設予定地一帯にまで及ぶことが明らかになっていたため、県文化課では、事前に遺跡の有無と内容を確認するための調査が必要であると判断して協議を継続し、平成14年10月、地権者の同意を得て確認調査を実施した。

その結果、高岡町教育委員会の調査地と同様、後期旧石器時代の遺物包含層や縄文時代早期の遺構が確認されて遺跡の存在が確実となり、引き続き、計画変更等の埋蔵文化財保護の方策について協議を行ったが、工事区全域にわたり現状保存が困難という結論に至り、発掘調査による記録保存の措置をとることになった。

発掘調査は、宮崎県教育委員会が農林水産省九州農政局宮崎水利事務所の委託を受け、宮崎県埋蔵文化財センターが主体となり、平成14年12月10日から平成15年3月28日まで実施した。

第2節 調査の組織

高野原遺跡第5地点の調査組織は次のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

平成14年度 発掘調査

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長	米良 弘康
副所長兼総務課長	大園 和博
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
総務課総務係長	野邊 文博
調査第二課調査第四係長	永友 良典
調査第二課調査第四係	
主任主事（調査担当）	日高 広人
調査第二課調査第三係	
調 査 員（調査担当）	丹 俊詞

平成15年度 整理・報告書作成

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長	米良 弘康
副所長兼総務課長	大園 和博
副所長兼調査第二課長	岩永 哲夫
総務課主幹兼総務係長	石川 恵史
調査第二課調査第四係長	近藤 協
調査第二課調査第四係	
主任主事（報告書担当）	日高 広人

調査協力

農林水産省九州農政局宮崎水利事務所、高岡町教育委員会、高浜公民館長 吉田光男
古環境研究所 早田 勉、島脇 航

第3節 遺跡の位置と環境

高岡町は、宮崎県の中央部南側に位置する。町中央部を大淀川が蛇行しながら東流し、町内で浦之名川や境川、飯田川等の支流が合流しながら、宮崎平野を貫流し、日向灘に注ぐ。その大淀川によって形成された沖積低地は、南部に形成されている高岡山地（最高標高454m）をはじめとした丘陵山系に囲まれている。こうした地理的な要因もあり、遺跡の多くは大淀川やその支流に臨む丘陵上に点在している。

近年、高岡町では旧石器時代の調査例が増加しており、遺跡周辺として高野原遺跡第1～4地点や永迫第1遺跡・同第2遺跡（移佐地区）、向屋敷遺跡・押田遺跡（飯田内山地区）、小田元第2遺跡（浦之名地区）が挙げられる。そのうち、高野原第4地点および永迫第1遺跡、同第2遺跡では、始良Tn火山灰下位で石器群が確認されている。

始良Tn火山灰上位では、高野原遺跡第1・2地点でナイフ形石器やスクレイパー等が確認されている。他は向屋敷遺跡で小型のナイフ形石器とともに礫群（集石遺構で報告）が、押田遺跡ではナイフ形石器（国府型ナイフ、終末期ナイフ）や角錐状石器、小田元第2遺跡ではナイフ形石器（国府型ナイフや今峠型ナイフ、終末期ナイフ）や剥片尖頭器、角錐状石器等といったナイフ形石器文化期の遺物や高野原第2地点の船野型細石核のブランクと思われるものをはじめ、小田元第2遺跡の野岳・休場型細石核や畦原型細石核、船野型細石核、局部磨製石斧等といった細石刃石器文化期の遺物が確認されている。

縄文時代早期になると町内で確認された遺跡もその数を増し、本遺跡でも、集石遺構や陥し穴状遺構およびそれらに伴う土器が確認されている。2003年2月に「九州縄文時代の集石遺構と炉穴」をテーマに開催された九州縄文研究会では、宮崎県内で確認された集石遺構として179遺跡2,886例が報告されている。そのうち高岡町では飯田内山地区の天ヶ城跡や浦之名地区の久木野遺跡や橋上遺跡、橋山第1遺跡（東高岡地区）等、計7遺跡97例が確認され、それらの遺跡では集石遺構に散礫（礫群）を伴うことが指摘されている。そのうち久木野遺跡では上層の散礫と集石遺構内の礫との接合が確認され、礫群の形成が集石遺構に起因していることが確認されている。続いて陥し穴状遺構については高野原遺跡第1・4地点、永迫第2遺跡において確認例がある。

また該期の土器では前平式土器や吉田式、下剝峰式、桑ノ丸式、平橋式、塞ノ神式、苦浜式、押型文等各型式の土器が出土しているが、そのうち天ヶ城跡で押型文土器と桑ノ丸式土器が大半を占め、両者の折衷土器も出土している。なお、永迫第2遺跡では轟1式土器や苦浜式土器が出土しているが、それらに共伴してアカホヤ火山灰層下の牛の脛ローム層中で抉状耳飾が出土したことは注目されることである。

参考文献

- 廣田晶子 2002「高野原遺跡」高岡町埋蔵文化財調査報告書第23集 高岡町教育委員会
廣田晶子 2003「永迫第2遺跡」高岡町埋蔵文化財調査報告書第25集 高岡町教育委員会
島田正浩・伊東栄二 2003「押田遺跡」高岡町埋蔵文化財調査報告書第26集 高岡町教育委員会
島田正浩・伊東栄二 2003「小田元第2遺跡」高岡町埋蔵文化財調査報告書第29集 高岡町教育委員会
橋田祐三ほか 2003「宮崎県の集石遺構と炉穴」第13回九州縄文研究会官庁大会「九州縄文時代の集石遺構と炉穴」発表要旨・資料集九州縄文研究会



第1図 通跡位置図 (S = 1/50,000)

第二章 調査の記録

第1節 遺跡の立地

本遺跡は東諸県郡高岡町大字高浜1470-1・2、1471、1472-2番地に所在し、大淀川の右岸に形成された丘陵上に立地する。南側に形成されている高岡山地から派生した起伏の富んだ地形は、標高80mを境に緩やかに変化を始め、北および東側に複雑に入り込んだ開析谷と対応して、全長200m程の独立した丘陵が展開する。遺跡はそうした丘陵上にあり、その東側には谷を挟み、南東方向には永迫第1・第2遺跡が立地する標高75m前後の丘陵が形成されている。なお、両谷下には湧水があり、それらが小川を形成し、低地の大淀川支流の瓜田川へと合流する(第2図)。

本遺跡が立地する丘陵に目を戻すと、今回調査を行なった第5地点は、上段面南西側に最高所(約85.5m)が認められ、そこから北東に向かって緩やかに傾斜しており、その部分には2段の平坦面が認められる。そのうち下段平坦面の一部とその南側農道部分は、元々はその間に浅い谷が入り、対岸には高岡町教育委員会が調査した第1地点が立地する。

第2節 調査の経過

現況では丘陵のそのほとんどで蜜柑が栽培されており、今回調査を行なった第5地点も調査前まで大半が蜜柑畑(一部竹林)として利用されていた。地権者の話では蜜柑を栽培するために造成を行ない、谷も一部埋め立てたとのことである。

文化課の試掘では上段面に旧石器時代～縄文時代早期の遺物が確認されていたことから下段面に現場事務所を設置し、上段面は蜜柑等の樹木を他所に移植後、1月より重機による表土剥ぎを行なった。大半がⅢ層まで削平を受けていたが、北西側で一部アカホヤ火山灰層(Ⅱ層)が確認されたことから、その上面で精査を行なった。しかし遺構・遺物が確認されなかったことから、Ⅲ層の除去まで行なった。

この段階で国土座標(世界測地系)に準じた10m×10mグリッドを単位とし、調査区を覆うように設定し、東西方向にアルファベット(西よりA、B、C…)、南北方向に整数(北より1、2、3…)を付すことにし(第3図)、人力による掘り下げを開始した。

Ⅳ層では調査区中央部から東側にかけて、おびただしい量の焼礫が出土し、押型文土器や塞ノ神式土器とともに計14基の集石遺構を確認し、予想以上に時間を費やした。また1月末からは、並行してⅣ層の調査が終了した箇所について、基本的にはグリッドをさらに4分割し、その4分の1をⅤ層まで掘り下げを行い、遺構・遺物等が確認されれば、周辺まで範囲を広げるという方法で調査をおし進めた。

Ⅵ層～Ⅷ層上部については調査区東側で礫群1基と使用痕剥片や剥片、石核等がまとまって確認された以外は散発的に出土する状況であるのに対し、Ⅸa層直上(一部、Ⅷ層下部)で遺物が相当量確認され始めたことから、時間の都合上、Ⅸa層まで掘り下げが達していない箇所については、一部を除き3月初めに再度重機を投入し、Ⅷ～Ⅷ層(AT)まで除去を行なった。

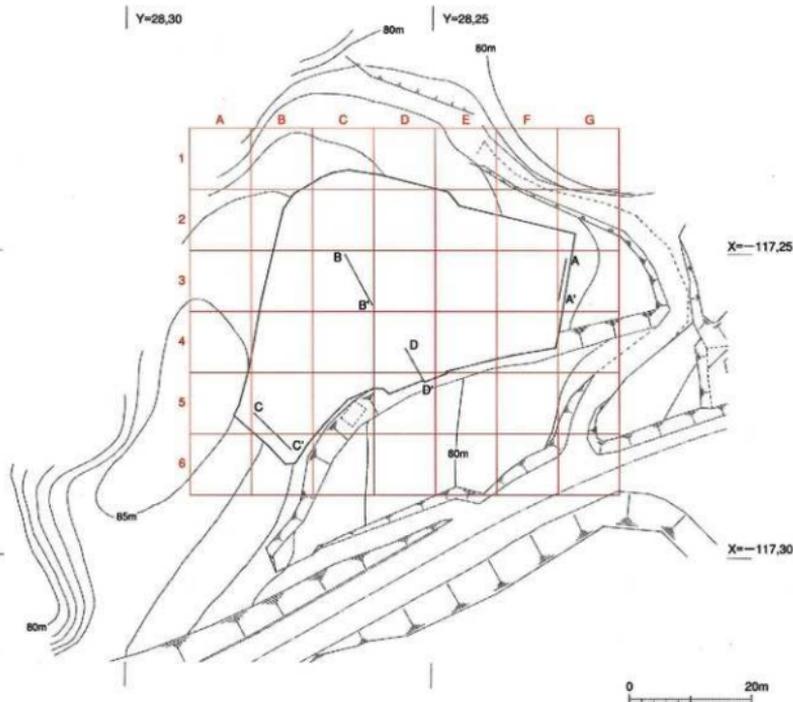
Ⅷ層除去後は、Ⅸa層上面で地形測量を行ない(第63図等)、測量後、比較的地形の緩やかな調査区中央部から東側(2～3列)を中心にⅩ層まで掘り下げを行なった。Ⅹ層では、礫群10基とブロック10箇所に伴い、ナイフ形石器や台形礫石器、スクレイパー等、約650点もの石器が確認され、またⅩ層については礫群2基ブロック2箇所に伴い、台形礫石器、スクレイパー等、約60点の石器が確認されている。

最終的には一部、XI層もしくはX層まで掘り下げを行い、F-2・3グリッドで二次加工剥片や剥片等若干の遺物が確認されている。また調査の後半、野生狼の群れが調査区周辺に頻繁に出没したが、幸いにも悪戯等の被害もなく、平成15年3月28日には無事終了した。

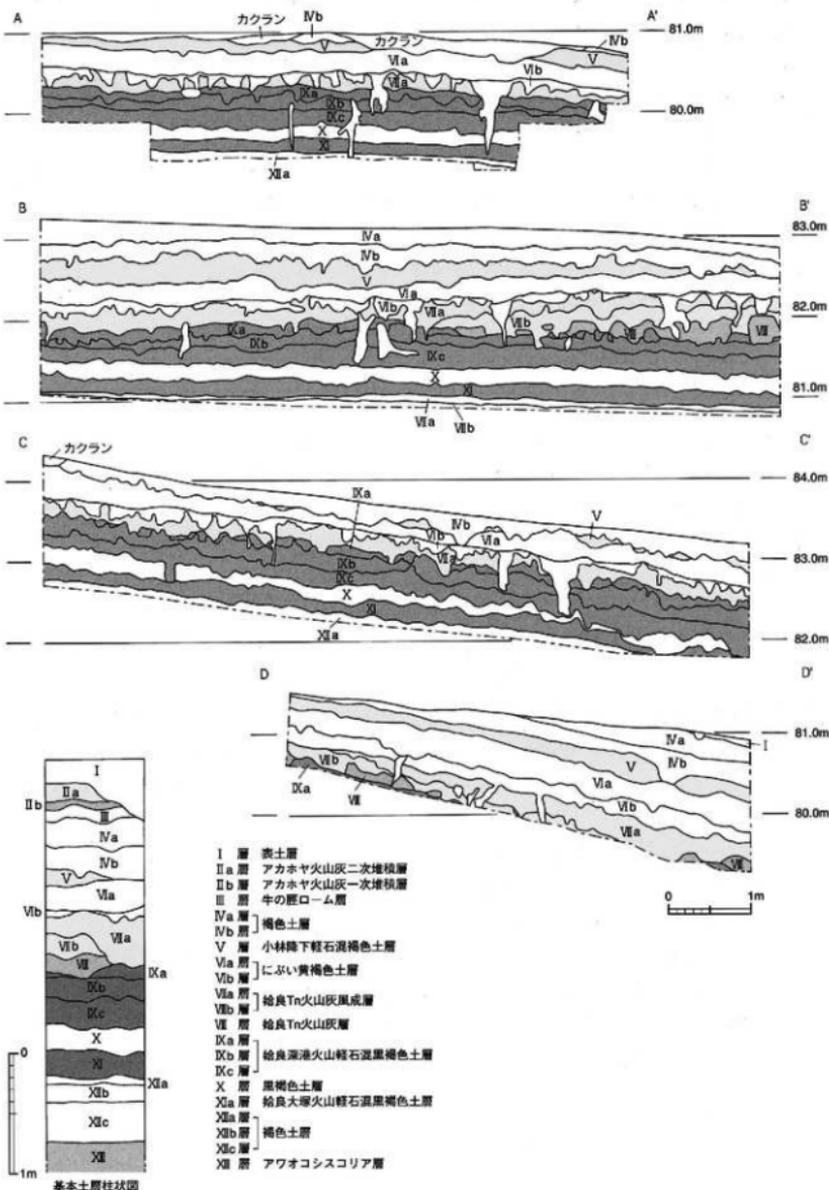
第3節 遺跡の層序

本遺跡の層序は、鍵層としてII層にアカホヤ火山灰層（約6,400年前）、V層に小林降下軽石混褐色土層（約15,000年前）、Ⅷ層では始良 Tn 火山灰層（約24,000年前）、IX層が始良深港火山軽石混黒褐色土層（約26,500年前）、XI層に始良大塚火山軽石混黒褐色土層（約30,000年前）、XⅢ層にアワオコシスコリア層（約41,000年前）が確認されている。

そのうち、Ⅱ・Ⅲ層については前述のとおり、調査区北西部で一部確認されており、他はIV層から残存している。そのIV層についても、調査区の一部は竹や笹等が生えていたため、その箇所については竹根による浸食が著しい。V層については調査区のほぼ全域で認められたが、傾斜面では層を成さずブロッ



第3図 調査区配置図 (S=1/800)



第4図 基本土層柱状図 (S=1/20) および土層断面図 (S=1/60)

ク状に堆積する部分もみられる。VI層・VII層については比較的良好に堆積しているのに対し、VIII層は調査区中央部のみで比較的良好に堆積しているが、大半はブロック状に堆積しており、傾斜部では残っていない。IX層からは土質が硬質になりクラックが発達している。層厚もIX層が約30cm、X層15~20cm、XI層約15cmと比較的安定した堆積が認められる。以下、層ごとに説明していく。なお、第IV章第1節ではテフラ分析結果を掲載しているので参照していただきたい。

I層 表土

II層 アカホヤ火山灰層で2層に分層できる。a層は粒子が細かく、サラサラとしてしまりが無い。

風成堆積層と考えられる。b層は一次堆積層で下部に豆石を含む。

III層 牛の脛ローム層。II層同様、調査区中央北側付近で残存するのみである。

IV層 褐色土層で縄文時代早期の遺物包含層である。色調の違い（明るさ： $a < b$ ）により2層に分層でき、主に遺物等についてはa層で確認されている。a層は粒子が細かく、締まりがやや弱い。b層になるとやや粘性を帯び、締まりがでてくる。

V層 小林降下軽石混褐色土層で硬質である。調査区のほぼ全域で認められるが、傾斜がきつくなる部分については層を成さずブロック状に堆積する部分もみられる。

VI層 にぶい黄褐色土層で水気を多く含み、粘性が強く締まりがある。部分的にマンガン斑を含む部分も認められる。a・bの2層に分層でき、そのうちbはVII層との漸移層である。

VII層 始良Tn火山灰風成層である。硬質で締まりがあり、粒子が粗くざらざらしている。色調の違いと粒子の粗さ（明るさ： $a > b$ 、粒子の粗さ： $a < b$ ）によりa・bの2層に分層した。そのうち、b層については中央ベルト付近（第4図、B-B' からD-D' ラインにかけて）で確認されている。

VIII層 始良Tn火山灰層。調査区中央部で比較的良好に堆積しているが、大半はブロック状に堆積している部分が多く、傾斜のきつくなる部分や傾斜部ではほとんど残っていない。

IX層 始良深港火山軽石混黒褐色土層。硬質でクラックが発達している。a・b・cの3層に分層でき、a層がVIII層もしくはVII層との漸移層、b・c層は始良深港火山軽石の含有量（量： $b < c$ ）より細分した。

X層 黒褐色土である。上下層と比べ、粘性があり、軟質である。始良大塚火山軽石をわずかに含有する。

XI層 始良大塚火山軽石混黒褐色土層。硬質でクラックが発達している。始良大塚火山軽石や石英などを多量に含む。テフラ分析を行ったトレンチ2部分では同軽石の含有量（量： $a < b$ ）により2層に分層できたが、他の部分では不明瞭で細分できなかった。

XII層 褐色土 硬質でしまりが有る。a・b・cの3層に分層でき、そのうちaはVI層との漸移層で、黒みが強い。c層は下部にいくにつれて赤色や青灰色等の岩片を多く含む。

XIII層 アワオコシスコリア層 かなり硬質。赤色や青灰色等の岩片を多く含む。

第三章 調査の記録

第1節 旧石器時代の調査

今回の調査ではIV層およびVI層、VII層下部～XIb層で遺構・遺物が確認され、IV層が縄文時代早期、VI層とVII層下部～XIb層上部が旧石器時代の包含層に相当する。

そのうち旧石器時代では、VI層とIXb層、IXc層、X層で礫の集中箇所（礫群）が認められ、遺物はVI層、VII層下部～IXc層、IXc層下部～X層、XI層～XIb層上部にそれぞれ出土レベルのピークがある。これらを踏まえ、それぞれの接合関係および分布域に基づいて4期（下位より第I文化層から第IV文化層）に設定した。これらの文化層の石器群に対し、一部で異層間同士の接合（IV層とVI層、VI・VII層とIX層、IX層とXI層等）や石材の特徴が類似するもの等も認められる。これらについては便宜上、接合や類似石材等、量的に多い文化層に含めた。

また礫群と石器ブロックについては、調査中および整理段階で設定を行なった。基本的にはどちらも視覚的な分布で区分し、さらに石材+接合状況を加味して抽出した。

石材については流紋岩や溶結凝灰岩、黒曜石、ホルンフェルス、緑色珪質頁岩、珪質頁岩、頁岩、チャート、砂岩など9種確認されている。これらの石材のうち、色調や石質の特徴、接合等から細分可能なものもあり、以下のように分類した。なお、時間の制約上、分類を行なえなかったものや少量出土のもの等についてはそのままの石材名で記述している。

流紋岩Ⅰ類：暗灰色～青灰色を呈し、黒色や白色の不明瞭な雲状風化が認められるもの。

流紋岩Ⅱ類：黒色～灰白色を呈し、珪晶や火山ガラスが一部で認められる。色調が黒色と灰白色と明瞭に分かれる部分や灰白色～暗灰色へとしだいに変化する部分、雲状に入る部分も認められる。

流紋岩Ⅲ類：黒褐色を呈し、珪質でチャートに似る。暗灰色～灰白色の雲状風化や黒褐色の筋等が認められる。気泡が入る部分もわずかに認められる。

流紋岩Ⅴ類：黒色を呈し、礫面はなめらかである。暗灰色～灰白色の境が不明瞭な雲状風化や珪晶などが認められる。

流紋岩Ⅵ類：大半が黒色を呈し、部分的に暗灰色～白色の雲状風化が明瞭に入るもの。緻密である。

黒曜石Ⅰ類：青灰色を呈し、風化面はつやがなく、不純物が入るものもある。新鮮面は黒く透明度がない。

黒曜石Ⅱ類：アメ色を呈し、透明度が高い。灰白色とアメ色が交互に重なるものもある。桑ノ木津留産。

黒曜石Ⅲ類：黒色を呈し、比較的透明度がある。不純物を多く含むことから日東系産のものと思われる。

ホルンフェルスⅠ類：暗灰色を呈し、灰白色や黒褐色の不明瞭な雲状風化や灰白色の縞が入るもの。緻密である。礫面もなめらかで上記と同様の特徴をもつ。ただし、一部で黒褐色（同Ⅱ類に類似）を呈するものと接合関係が認められることから、同Ⅱ類に分類したものの中にも含まれている可能性がある。頁岩起源。

ホルンフェルスⅡ類：黒褐色を呈し、やや赤みがかかる。緻密。礫面は暗オリーブ褐色～黒褐色を呈する。頁岩起源。

ホルンフェルスⅢ類：頁岩起源のもので、空晶石が入るもの。そのほとんどが赤化している。

ホルンフェルスⅣ類：灰色～黒色を呈する。砂質部をレンズ状に含む頁岩起源のもので、やや珪質化している。

ホルンフェルスⅤ類：黒色で頁岩起源のもの。風化面はやや粗い。白色の雲状風化が明瞭に入る。

頁岩Ⅰ類：暗灰色を呈し、剥離面にはツヤがなく、粒子が粗い石材で部分的にページ状に剥落する部分も認められる。

頁岩Ⅱ類：暗灰色を呈し、風化面はつやがない。やや緻密。

頁岩Ⅲ類：暗灰色を呈し、風化面はつやがなくやや粗い。

頁岩Ⅳ類：黒褐色を呈し、やや珪質化している。

チャートⅠ類：白色から灰色を呈し、青灰色の筋や斑点が入るもの。

チャートⅡ類：白色から暗灰色を呈し、白色部分には暗灰色の細い筋や斑文が入るもの。

チャートⅢ類：緑灰色を呈するもの。

第1表 石器組成表

器種 文化層	ナイフ形石器	臼形石器	スクレイパー	鋸歯状石器	楔形石器	二次加工剥片	使用痕剥片	剥片	砕片	石核	敲石	凹石	磨石	台石	原石	合計
第Ⅰ文化層	0	0	1	0	0	1	1	34	0	0	0	0	0	0	0	37
第Ⅱ文化層	0	1	6	0	1	0	0	49	6	5	0	0	0	1	1	70
第Ⅲ文化層	10	2	26	2	0	6	8	552	12	19	5	1	2	3	0	648
第Ⅳ文化層	0	0	0	0	0	0	1	22	0	2	0	0	0	0	0	25
合計	10	3	32	2	1	4	10	671	19	27	5	1	1	4	1	792

1. 第Ⅰ文化層

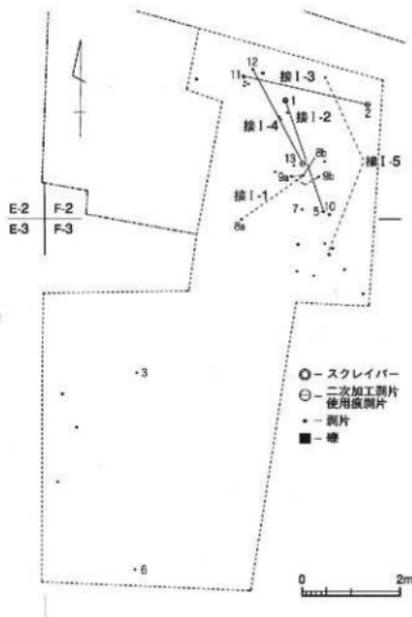
第Ⅰ文化層では、X層の調査が完了した箇所にてトレンチまたは小調査区を設定し（第5図）、XI層の掘り下げを行った。その結果、最終日間近でF-2・3グリッドで遺物が出土し、周辺に拡張、さらに下層まで掘り下げを進めたが、時間の都合上、約47m²の調査にとどまった。石器35点・礫5点が出土し、それらは北側と南西側に散漫ながらまとまりが認められ、その周囲に分布が広がる可能性がある。石器は緑色珪質頁岩製のものが一定量認められ、F・E-3グリッドのX層で同岩製剥片が出土しており、接合はしていないものの同一母岩の可能性のあることから同文化層に含めた。

(1) 礫

礫はF-2～F-3グリッド境界付近で4点、同グリッド西側で1点の総計5点出土し、そのうち3点（0.382kg）が熱を受け、赤化している。いずれも砂岩で1点のみ完形（拳大、0.368kg）に近い。分布は1点のみF-3グリッド西側で、他はF-2～F-3グリッド境界付近で確認されている。他はチャート礫（完形、0.844kg）と砂岩礫（3.775kg）で赤化は認められない。



第5図 発掘深度図(S=1/800)



第6図 第I文化層 遺物分布図(S=1/100)

(2) 石器

石器は、E-3グリッド中央部で1点、F-3グリッド西側で4点、他はF-2～F-3グリッド北側で32点の総計37点出土し、その内訳はスクレイパー1点、使用痕剥片1点、剥片34点である。

石材は頁岩(19点・280.1g)、緑色珪質頁岩(16点・52.6g)、珪質頁岩(2点・4.0g)が利用されている。

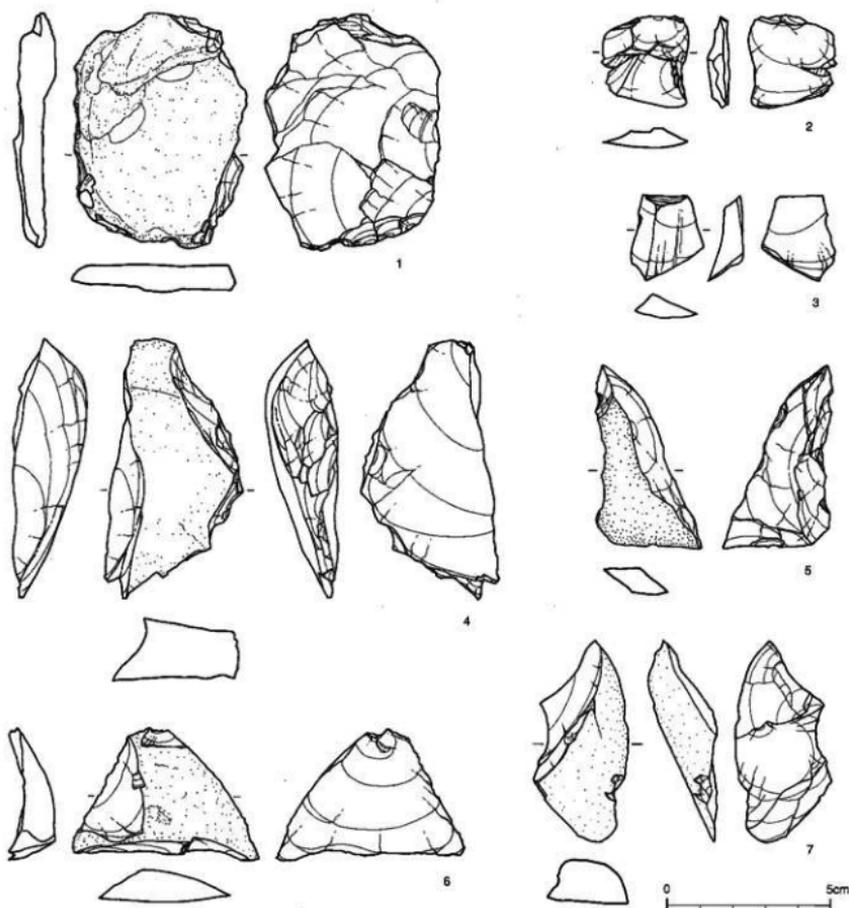
なお、接合資料については5例(I-1～I-5)あり、そのうち4例のみ図化を行なった(I-5は剥片剥離の際に生じた垂直割れの資料)。

スクレイパー(第7図1)

1はエンドスクレイパーである。表面は自然面を有する縦長もしくは幅広の剥片の下端部(10等)を折り取り後、素材を横位に置き、末端部に表面から加工を行ない、刃部を作り出している(接合資料I-1)。頁岩1製。

二次加工剥片(第7図2)

2は幅広の剥片の右側縁中央から下部にかけて主要剥離面より加工が施されている。打面には複数の剥離が認められる。緑色珪質頁岩製。



第7図 第I文化層石器実測図(1)(S=2/3)

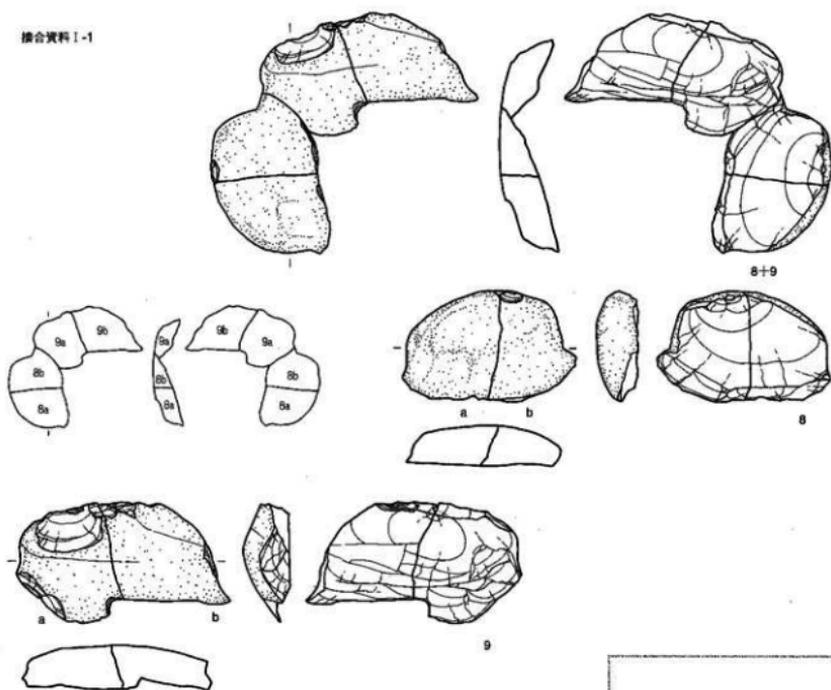
使用痕剥片 (第9図13)

13は横長の剥片の右側縁末端部(12)を折り取った後、折断面中央に使用痕と思われる微細な剥離痕が認められる(接合資料I-2)。緑色珪質頁岩製。

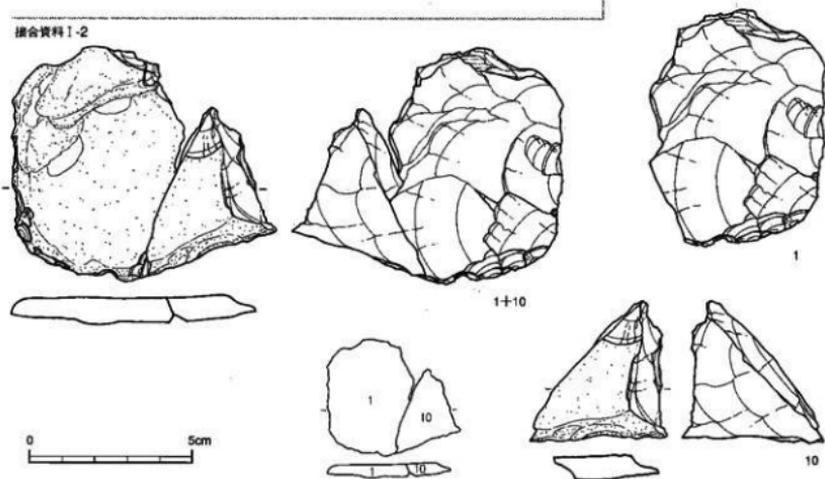
剥片 (第7図4～第9図12)

4～12は剥片である。3・6は頁岩製、5・8・9・10は頁岩I製、4・7・11・12は緑色珪質頁岩製である。そのうち5については10同様、1を整形する際に折断されたものと考えられる。また8・9については表面に自然面を有する厚みのある横長の剥片で、打面を90度転位させて剥出されているが、どちらも剥離の際、垂直割れを起こしている(接合資料I-1)。11も垂直割れの資料で、2→11と連続して剥出する際、生じたものと考えられる(接合資料I-3)。

接合資料 1-1

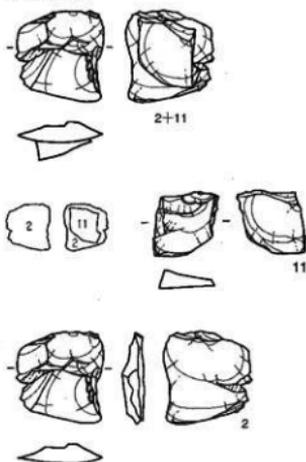


接合資料 1-2

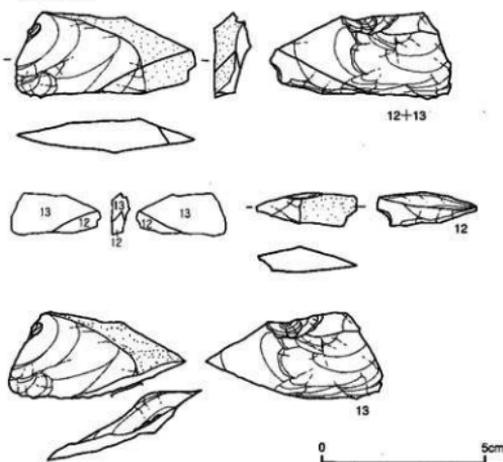


第 8 图 第 I 文化層石器実測図(2)(S=2/3)

接合資料 I-3



接合資料 I-4



第9図 第I文化層石器実測図(3)(S=2/3)

第2表 第I文化層石器計測表

図面 番号	文化層	注記番号	器 種	グリップ	部位	ブロック	石 材	接合 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
1	I	XIa層-5	スクレイパー	F-2	XIa		頁 岩 I	I-2	7.20	5.20	1.30	45.1	
2	I	XIa層-15	二次加工剥片	F-2	XIa		緑色珪質頁岩	I-3	2.80	2.60	0.75	4.7	
3	I	XI層-2	剥 片	F-3	XI		頁 岩		2.65	2.20	1.09	3.8	
4	I	X層-123	剥 片	E-3	IXc		緑色珪質頁岩		7.90	4.20	2.20	57.1	
5	I	XIa層-18	剥 片	F-2	XIa		頁 岩 I		5.60	3.20	1.00	12.8	
6	I	XI層-3	剥 片	F-3	XI		頁 岩		4.07	5.70	1.40	21.5	
7	I	XI層-9	剥 片	F-2	XI		緑色珪質頁岩		6.10	2.85	2.10	21.4	
8	I	XI層-5+ XIa層-9	剥 片	F-3 F-2	XI XIa		頁 岩 I	I-1	3.35	5.30	1.30	27.8	
9	I	XIa層-8+ XIa層-11	剥 片	F-2	XIa		頁 岩 I	I-1	3.70	6.45	1.40	28.5	
10	I	XI層-10	剥 片	F-2	XI		頁 岩 I	I-2	4.40	4.25	0.80	11.4	
11	I	XIa層-2	剥 片	F-2	XIa		緑色珪質頁岩	I-3	1.90	2.00	0.65	2.1	
12	I	XIa層-3	剥 片	F-2	XIa		緑色珪質頁岩	I-4	0.95	3.00	0.80	2.0	
13	I	XI層-6	使用痕剥片	F-2	XI		緑色珪質頁岩	I-4	2.60	5.20	1.18	12.5	

2. 第Ⅱ文化層

第Ⅱ文化層の調査では、後述する第Ⅲ文化層調査部分を中心に掘り下げを行ない、最終的な調査面積約680㎡を測る。石器・礫合わせて136点が出土し、基本的にはⅨc層下部からⅩ層が主体の出土層位になる（接合等でⅨb層出土のものも・部含む）。

また石器・礫のまとまりが3箇所で見られ、第Ⅰ文化層と第Ⅲ文化層のものと分布域が重なりを見せない。特徴的な石器としてはブロック1で確認されている台形礫石器がある。

(1) 礫群 (第11図)

礫は66点 (13.908kg) 確認されており、その分布はE-3グリッドで散漫ながら広範囲と小範囲のまとまりが認められ、それらを中心に周辺に約5mの範囲にまばらに広がる。また、それ以外ではB-4グリッド南東部とB-5グリッド南西部で少量の礫が確認されている。これらのうち前者の2箇所の礫のまとまりを調査中および整理段階で礫群（礫群1・2）に認定した。そのうち礫群1については調査中、図化を行なったが、礫群2は調査の都合上、位置等の記録に留めた。

礫群1は31点 (33.938kg) の砂岩礫で構成され、5.4m×5.1mの範囲に礫が散漫に分布し、ブロック1と分布が重なる。そのうち西側に完形のもの（7点・1点のみ赤化）が分布する。構成礫の約7割が赤化し、中には煤が付着するものも認められた。礫間の接合は6個体分（1個体のみ完形）あり、いずれも赤化している。そのうち1個体については北東約7.2m先の礫（1.064kg）と接合する。

礫群2は8点 (0.997kg) の砂岩礫で構成され、2.2m×1.5mの範囲に散漫な状態で分布する。いずれも砂岩で赤化・破碎しており、接合と礫の特徴により2個体分になる。そのうち1個体については北東約5.4mの礫（0.319kg）と接合する。

(2) 石器 (第10～14図)

石器は70点を確認し、E-3グリッドとC-2グリッド北側の2箇所ですり器集中（ブロック1・2）が認められ、それらの周囲にもまばらに点在する。また、それ以外ではB-5グリッド南西部でスクレイパーが2点確認されている。

石材は流紋岩（3点・48.3g）、頁岩（17点・1,197.5g）、黒曜石（Ⅰ類20点・23.9g、Ⅱ類3点・1.9g）、チャート（26点・145g）が利用されている。

ブロック (第10図)

ブロック1は7.5m×a×約5.8mの範囲内に46点の石器で構成され、チャートⅠと黒曜石Ⅰ製のものが主体となる。石器組成は台形礫石器1点、スクレイパー4点、剥片32点、砕片6点、石核3点であり、接合資料は5例（チャートⅠ製）確認されている。なお、礫群1とは分布が重なる。

ブロック2は約3.5m×約0.5mの小範囲内で9点の石器で構成され、流紋岩Ⅰと頁岩製で構成される。石器組成はスクレイパー1点、剥片7点、石核1点である。

台形礫石器 (第12図14)

14は幅広い剥片を用いて、打面を横位に置き、両側縁等に両面から平坦剥離を行っている。平面形は逆三角形を呈する。黒曜石Ⅰ製。

スクレイパー (第12図15~18・20~21)

15・16・18はエンドスクレイパーである。ともに厚みのある剥片を素材として15・16は打面側に加工を行い、刃部を形成している。それに対し、18は末端部に刃部を作り出している。17はサイドスクレイパーで縦長剥片の右側面から下部にかけて主に表面より加工を施す。打面は石核から剥出される際、欠損したものと考えられる。全体的に赤変しているが、調整を加えた部分と色調が異なることから、それ以前に熱を受けたものと思われる。20・21は小型のサイドスクレイパーで黒曜石I類製である。どちらも片側面から下部にかけて刃部を作り出している。

楔形石器 (第12図19)

19は黒曜石I類製で縦長剥片を素材にしていると考えられ、対向する縁辺に両極打法と考えられる加工痕が認められることから楔形石器と判断した。

剥片 (第12図23~24、第13図30~36)

22や23等の縦長剥片が一定量認められる他、不定形なものや幅広、横長等の剥片もみられる。

石核 (第12図25~28、第13図29)

25~28は黒曜石I類製、29は流紋岩I製である。そのうち28は打面を固定して小口部分や広い面を作業面にして剥片を剥出している。また28・29は打面を頻繁に転位させながら、主に幅広の剥片を剥出している。

その他

図化を行っていないが、台石の可能性のあるものと原石が1点ずつ出土している。

台石は砂岩製で最大長31.4cm、最大幅21.5cm、最大厚9.2cm、重さ8.9kgを測る楕円形の扁平な碟で、平坦面をもつが明瞭な磨痕等は認められない。周辺には遺物等の出土が認められないことから検討を要す。

また原石は12.4cm×10.7cmの円形の扁平碟(重さ1.048kg)で頁岩製である。

接合資料 (第13図30・31、第14図)

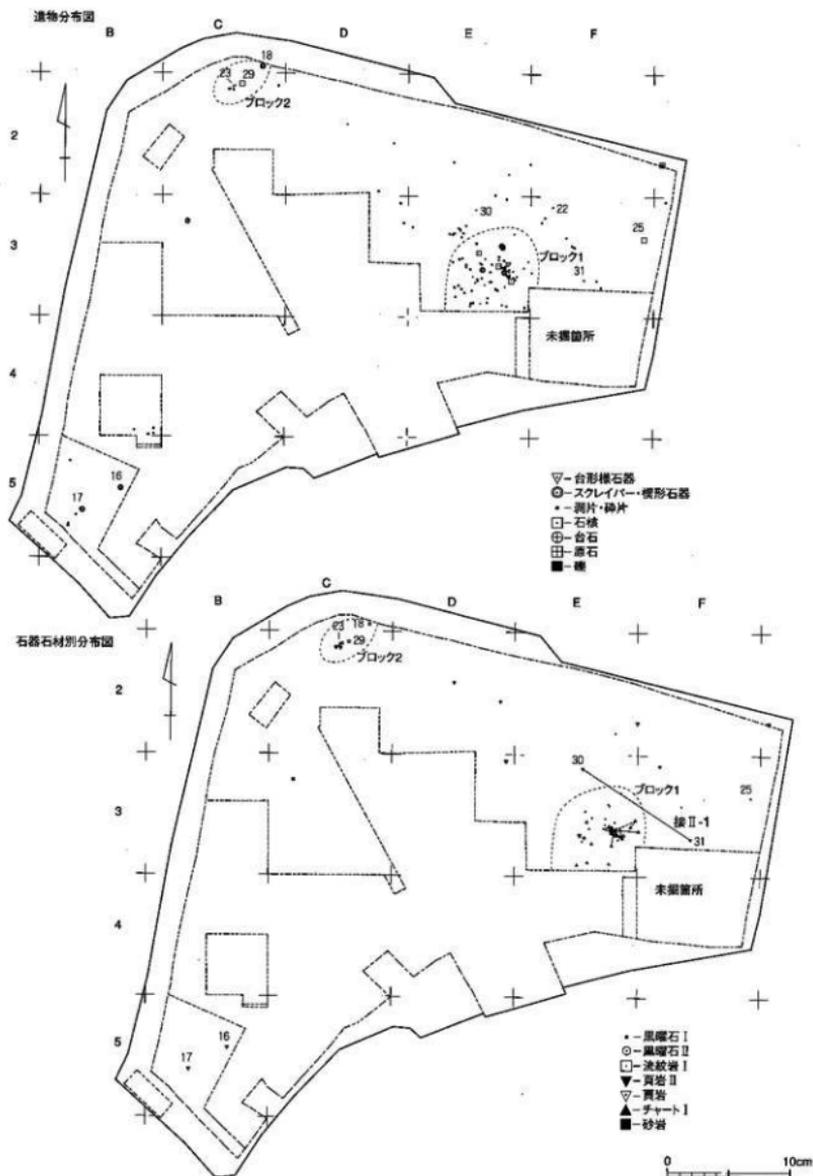
接合資料については6例(接合資料II-1~II-6)確認されている。そのうち、接合資料II-1が頁岩II類製でブロック外接合、接合資料II-2~II-6はチャートI類製で、ブロック1内での接合である。

接合資料II-1は剥片同士のもので、打面を変えず、打点を横にずらしながら30→31と剥出作業を行っている。これらの剥片を剥出以前には最低、4枚の剥片を剥出している。

接合資料II-2は剥片4点で構成されており、32を剥出したのち、打点を右側面に移し、打点を後進させながら33→34→35と連続的に剥出作業を行っている。

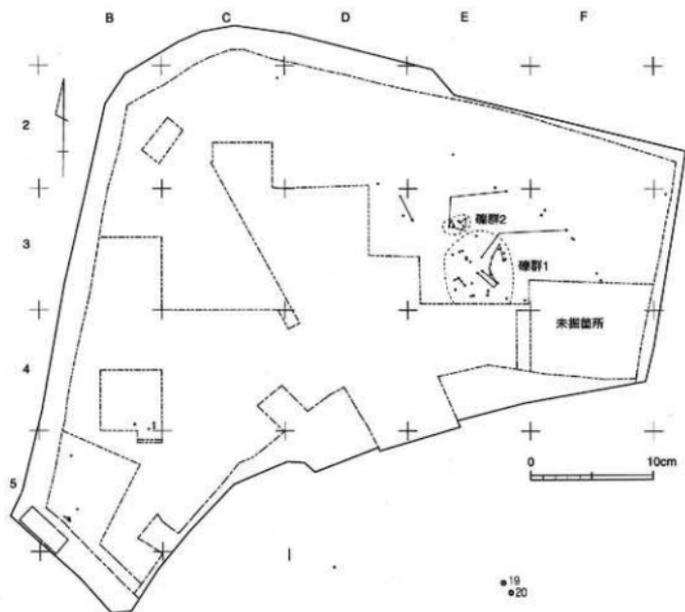
接合資料II-3はスクレイパー(15)1点と剥片(36)1点で構成されている。36は刃部作出時に偶発的に割れたものと考えられる。

その他、図化を行なわなかったが、接合資料II-4~II-6については剥片同士の資料で、接合資料II-4は剥片剥離の際、垂直割れを起こしたものである。接合資料II-5は縦長剥片2点で構成し、打点を後方にずらしながら剥出されたものである。接合資料II-6は3点で構成され、幅広の剥片を剥離後、打面を90度入れ替え、縦長剥片を剥離している。どちらも剥出時に垂直割れを起こしている(うち幅広の剥片が割れ面同士の接合)。

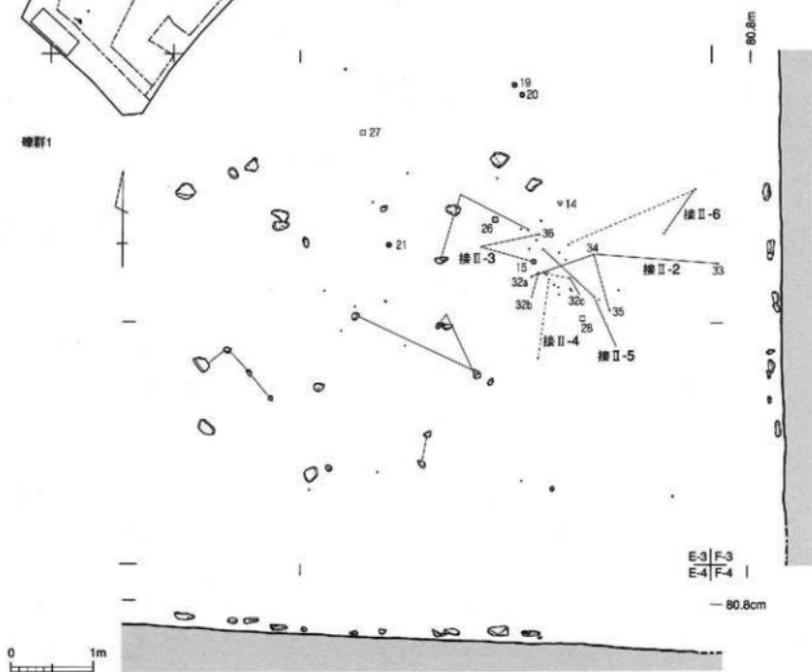


第10図 第Ⅱ文化層遺物分布図および石器石材別分布図(S=1/400)

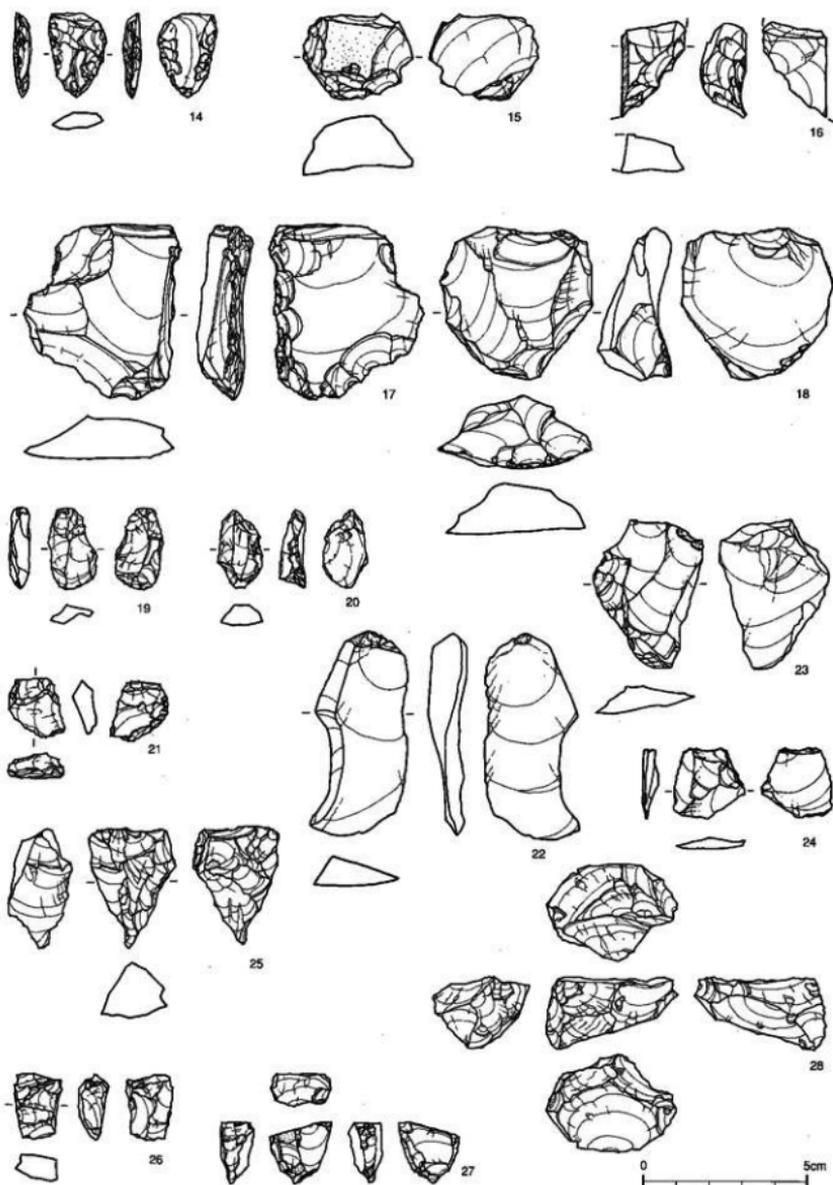
礎分布図



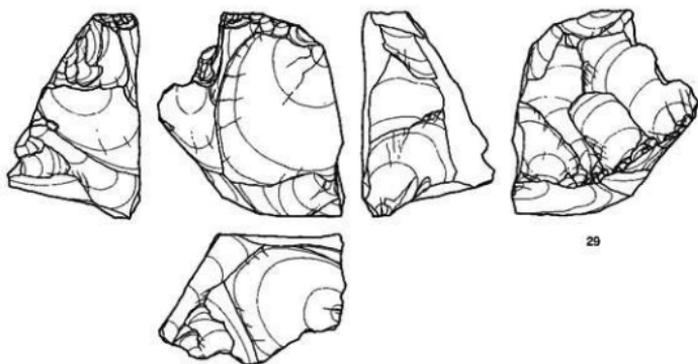
礎群1



第11図 第Ⅱ文化層礎分布図(S=1/400)および礎群1実測図(S=1/60)

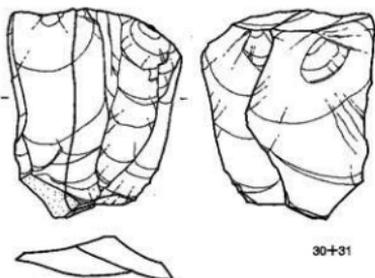


第12图 第Ⅰ文化层石器实测图(1)(S=2/3)

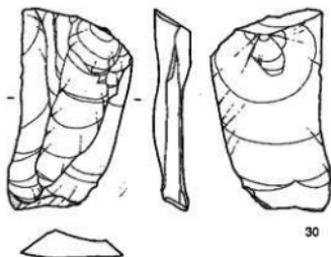
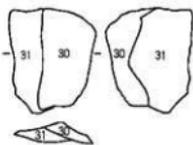


29

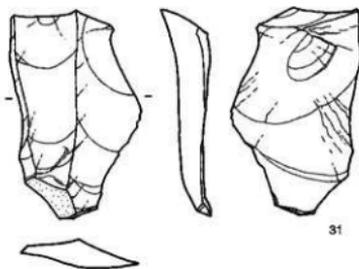
接合資料Ⅱ-1



30+31



30

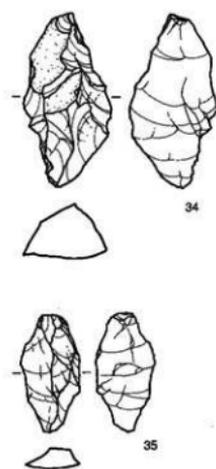
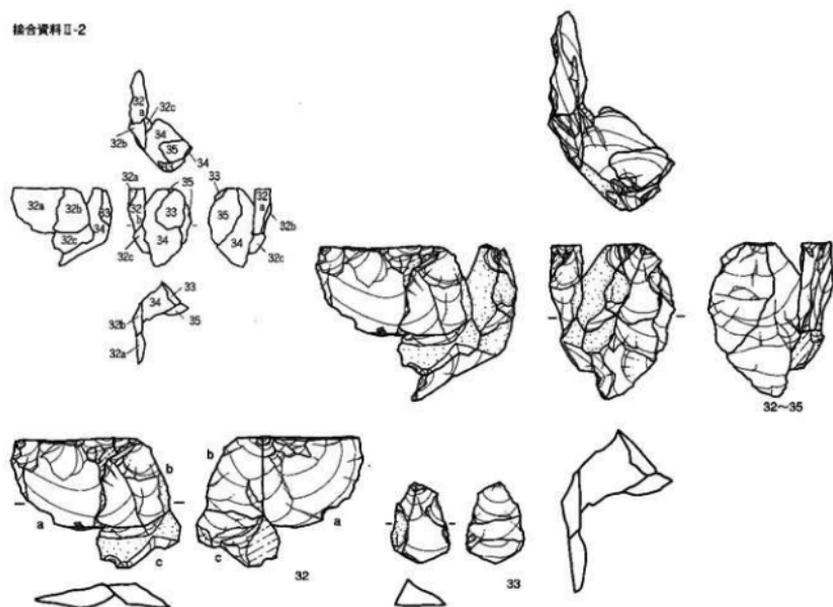


31

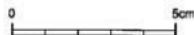
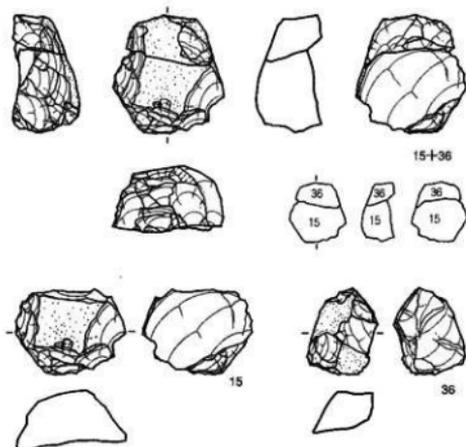


第13図 第Ⅱ文化層石器実測図(2)(S=2/3)

接合資料Ⅱ-2



接合資料Ⅱ-3



第14图 第Ⅱ文化層石器実測图(3)(S=2/3)

第3図 第Ⅱ文化層石器計測表

図面 番号	文化層	注記番号	器 種	グリッド	層位	ブロック	石 材	接合 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
14	Ⅱ	Ⅱc層-399	台形鏃石器	E-3	Ⅱc	1	黒曜石Ⅰ		2.60	1.80	0.55	2.10	
15	Ⅱ	X層-46	スクレイパー	E-3	X	1	チャートⅠ	Ⅱ-3	2.60	3.30	2.02	18.50	
16	Ⅱ	X層-1	スクレイパー	B-5	X		頁岩		2.90	1.93	1.38	7.30	
17	Ⅱ	X層-2	スクレイパー	B-5	X		頁岩		5.40	4.75	1.70	39.40	
18	Ⅱ	Ⅱc層-212	スクレイパー	C-1	Ⅱc	2	流紋岩Ⅰ		4.70	4.60	2.25	36.00	
19	Ⅱ	Ⅱc層-107	楔形石器	E-3	Ⅱc	1	黒曜石Ⅰ		2.53	1.50	0.68	1.70	
20	Ⅱ	Ⅱc層-389	スクレイパー	E-3	Ⅱc	1	黒曜石Ⅰ		2.40	1.40	0.80	2.00	
21	Ⅱ	X層-53	スクレイパー	E-3	X	1	黒曜石Ⅰ		1.70	1.84	0.77	2.10	
22	Ⅱ	X層-13	剥片	F-3	X		頁岩		6.30	2.90	1.15	4.00	
23	Ⅱ	X層-5	剥片	C-2	X	2	流紋岩Ⅰ		4.55	3.30	1.35	11.50	
24	Ⅱ	X層-9	剥片	C-2	X	2	頁岩		2.15	2.15	0.50	2.00	
25	Ⅱ	Ⅱc層-395	石核	F-3	Ⅱc		黒曜石Ⅰ		3.65	2.65	2.00	12.00	
26	Ⅱ	Ⅱc層-396	石核	E-3	Ⅱc	1	黒曜石Ⅰ		2.00	1.43	0.95	2.70	
27	Ⅱ	Ⅱc層-390	石核	E-3	Ⅱc	1	黒曜石Ⅰ		1.83	1.85	1.05	2.70	
28	Ⅱ	X層-35	石核	E-3	X	1	黒曜石Ⅰ		2.51	4.30	1.50	10.90	
29	Ⅱ	X層-4	石核	C-2	X	2	流紋岩Ⅰ		6.22	5.68	4.05	138.60	
30	Ⅱ	X層-19	剥片	E-3	X		頁岩	Ⅱ-1	6.10	3.70	1.13	21.50	
31	Ⅱ	X層-14	剥片	F-3	X		頁岩	Ⅱ-1	6.35	3.95	1.50	20.50	
32	Ⅱ	X層-38+X層-44+X層-45	剥片	E-3	X	1	チャートⅠ	Ⅱ-2	4.00	3.10	1.20	14.60	
33	Ⅱ	Ⅱb層-256	剥片	F-3	Ⅱb	1	チャートⅠ	Ⅱ-2	2.45	1.75	0.93	3.00	
34	Ⅱ	X層-31	剥片	E-3	X	1	チャートⅠ	Ⅱ-2	5.35	2.70	1.88	15.10	
35	Ⅱ	X層-32	剥片	E-3	X	1	チャートⅠ	Ⅱ-2	3.65	1.80	0.76	3.70	

3. 第Ⅲ文化層

第Ⅲ文化層の調査では、第Ⅱ章第2節でも述べたとおり、人力+重機でⅦ～Ⅷ層を除去し、2・3列の東に緩やかに傾斜する部分を中心に掘り下げを行なった。なお第15図のように、同文化層調査範囲から外れて出土しているものについては、ほとんどがⅡa層精査時に出土したものである。同文化層の調査面積は約875㎡である。

同文化層については礫群と遺物の出土レベルのピークが2面(Ⅱb層とⅡc層)みられる部分も認められるが、石材の特徴や分布域が重なること等から細分せず、同文化層とみなした。またⅧ層下部のものについては、本来、始良Tn火山灰上位になるが、出土した範囲にⅧ層が認められないことや出土レベルが下層のものと同様に分離できないこと、また一部で異層間同士の接合や石材の特徴が類似すること等から同文化層に含めた。

(1) 礫群 (第16図)

礫は調査区北側2～3列の比較的傾斜の緩やかな部分で251点(77.584kg)確認され、10基の礫群が確認されている。それらはB～C列(礫群7～12)とD列中央～F列西側(礫群3～6)の2群に分かれる。これらの礫群のうち、礫群3以外は、散漫な状態で分布する。調査の都合上、礫群3の礫集中部のみ図化を行い、他は位置等の記録に留めた。礫は持ち帰り、接合作業を行なったところ、礫群内で完結するものが3基のみで、他は礫群間で接合が認められる。

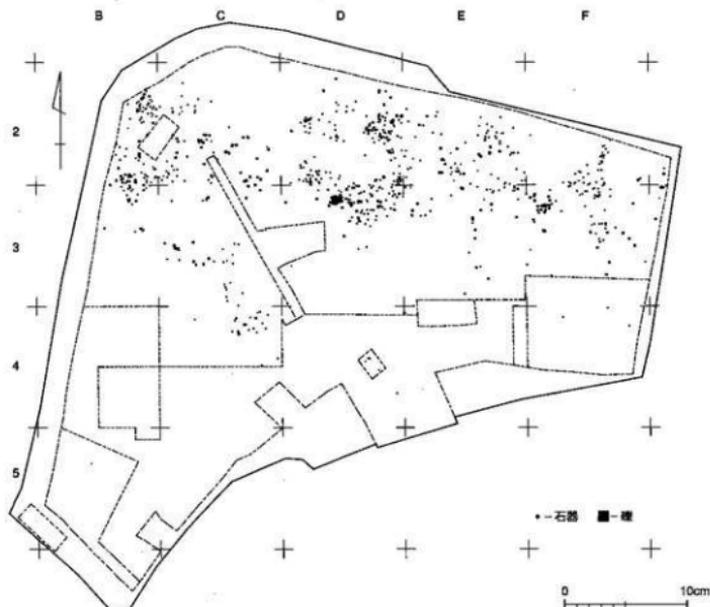
礫群3はD・E-2・3グリッド、Ⅱb層下部からⅡc層にかけて検出。72点(1.948kg)の砂岩礫で構成され、約9.2m×約3.5mの範囲に広がる。そのうち西側には礫が集中し(約1.5m×約1.3m、60点)、

ブロック10と分布が重なる。構成礫の約9割が赤化しており、集中部および東側では、完形のもの（総数14点、うち12点が赤化）が認められる。礫間の接合は集中部、8例認められ、そのうち1個体のみ完形になる。また炭化物は集中部でわずかに認められた。

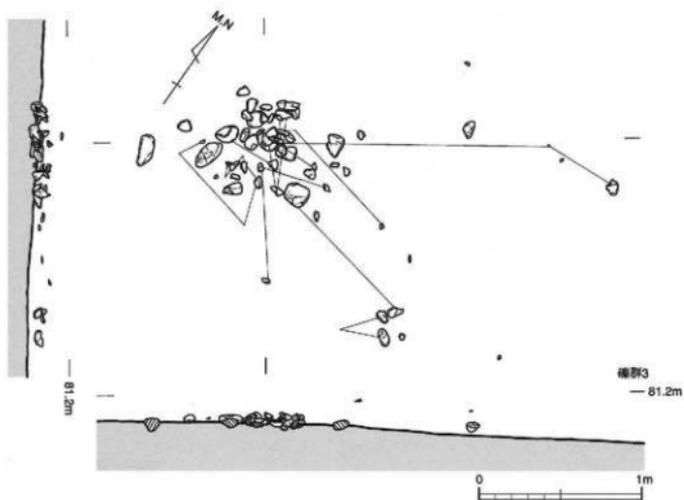
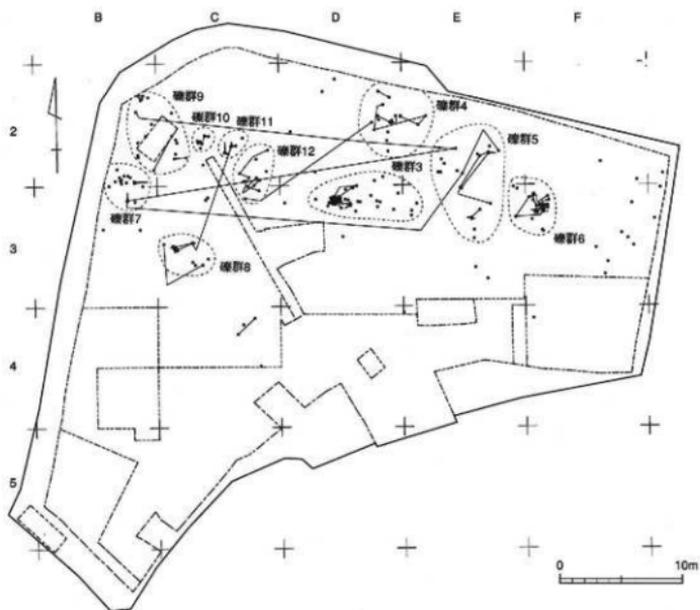
礫群4はD・E-2グリッド、大半がIXb層で検出し、礫群3の北側に位置する。約5.5m×約4.8mの範囲に散漫な状態で分布し、ブロック8の分布とほぼ重なる。18点（3.684kg）の砂岩礫で構成され、1点のみ完形である。約半数に赤化があまり認められない。礫群内の接合は2例、礫群間（礫群12）1例みられた。

礫群5はE-2グリッド、大半がIXb層で検出。約8.2m×約5.4mの範囲に散漫な状態で分布し、大半がブロック5の分布と重なる。23点（10.73kg）の砂岩礫で構成され、そのうち約1割しか赤化が認められない。2点のみ完形（1点が赤化）で、他は破砕している。礫群内接合は2例で、うち1例が完形になる。また礫群間では1例みられ、約27m西に位置する礫群7・9と接合する。

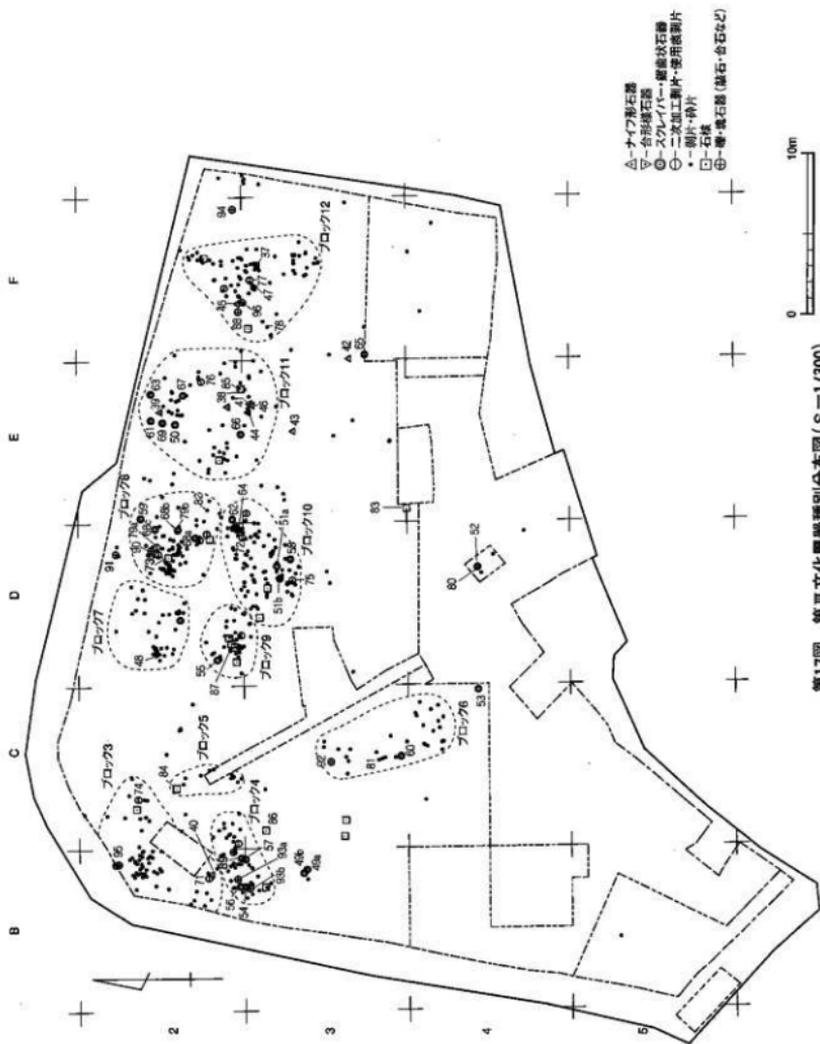
礫群6はE・F-3グリッド、IXc層で検出。約4.4m×約3.2mの範囲にやや散漫な状態で分布し、一部がブロック11・12の分布と重なる。27点（3.33kg）の砂岩礫で構成され、約7割に赤化が認められる。礫はすべて破砕しており、礫群内の接合は3例（うち2例は赤化礫）である。



第15図 第Ⅲ文化層遺物分布図(S=1/400)



第16図 Ⅲ文化層礫群分布図(S=1/400)および礫群3実測図(S=1/30)



第17図 第三文化層器種別分布図 (S=1/300)

礫群7はB-2・3グリッド、Ixc層で検出。約3.0m×約2.4mの範囲にやや散漫な状態で分布し、ブロック4とブロック3の一部と分布と重なる。17点(2.716kg)の砂岩礫で構成され、そのうち約1割しか赤化が認められず、礫の約6割が完形もしくは完形に近い状態で出土している。礫間接合は礫群内1例(赤化礫同士)、礫群間(礫群5・9)で1例である。

礫群8はC-3グリッド中央西側、Ixb層下部からIxc層にかけて検出。約4.3m×約2.3mの範囲に散漫な状態で分布し、東側でブロック6と接する。17点(2.085kg)の砂岩礫(すべて破砕礫)で構成され、そのうち約2割が赤化している。礫間接合は礫群内2例(そのうち赤化礫が同上1例)、礫群間(礫群11)で1例である。

礫群9はB・C-2グリッドに位置する。大半がIxc層で検出し、約6.82m+a×約4.4mの範囲に分布し、ブロック3とほぼ分布と重なる。礫群中央は縄文時代早期の陥し穴状遺構の調査のため、未掘だが、19点(5.863kg)の砂岩礫で構成され、そのうち約2割が完形である。赤化礫は5点出土しているが、そのうち2点は完形に近い状態で確認されている。礫間接合は礫群内3例(そのうち赤化礫が同上1例)、礫群間(礫群5・7)で1例ある。

礫群10はC-2グリッドに位置し、礫群9・11に挟まれるように検出した。大半がIxb層で出土し、約1.5m×約1.2mの小範囲に取まり、ブロック5と一部分が重なる。7点(1.338kg)の砂岩礫(破砕礫)で構成され、そのうち約9割が赤化している。礫間接合は1例(6点)ある。

礫群11もC-2グリッドに位置し、両側を礫群10・12に挟まれるような形で検出した。Ixb層からIxc層で出土し、約2.1m×約0.5mの小範囲に取まる。7点(1.993kg)の砂岩礫で構成され、1点のみ完形で、他は破砕礫(2点のみ赤化)である。礫間接合は礫群内1例(赤化礫)、礫群間(礫群8)で1例ある。

礫群12はC-2・3グリッドに位置する。礫は散漫な状態で分布し、13点(2.989kg)の砂岩礫で構成(破砕礫)、そのほとんどがIxb層で出土する。約9割に赤化が認められるが、一部不明瞭なものもある。礫間接合は礫群内1例(赤化礫)、礫群間(礫群4)1例みられる。

(2) 石器

石器は648点を確認し、石材は流紋岩(185点・3,073.6g)、ホルンフェルス(245点・4,379g)、頁岩(126点・2,969.5g)、珪質頁岩(3点・10.3g)黒曜石(16点・22.5g)、チャート(62点・571.7g)、溶結凝灰岩(3点・74.4g)、砂岩(11点・23,698.5g)が利用されている。

ブロック(第17図、第32図、第36図、第52図、第4表)

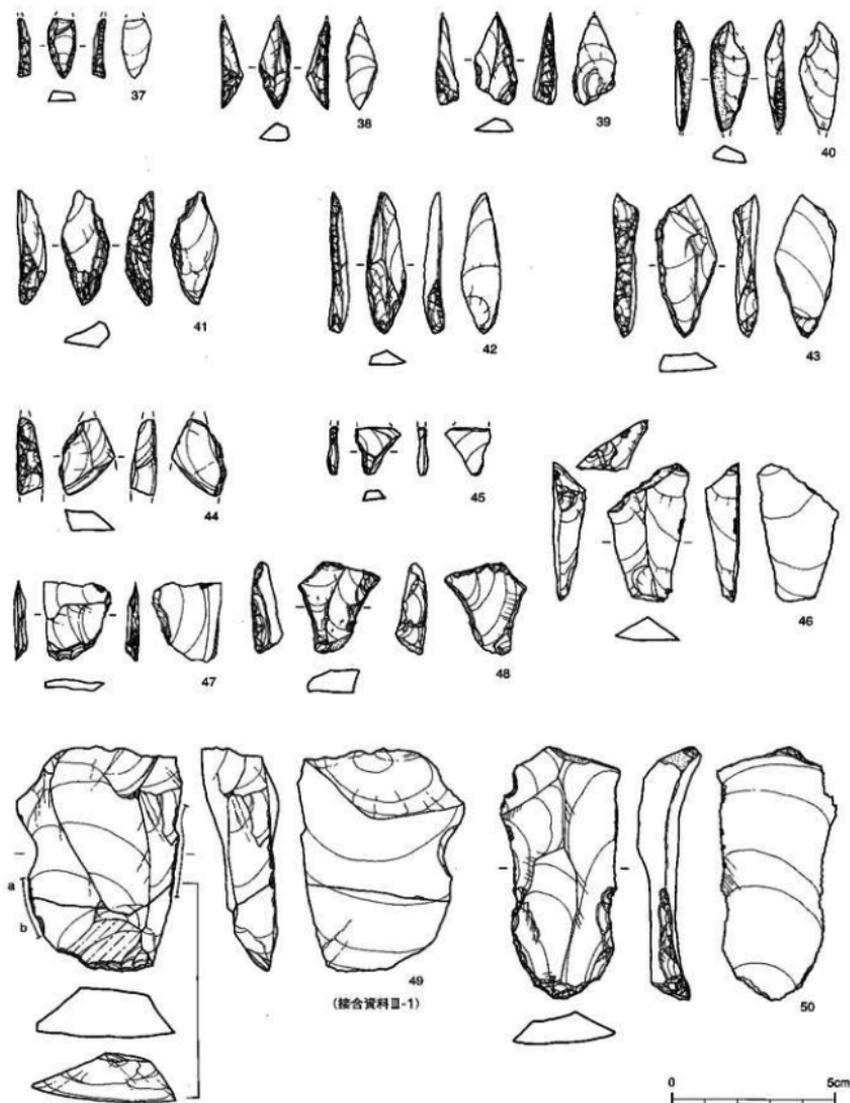
ブロックは10箇所を確認し、その規模はブロック5のように約4.3m×約1.6mの小規模のものからブロック11のように径約8mの大規模のものまでみられる。分布はおおまかにみるとB・C-2グリッドに位置するブロック3～5とC-3・4グリッドかけて分布するブロック6、D～F-2・3区にかけて分布するブロック7～12の3群に分かれる。そのうちブロック7～10については中央に空白部を有する。石器接合はブロック6のみブロック内で完結する以外は、ブロック3とブロック4・ブロック5、ブロック7～8、ブロック11とブロック12と分布の近いもの同士でブロック間接合が認められるものやブロック4とブロック8のように約18m離れたところで接合するものも認められる。

第4表 第Ⅲ文化層ブロック別石器組成表

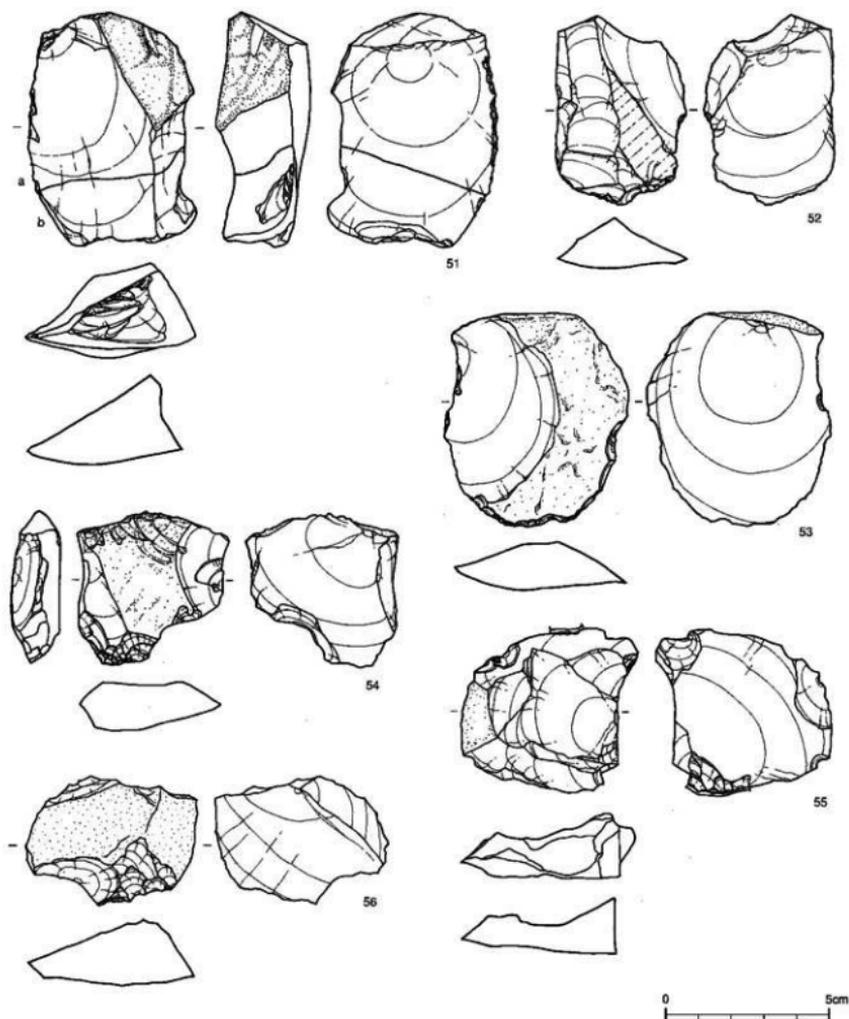
器種 ブロック	ナイフ形石器	台形鎌石器	スクレイパー	鋸歯状石器	二次加工剥片	使用痕剥片	剥片	砕片	石核	蔽石	凹石	磨石	台石	合計
ブロック3	1	0	0	0	2	0	53	3	1	1	0	0	1	62
ブロック4	0	0	4	0	1	0	42	0	1	1	0	2	0	51
ブロック5	0	0	0	0	0	0	11	0	1	0	0	0	0	12
ブロック6	0	0	1	0	0	0	31	0	0	0	1	0	0	33
ブロック7	0	1	1	0	0	0	38	1	0	0	0	0	0	41
ブロック8	0	0	4	0	2	2	73	0	2	1	0	0	0	84
ブロック9	0	0	1	0	0	1	38	0	4	0	0	0	0	44
ブロック10	0	0	5	0	1	2	86	5	2	0	0	0	0	101
ブロック11	5	0	5	1	0	1	55	1	2	0	0	0	0	70
ブロック12	2	1	0	0	0	2	76	1	2	1	0	0	1	86
ブロック外	2	0	5	1	0	0	49	1	4	1	0	0	1	64
合計	10	2	26	2	6	8	552	12	19	5	1	2	3	648

第5表 第Ⅲ文化層石材別石器組成表

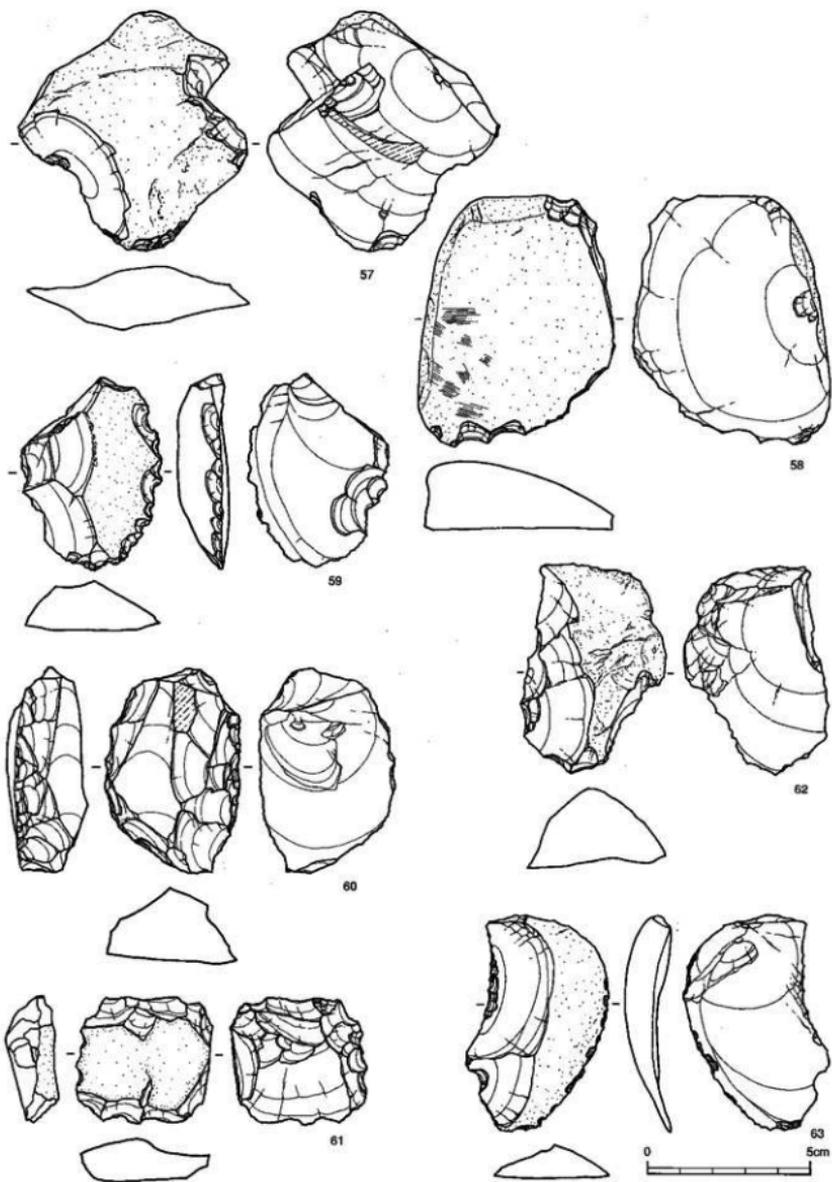
器種 石材	ナイフ形石器	台形鎌石器	スクレイパー	鋸歯状石器	二次加工剥片	使用痕剥片	剥片	砕片	石核	蔽石	凹石	磨石	台石	合計
流紋岩	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
流紋岩Ⅱ	1	0	2	1	0	1	86	3	4	0	0	0	0	98
流紋岩Ⅲ	1	0	0	0	0	0	11	0	1	0	0	0	0	13
流紋岩Ⅳ	1	0	2	0	2	0	25	0	0	0	0	0	0	30
流紋岩Ⅴ	0	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	0	0	8
流紋岩Ⅵ	0	0	1	0	0	0	30	1	0	0	0	0	0	32
溶結凝灰岩	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3
黒曜石Ⅰ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
黒曜石Ⅱ	1	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	6
黒曜石Ⅲ	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	8
ホルンフェルス	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ホルンフェルスⅠ	0	0	4	0	3	2	52	0	0	0	0	0	0	61
ホルンフェルスⅡ	5	0	6	0	0	3	112	2	3	0	0	0	0	131
ホルンフェルスⅢ	0	0	0	0	0	0	28	0	1	0	0	0	0	29
ホルンフェルスⅣ	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	13
ホルンフェルスⅤ	0	0	0	0	0	0	8	0	1	0	0	0	0	9
珪質頁岩	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
頁岩	1	0	3	1	0	2	53	1	4	0	0	0	0	65
頁岩Ⅲ	0	0	0	0	0	0	19	0	1	0	0	0	0	20
頁岩Ⅳ	0	0	4	0	0	0	33	1	0	0	0	0	0	38
チャート	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
チャートⅡ	0	0	0	0	0	0	28	3	1	0	0	0	0	32
チャートⅢ	0	1	1	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	27
砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	2	3	11
合計	10	2	26	2	6	8	552	12	19	5	1	2	3	648



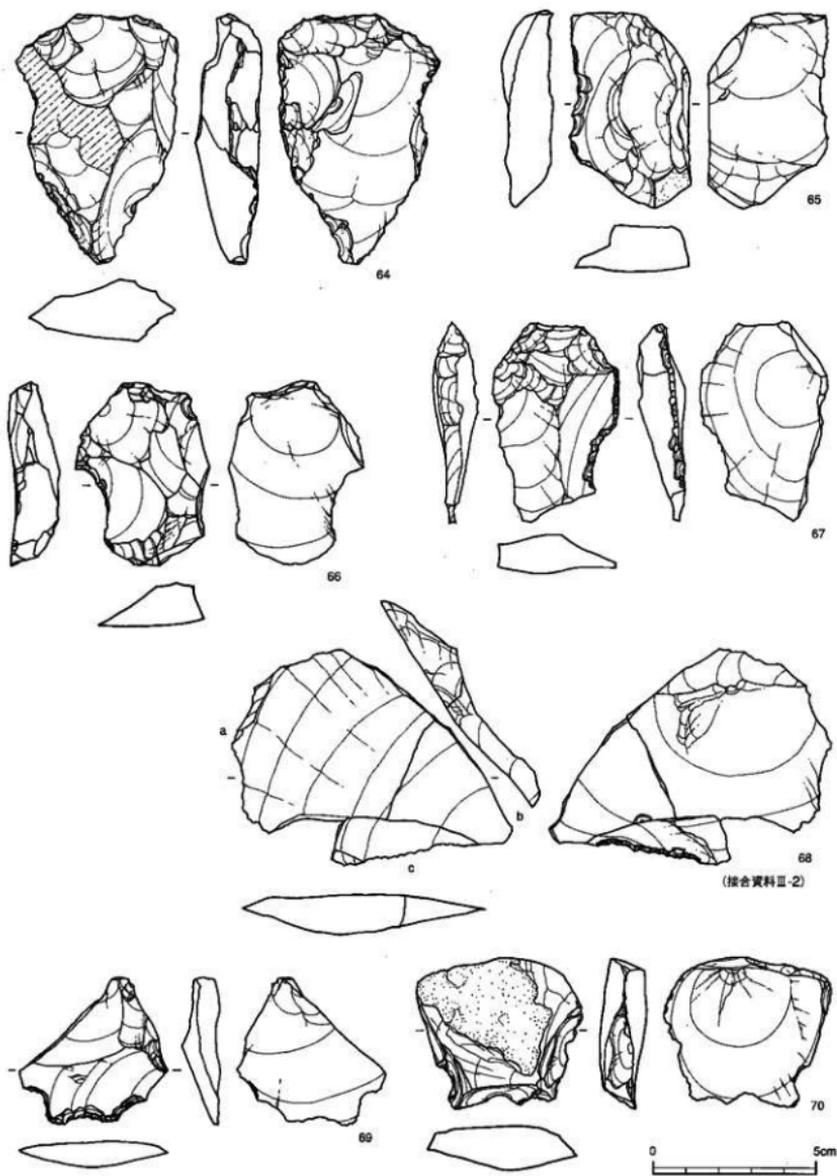
第18图 第Ⅲ文化磨石器实例图(1)(S=2/3)



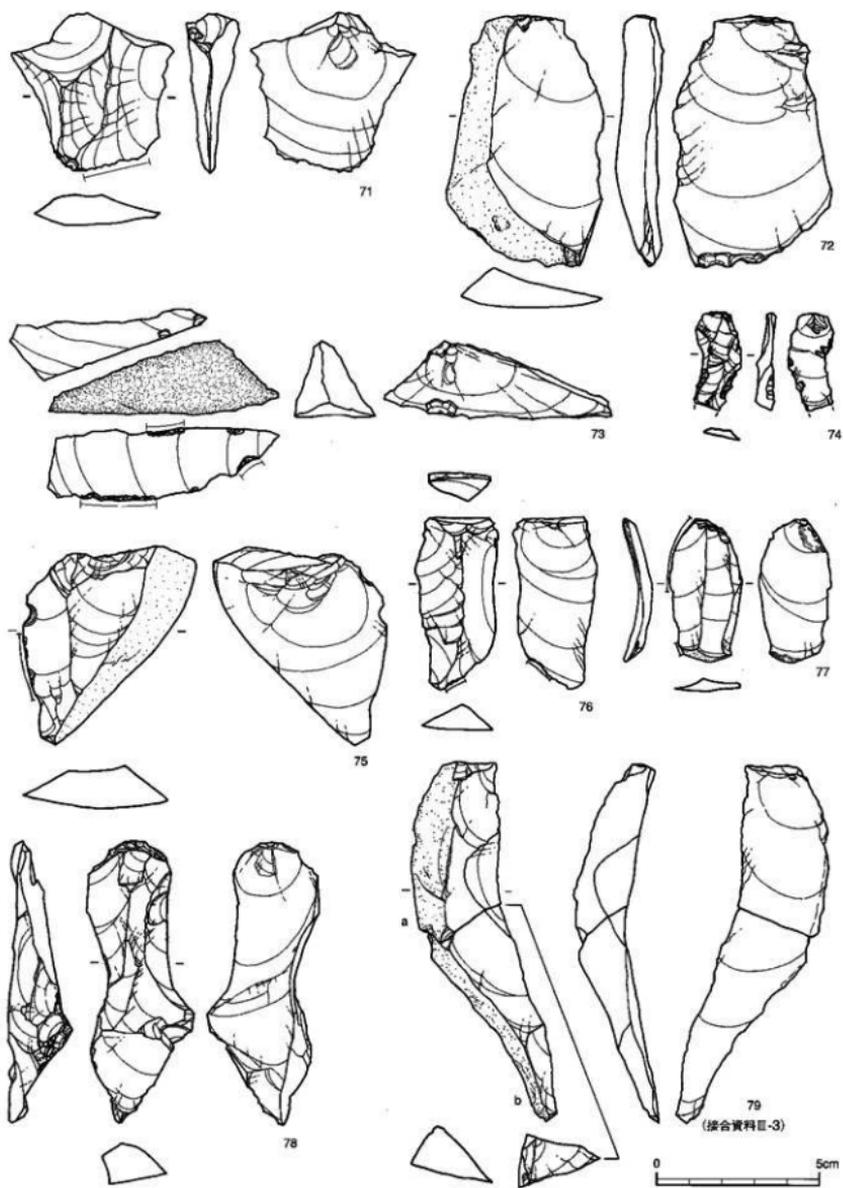
第19图 第Ⅲ文化层石器实测图(2)(S=2/3)



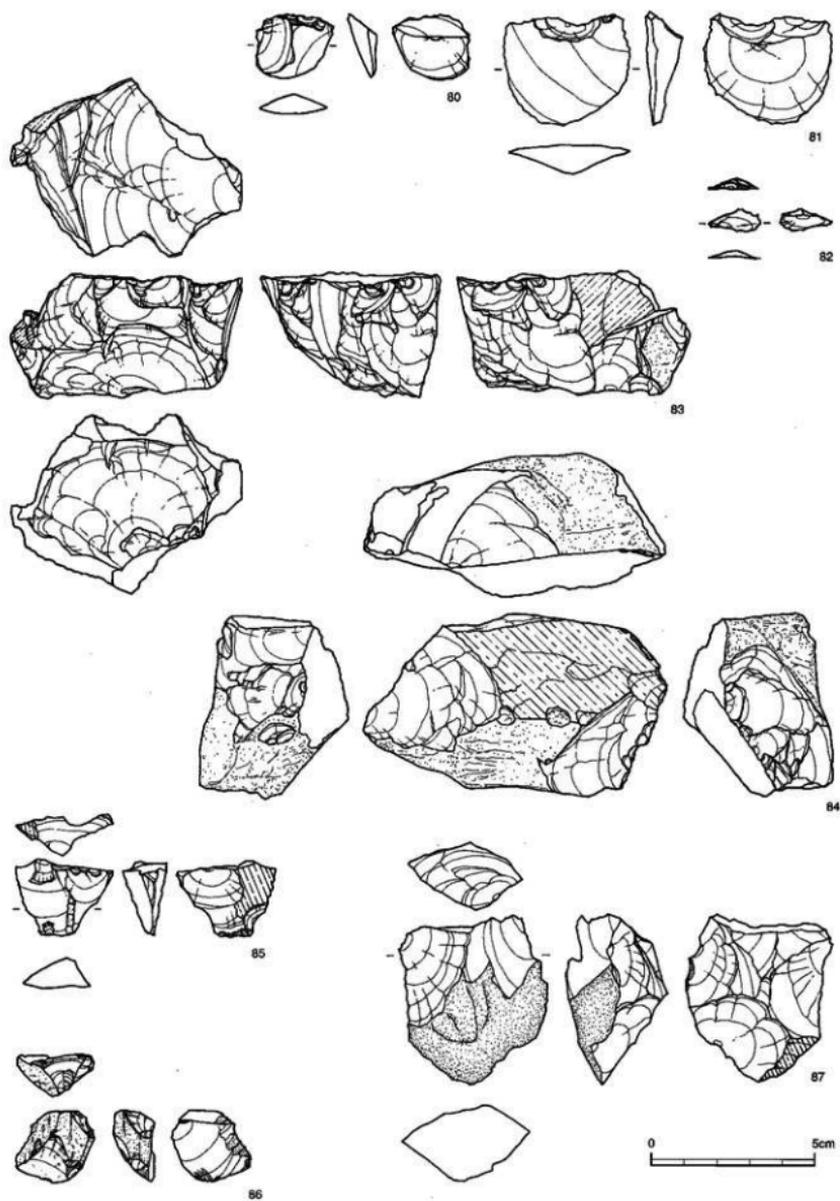
第20圖 Ⅲ文化層石器実測圖(3)(S=2/3)



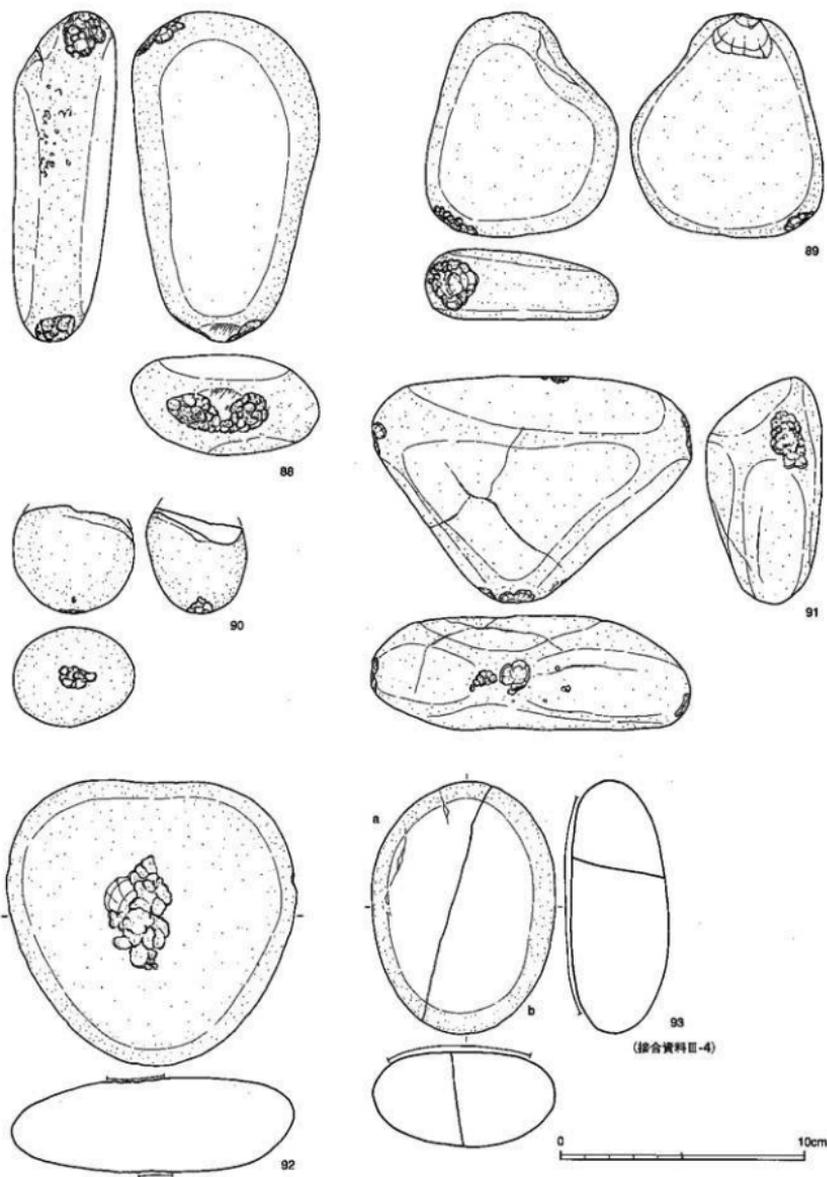
第21图 第Ⅲ文化层石器实例图(4)(S=2/3)



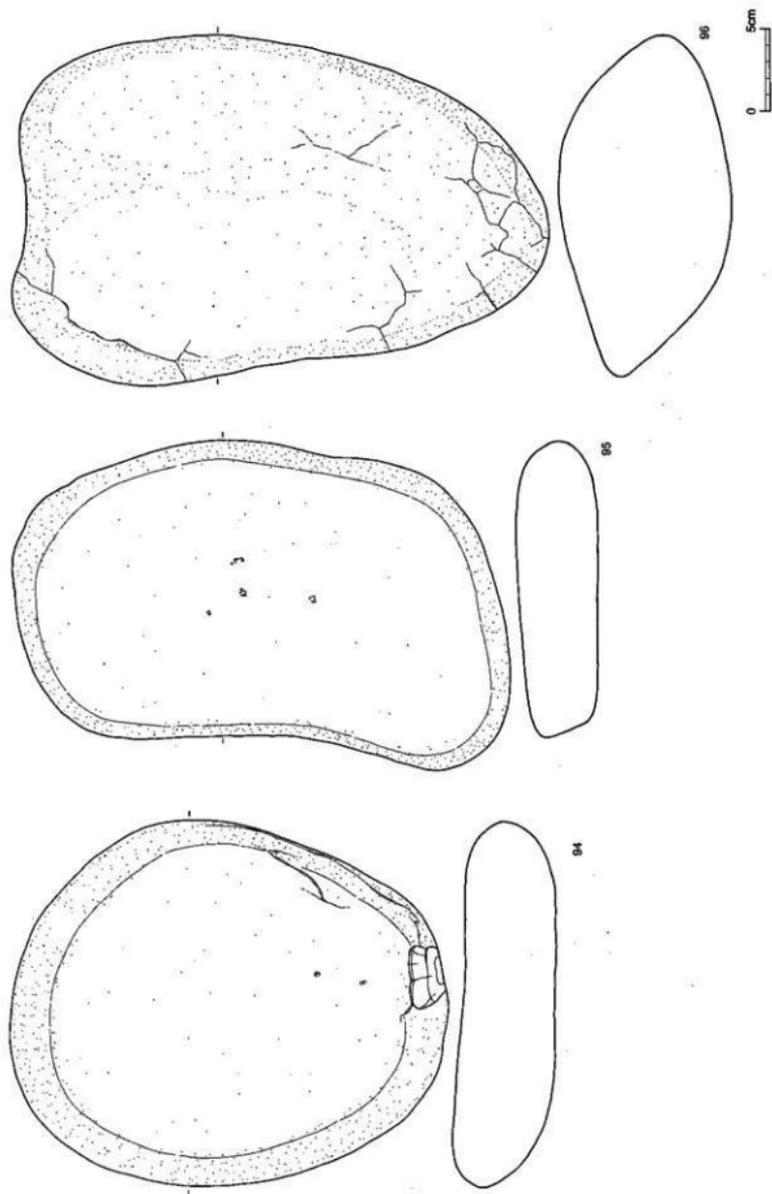
第22图 第Ⅲ文化層石器実測図(5)(S=2/3)



第23图 第Ⅲ文化层石器实测图(6)(S=2/3)



第24図 第Ⅲ文化層石器実測図(7)(S=1/2)



第25図 第五文化層石器実測図(8)(S=1/3)

ナイフ形石器 (第18図37~46)

37~43は二側縁加工のナイフ形石器で、小型で細身のもが目立つ。素材には縦長剥片を用い、打面を先端側におくもの(37・40・41)や基部側におくもの(38・39・42・43)が認められる。加工は大半が主要剥離面側より行なっているが、41や43のように表面からも加工を施すものもみられる。44は先端部及び基部が欠損しており、全体形が不明だが、41・43のように両面から加工を施している。45は不定形剥片を素材とし打面側を基部に置き、一側縁に主要剥離面側から加工を施す。先端部は欠損しているが全体形は三角形状を呈するものと考えられる。46は縦長剥片の打面側を折断後、主要剥離面から加工を行なう。部分加工のナイフ形石器とも考えられるが、加工が粗く、未製品の可能性も考えられる。

台形縁石器 (第18図47・48)

47は幅広の剥片を横位に置き、両側面を折断後、下部から右側面の下方にかけて、主要剥離面から加工を施している。48は打面再生剥片を用い、打面側を折断後主要剥離面から加工を施す。また刃部には微細な剥離痕が認められる。

スクレイパー (第18図49~第21図68)

49~61はエンドスクレイパー、62はその未製品である。比較的厚みがあり、表面に自然面を一部ないし、大半を有する縦長剥片や幅広の剥片等を好んで利用している。中には49のように剥片素材の石核を転用する例もみられる。刃部は49や51~54・57等のように末端部に刃部を形成したものや50のように打面側に刃部を作り出すもの等が認められる。また59は右側縁から下部、60は両側縁から下部にかけて刃部を形成する。なお、49・51には刃部とは別に側縁にそれぞれ使用痕と思われる微細な剥離が認められる。58の稜面左側中央から下部にかけて擦痕が認められる。

63~68はサイドスクレイパーである。63・65・66は縦長剥片を素材にして、片側縁に主要剥離面から連続的に加工を行ない、刃部を形成している。そのうち63の右側縁には微細な剥離が認められる。また64は石核素材のもので、左側縁を中心に加工を行ない、刃部を作り出している。67は左側面の剥離の様子から打面再生剥片を素材にしていると考えられる。68は剥片末端に刃部を形成する。接合面に節理が認められ、おそらく使用時に偶発的に折れたものと思われる(接合資料Ⅲ-2)。

鋸歯状石器 (第21図69・70)

どちらも幅広の剥片を素材に末端部に主要剥離面から加工を行ない、鋸歯状に刃部を作り上げている。69は比較的細かく剥離を施すのに対し、70のものは大まかな加工を入れている。

二次加工剥片 (第22図71・72・74)

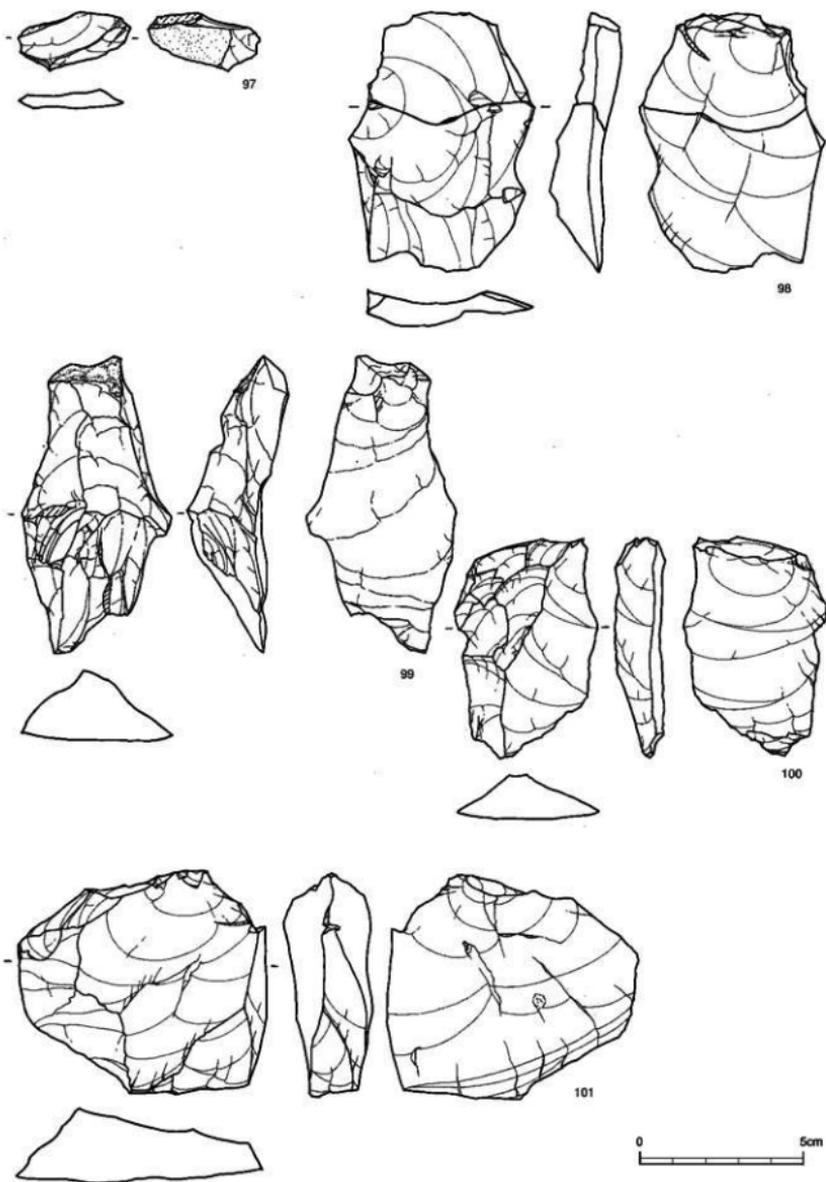
71には左側縁下部から先端の一部、72には先端、74には両側縁の一部に剥離が認められる。そのうち71の下部には使用痕が認められる。

使用痕剥片 (第22図73・75~77)

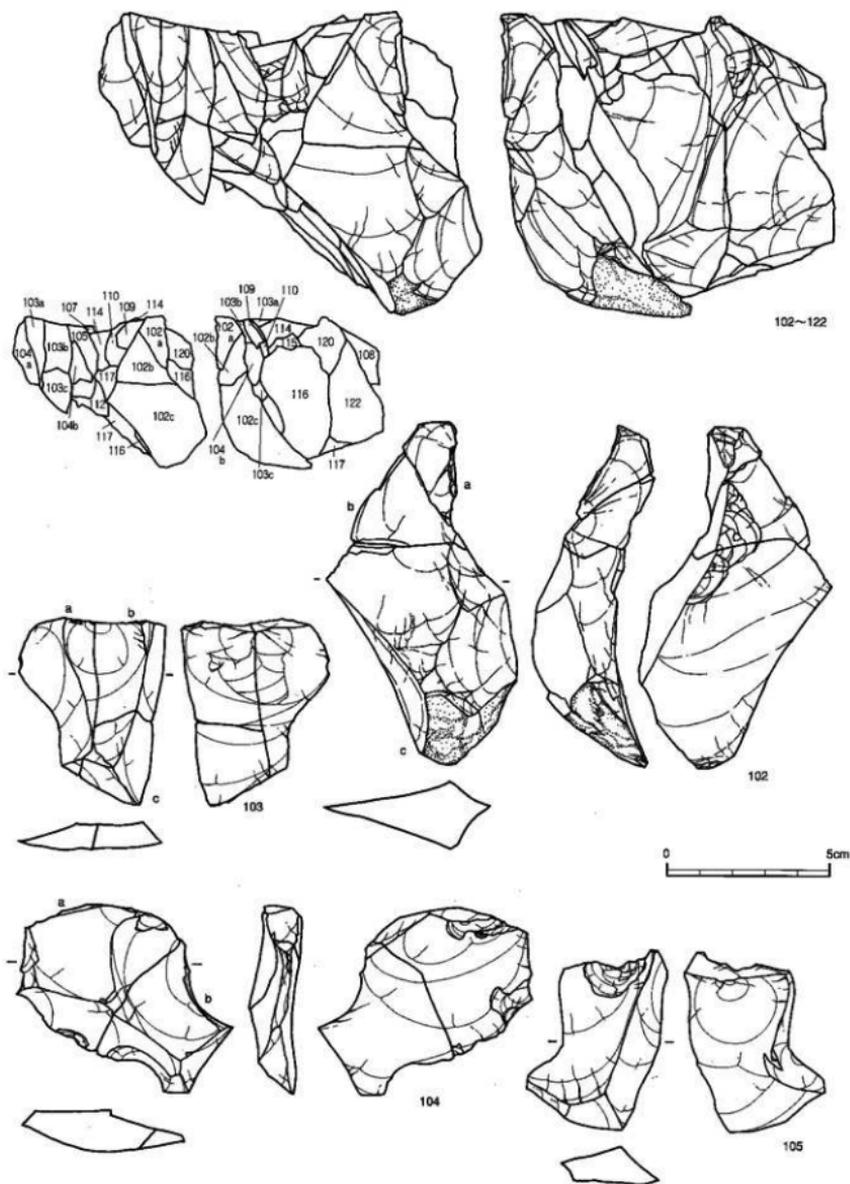
73は底面の両側縁、75・76は一側縁の一部に使用痕と思われる微細な剥離がみられるほか、77のように一側縁及び主要剥離面の上面、末端が摩耗しているものも認められる。

剥片 (第22図78~第23図82)

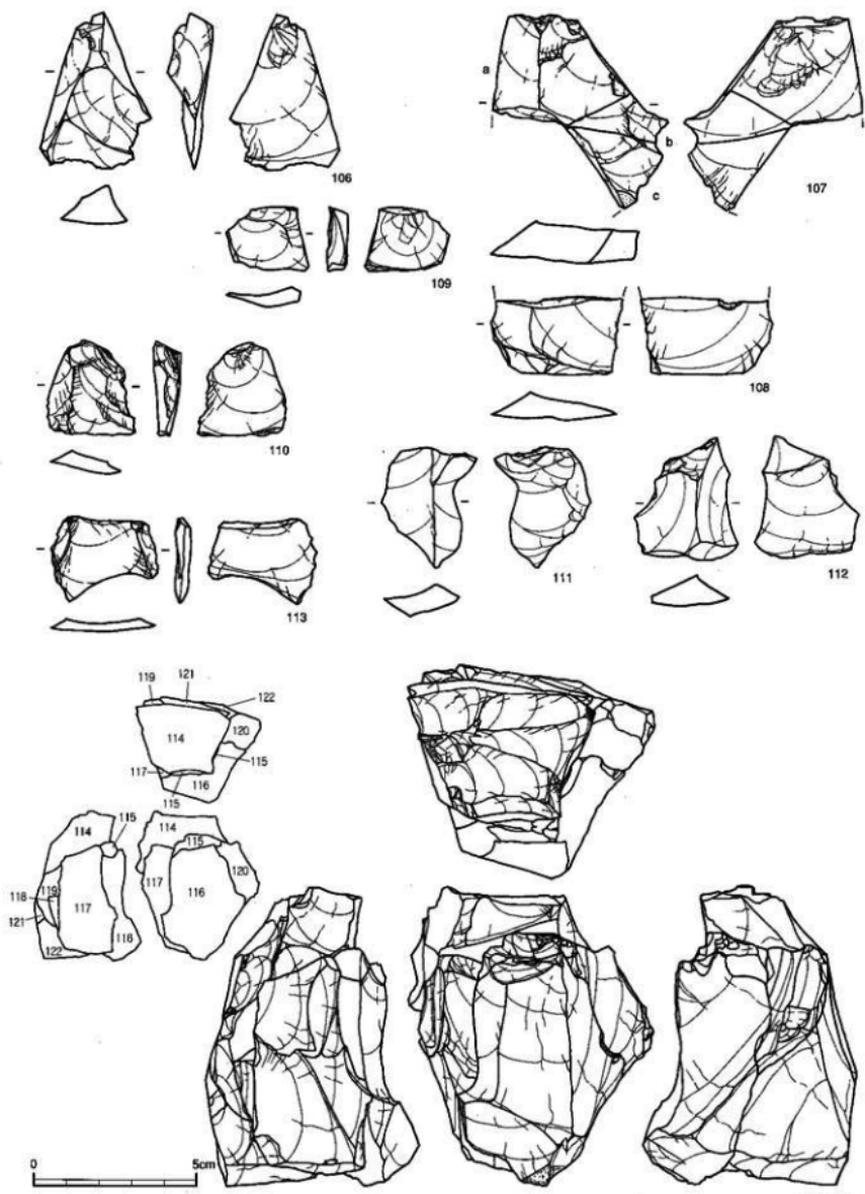
78や79は縦長剥片、80・81は幅広の剥片である。そのうち80・81は剥片素材の石核の表面側を打面にして剥離されたもので、表面にもボジ面を有する。82は調整剥片である。



第27图 第Ⅲ文化层石器实测图(10) (S=2/3)

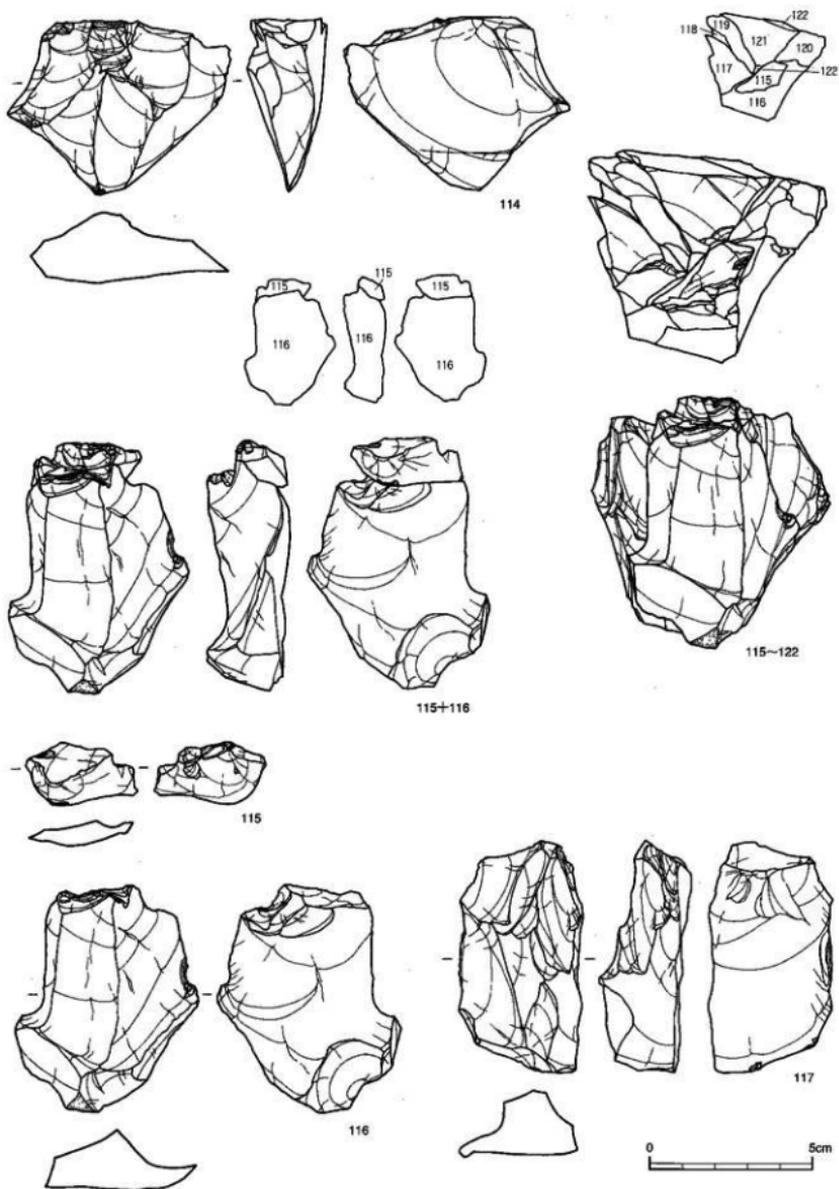


第28图 第Ⅲ文化层石器实测图(11)(S=2/3)

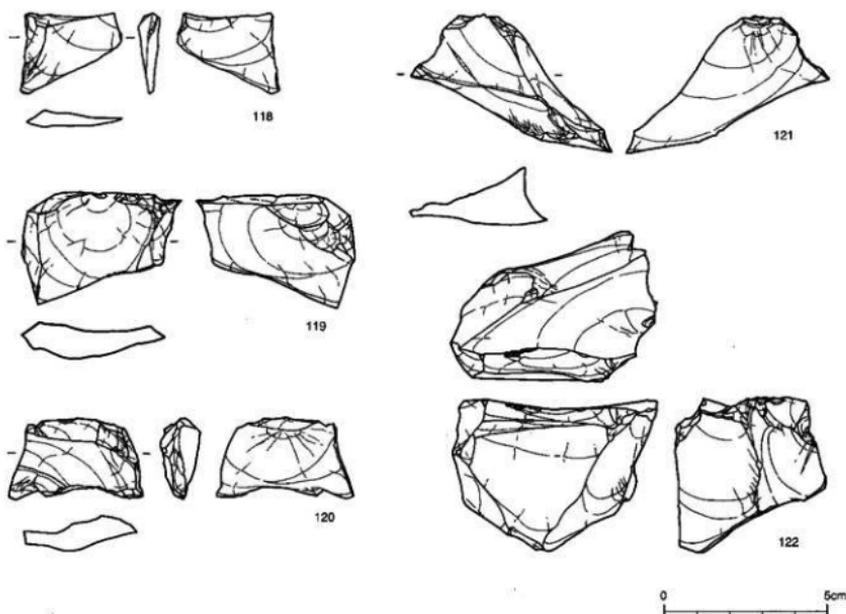


第29圖 第三文化層石器実測圖(12) (S=2/3)

114~122



第30图 第Ⅲ文化层石器实测图(13)(S=2/3)



第31図 第Ⅲ文化層石器実測図(14)(S=2/3)

石核 (第23図83~87)

83は両設打面を有し、上下から剥片を作出している。84は両端にそれぞれ剥離を入れて打面を形成し、そこから剥離作業を行なっている。87は礫面側を打面して打面を縁辺にそって移動させていきながら剥片剥離作業を行なう。礫面をそのまま打面に設定した部分や打面調整を行なったところもみられる。

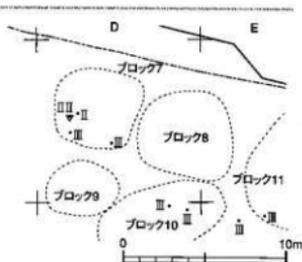
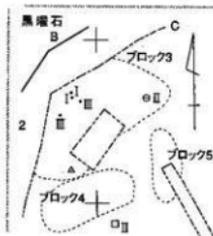
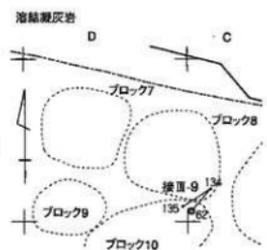
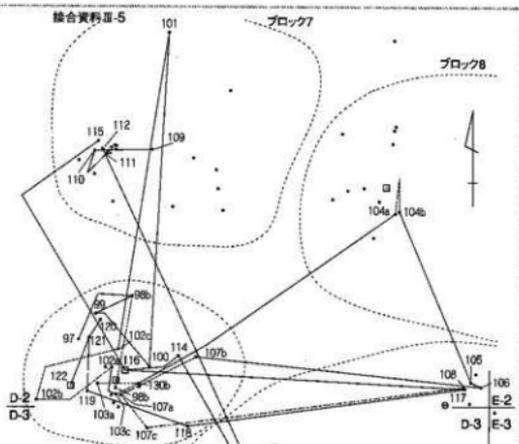
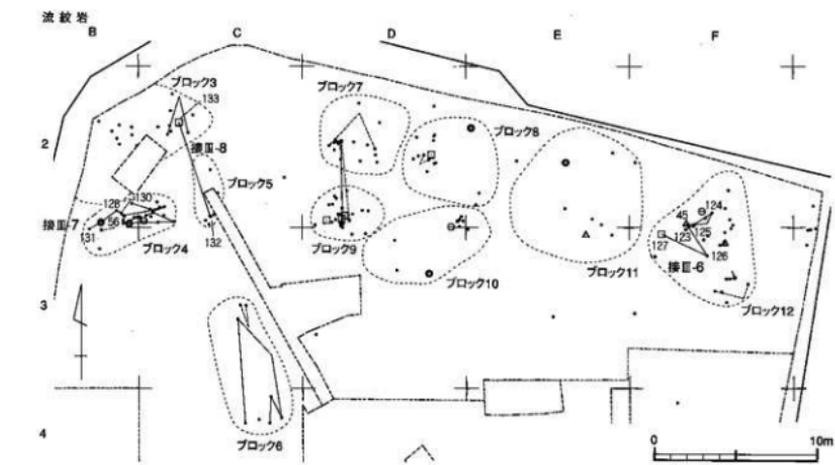
礫塊石器 (第24図~第25図)

88~91は敲石である。棒状や円礫等や礫の端部に敲打痕が認められ、そのうち88の一端には敲打痕とともに擦痕が認められる。92は凹石である。扁平な礫の両面中央に敲打痕によるつぶれが認められる。94~96は台石と考えられる。表面には敲打痕や擦痕が不明瞭だが、敲石など周辺で確認されていることから判断した。

接合資料 (第26図~第35図、第37図~第51図、第53図~第57図)

接合資料については45例確認されている。そのうち、29例について図化を行なった。

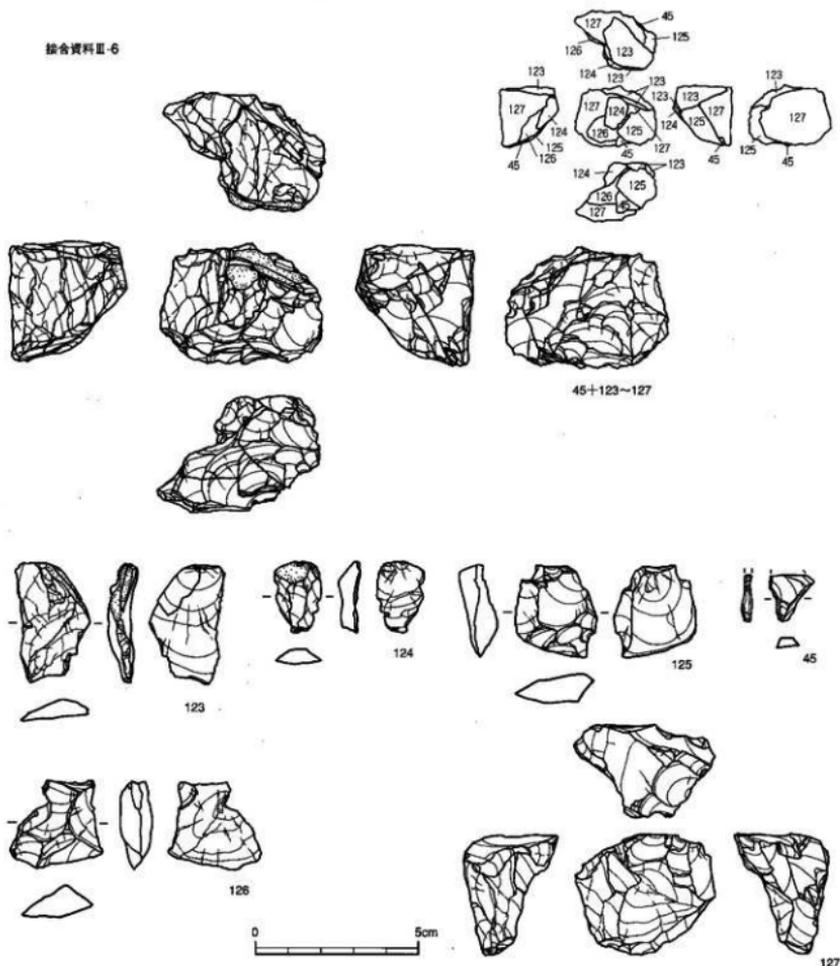
接合資料Ⅲ-5は流紋岩Ⅱ類製。石核と剥片の接合例で打面転位を頻繁に行なう。当初正面右側を作業面として、主に縦長剥片を連続して剥出(97)。その後、打面を変えながら、98→99→100→101と剥離を行なう。打面を上面に移し、103等、数枚の剥片剥離を行なった後は、打面を裏側に移して、左側面で剥離作業を行ない、打面を上面に戻し、104や102等を剥出した後は、左側面を打面にして、裏面で106→107+108→111他、数枚の剥片剥離を行なう。再び上面から109→110→○→105を剥離するが、109・110は下まで力が抜けず、末端がステップを呈する。剥片剥離作業が進行し、打面を変えながら112→113



- △-ナイフ形石器
- ▽-台形棒石器
- スクレイパー
- ◎-盛土石器
- ⊙-二次加工剥片
- 剥片・碎片
- 石核

第32図 第Ⅲ文化層石材別分布図(1) (S=1/300, 1/100)

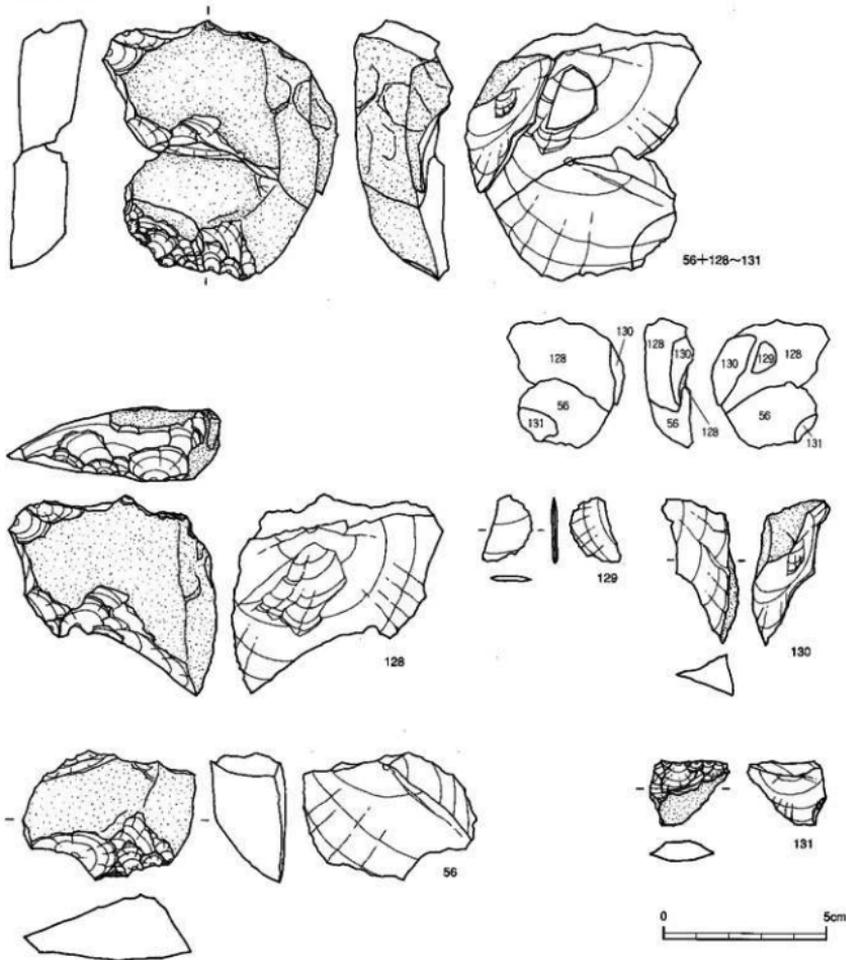
接合資料Ⅲ-6



第33図 第Ⅲ文化層石器実測図(15)(s=2/3)

→114を剥出した後は、再度上面に打面を設定し、115+116→○→117→118→119と連続的に剥離を行ない、最終的に打面を表面と裏面に転位させながら120→121を剥離する。なお115+116については、表面を打面に設定し、115をはじめ、数枚の剥片を剥出する。

接合資料Ⅲ-6は流紋岩Ⅲ類製である。打面を転位させながら、剥片剥離作業を行なう。123を作出して打面形成を行い、124と125を剥出し(切り合い不明だがおそらく124が先と考えられる)、打面を後方に入れ替えて45を剥ぎ、その後、打面を戻して126を剥離する。45は加工後、ナイフ形石器として利用される。



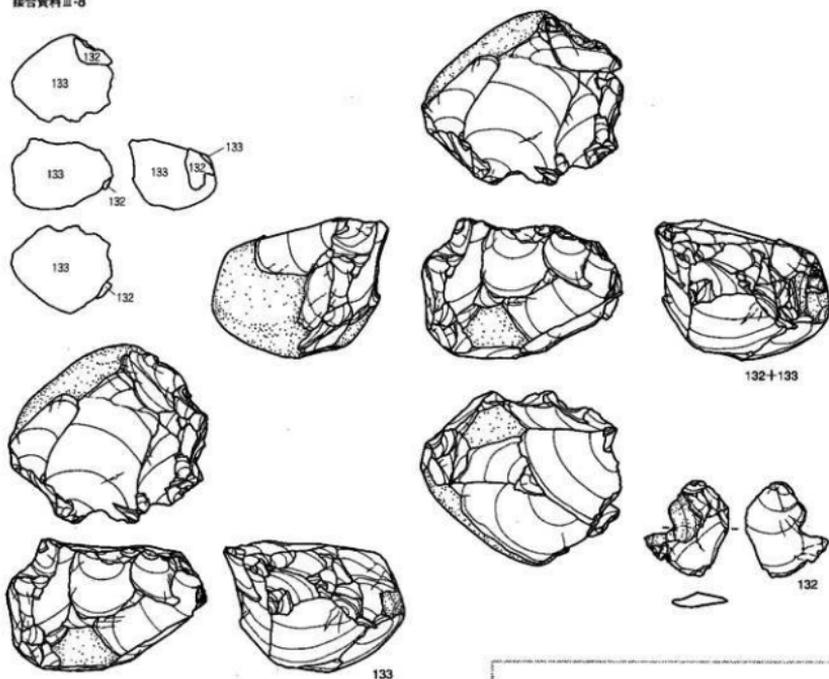
第34図 第Ⅲ文化層石器実測図(16)(S=2/3)

接合資料Ⅲ-7は流紋岩Ⅳ類製で、エンドスクレイパー1点と剥片2点、バルバスカー剥片1点、調整剥片1点の資料から成る。縦長剥片(128+56+131)を剥出時に偶発的に中央で折損する。その際、末端部分(56+131)を用い、主要剥離面側から131等が剥離され、刃部形成が行なわれる。

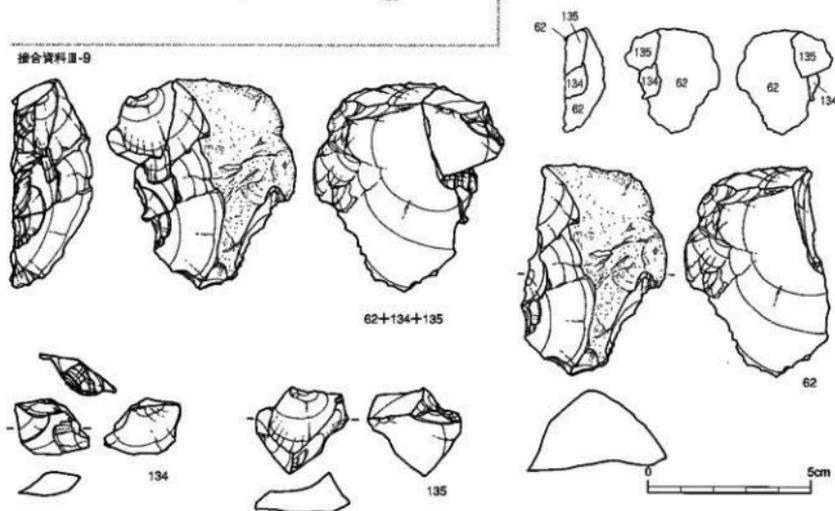
接合資料Ⅲ-8は流紋岩Ⅴ類製である。石核1点と剥片1点の資料で、打面を入れ替えながら、剥片剥離作業を行なう過程で132を剥離する。

接合資料Ⅲ-9は、溶結凝灰岩製。スクレイパー製作時における接合資料である。

接合資料Ⅲ-8



接合資料Ⅲ-9



第35图 第Ⅲ文化層石器実測図(17)(S=2/3)

接合資料Ⅲ-10~12はホルンフェルスⅠ類製。いずれも剥片同士の接合例である。そのうち接合資料Ⅲ-12は、上面を打面に設定し、142(垂直割れにより3分割)を剥離した後、打面を右側面側に入れ替え、143・144を剥離することで打面調整を行なう。その後また右側面に打面を移し、145+146+147を剥離する。その後、打面を下面側に転位させ、148→149と剥離する。なお145+146+147については剥出時に折損するが、145と146に潜在割れが生じていたため、結果的に3分割されたものと考えられる。

接合資料Ⅲ-13はホルンフェルスⅢ類製で、全体的に赤化している。打面を転位させながら剥片剥離作業を行なっている。150、151を剥離する一方、打面を上面、作業面を右側面から正面に設定して154→○→153を剥出した後、正面に打面を入れ替え、152等を剥離して打面を再生し、その後も正面で剥片剥離を行なう。

接合資料Ⅲ-14~21はホルンフェルスⅡ類製。そのうち、接合資料Ⅲ-14は原礫を分割後、正面を作業面に設定し、157→158→64+159→161を剥離する。その後、作業面を打面に入れ替えて、162→163→○→51→○と剥出するほか、下方から167を剥離し、再び正面作業面に戻し、164→165+166→168~171と連続剥離を行なう。172等の剥片を下側(第45図172~176では右側面)から剥離後、打面を正面旧作業面(第45図172~176では上面)に設定して、172や174を剥離して打面調整を行ない、175をはじめ、2枚の剥片を剥出する(172個は剥離作業を行っていない)。なお、64+159→161は主要剥離面側から159を剥離後、表面より160や161等、数枚の剥片を剥出する。最終的にはサイドスクレイパーに転用される。また168~171は主要剥離面より168→169→170の順で剥離を行なう。接合資料Ⅲ-15は剥片素材の石核の剥離工程を示すもので、177を剥出後、主要剥離面に移し、178→179を剥離する。接合資料Ⅲ-16・18・19・21は剥片同士、接合資料Ⅲ-16はスクレイパーと剥片、接合資料Ⅲ-20は使用痕剥片同士の接合例である。

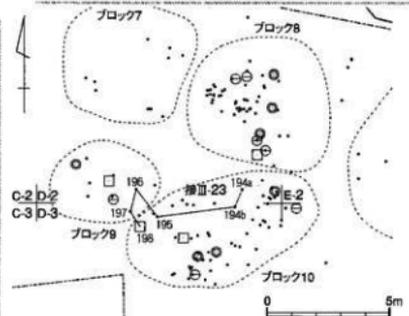
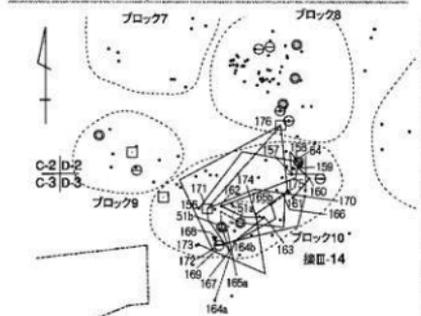
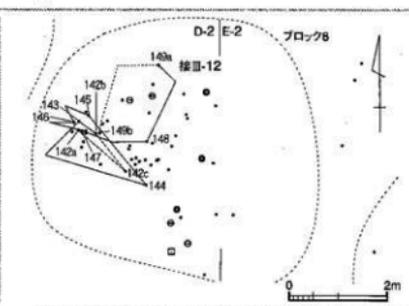
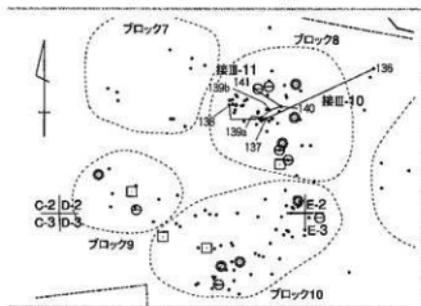
接合資料Ⅲ-22はホルンフェルスⅣ類製で剥片2点から成る。剥片素材の石核から剥出されたもので、表面から連続して剥離されたものである。

接合資料Ⅲ-23はホルンフェルスⅤ類製。両設打面を有し、194→195→196→197と連続的に剥離作業を行なう。

接合資料Ⅲ-24は頁岩Ⅲ類製の剥片6点(うち2点は折面接合、実数5点)と石核1点の資料で、亞円礫の平坦な自然面を打面として生かし、199→200と打点を後退させながら剥出し、打点を右にずらしながら201と数枚の剥片を剥離している。さらに打点を後退させながら202を剥出していく。これらの剥片には、節理により剥片下半で割れてしまうものもみられる。このことより、打面を作業面側に入れ替え、203を剥離するも、剥離面にも節理が認められることからそれ以降の作業は行なわれていない。

接合資料Ⅲ-25はチャートⅡ類製、接合資料Ⅲ-26~29はチャートⅢ類製である。そのうち、接合資料Ⅲ-25は剥片6点と石核1点の資料で206、207+208を剥出後、打面を上面に設定、205や209、210を剥離し、打面を入れ替え、211を剥離する。なお、207+208は剥離後、潜在割れのため、2分割されている。また接合資料Ⅲ-26はエンドスクレイパーと剥片の接合例である。剥片素材の石核の表面から214等、数枚の剥片を剥出し、その後、下部に加工を施し、刃部を形成する。接合資料Ⅲ-27~29は剥片同士の接合例である。

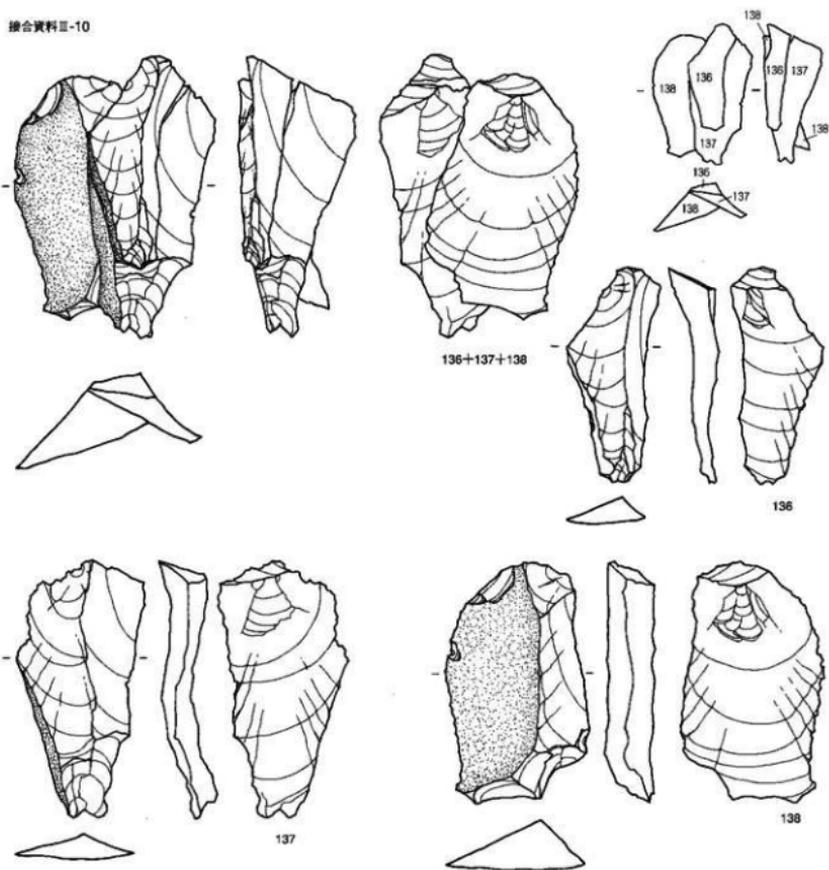
ホルンフェルス



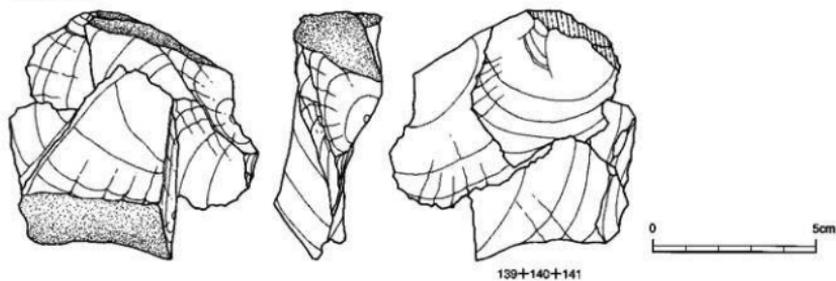
△-ナイフ形石器 ○-スクレイパー・鑿齒状石器 ⊖-二次加工製片・使用痕跡片 → 剥片・碎片 □-石核

第36図 Ⅲ文化層石材別分布図(2)(S=1/300, 1/100, 1/200)

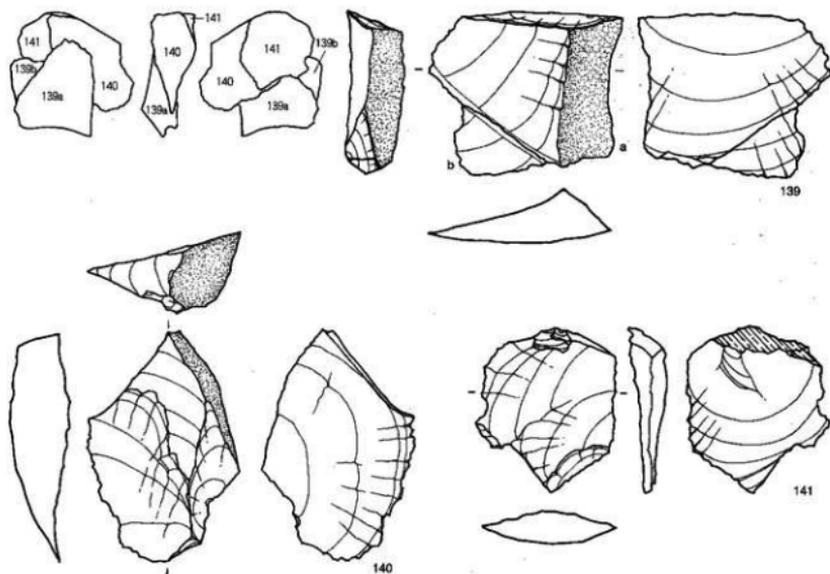
接合資料Ⅲ-10



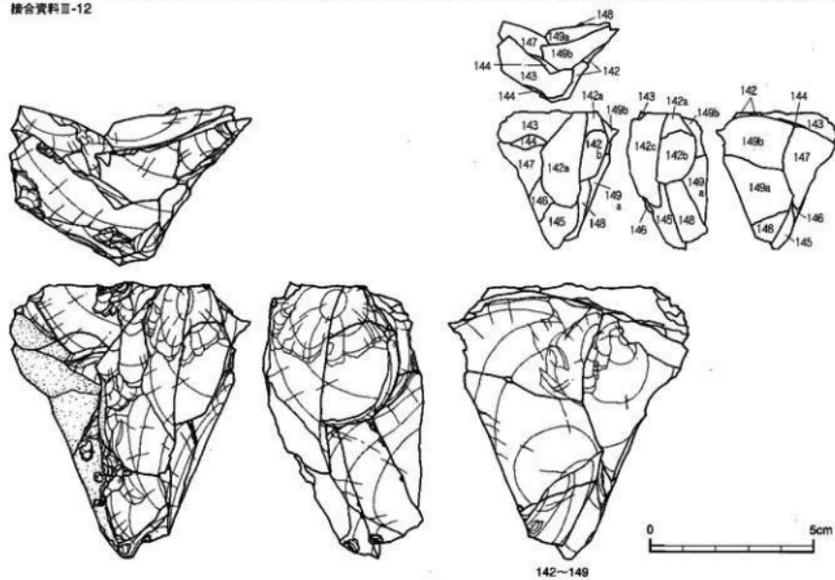
接合資料Ⅲ-11



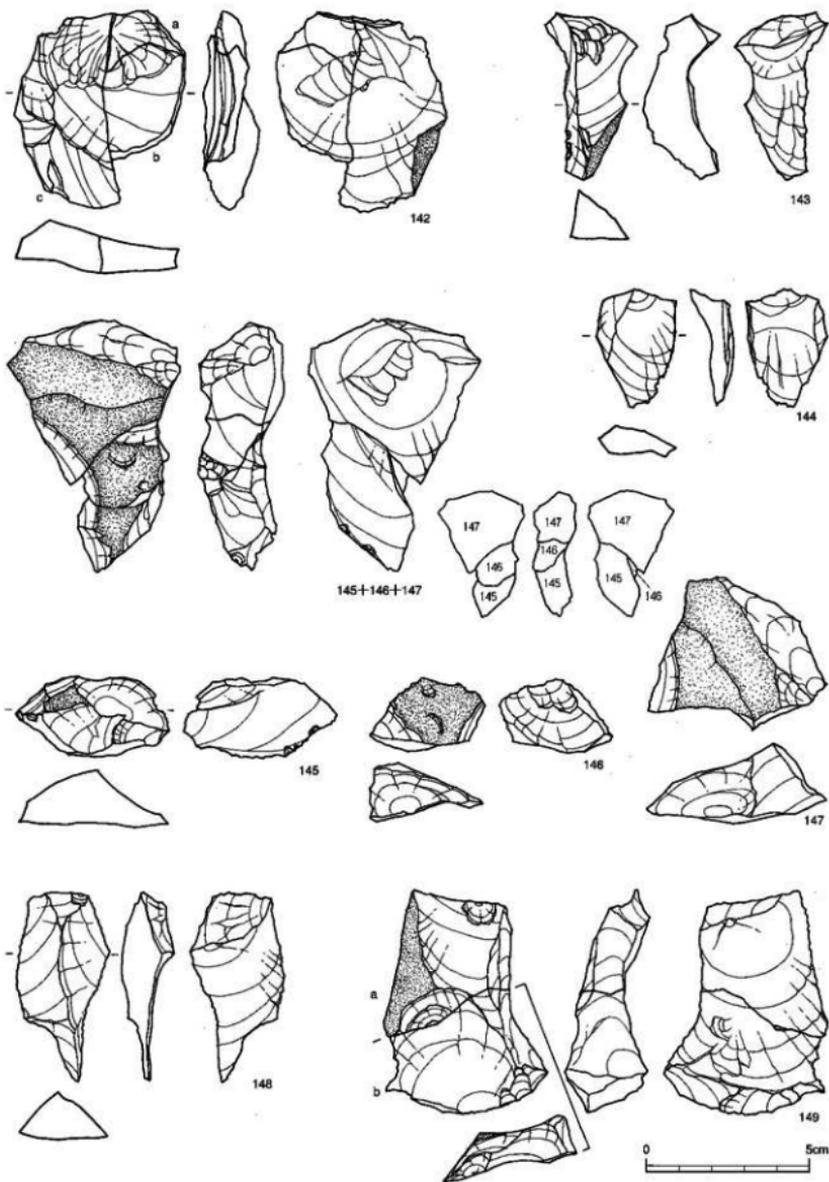
第37圖 第Ⅲ文化層石器実測圖(18)(S=2/3)



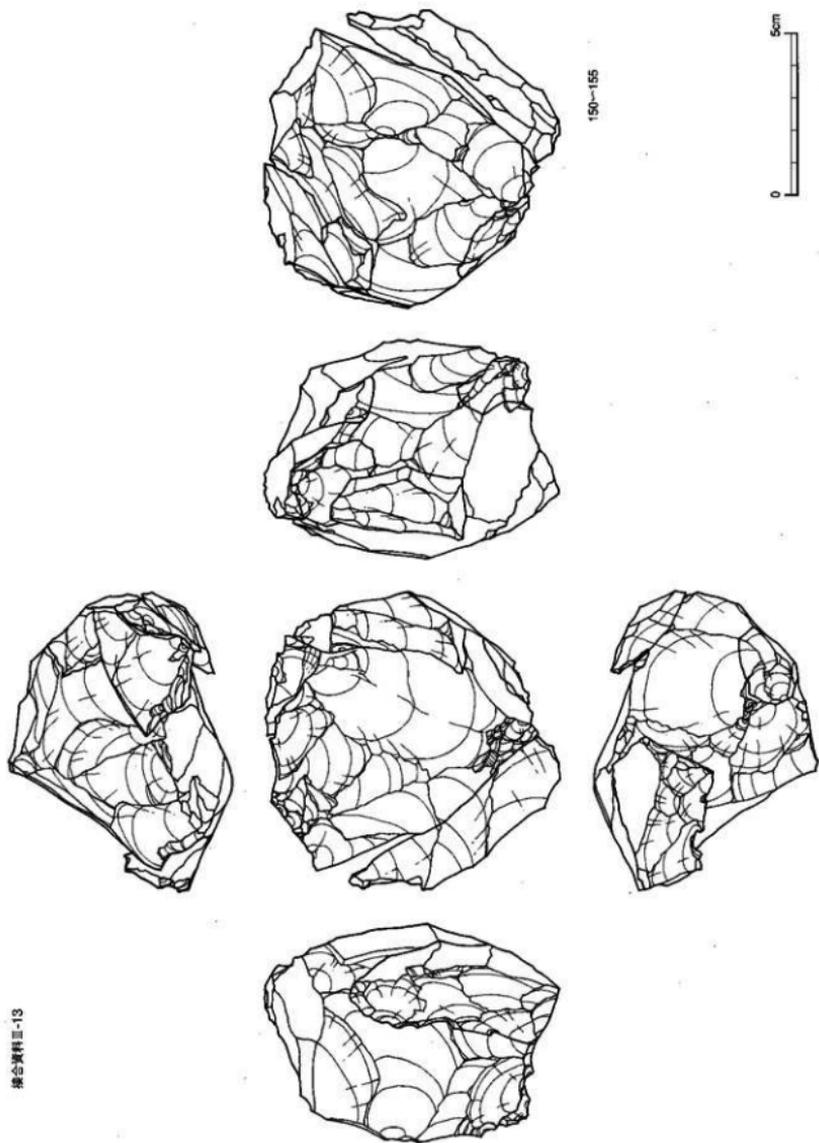
接合資料Ⅲ-12



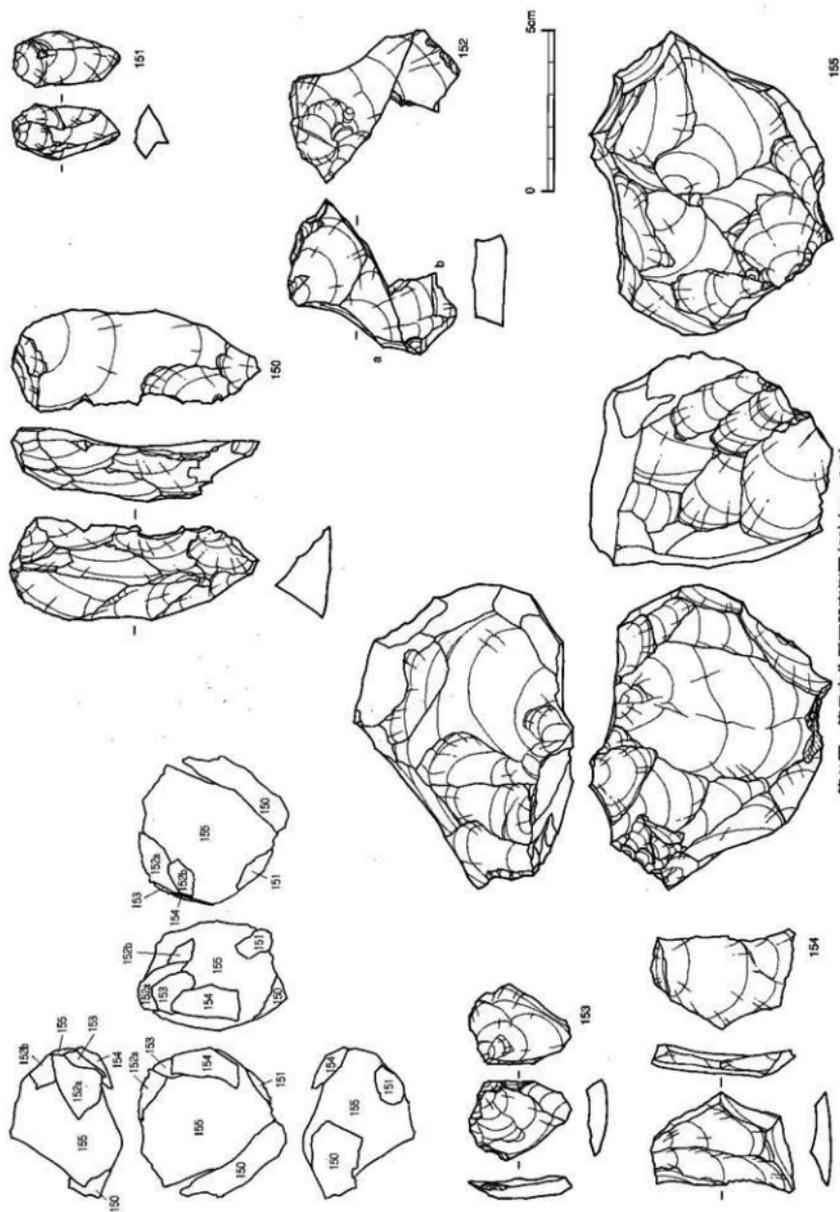
第38図 第Ⅲ文化層石器実測図(19) (S=2/3)



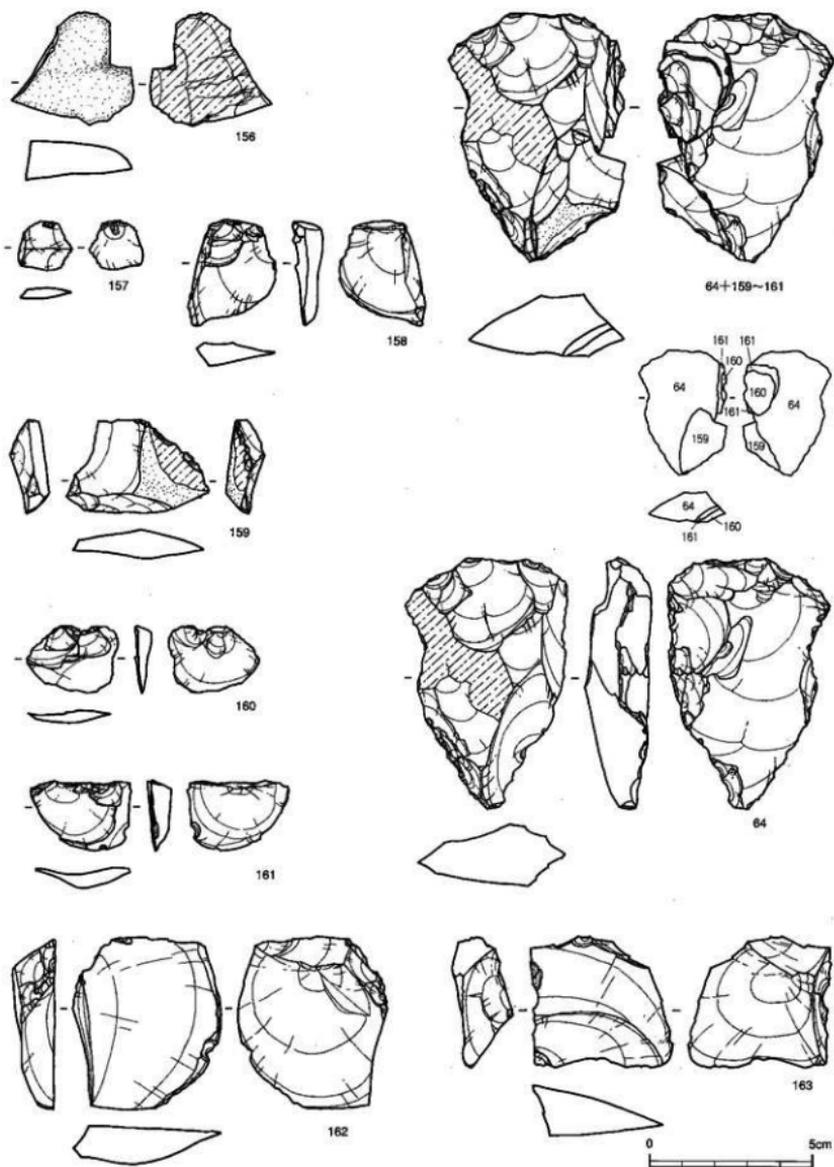
第39图 第Ⅲ文化層石器実測図(20)(S=2/3)



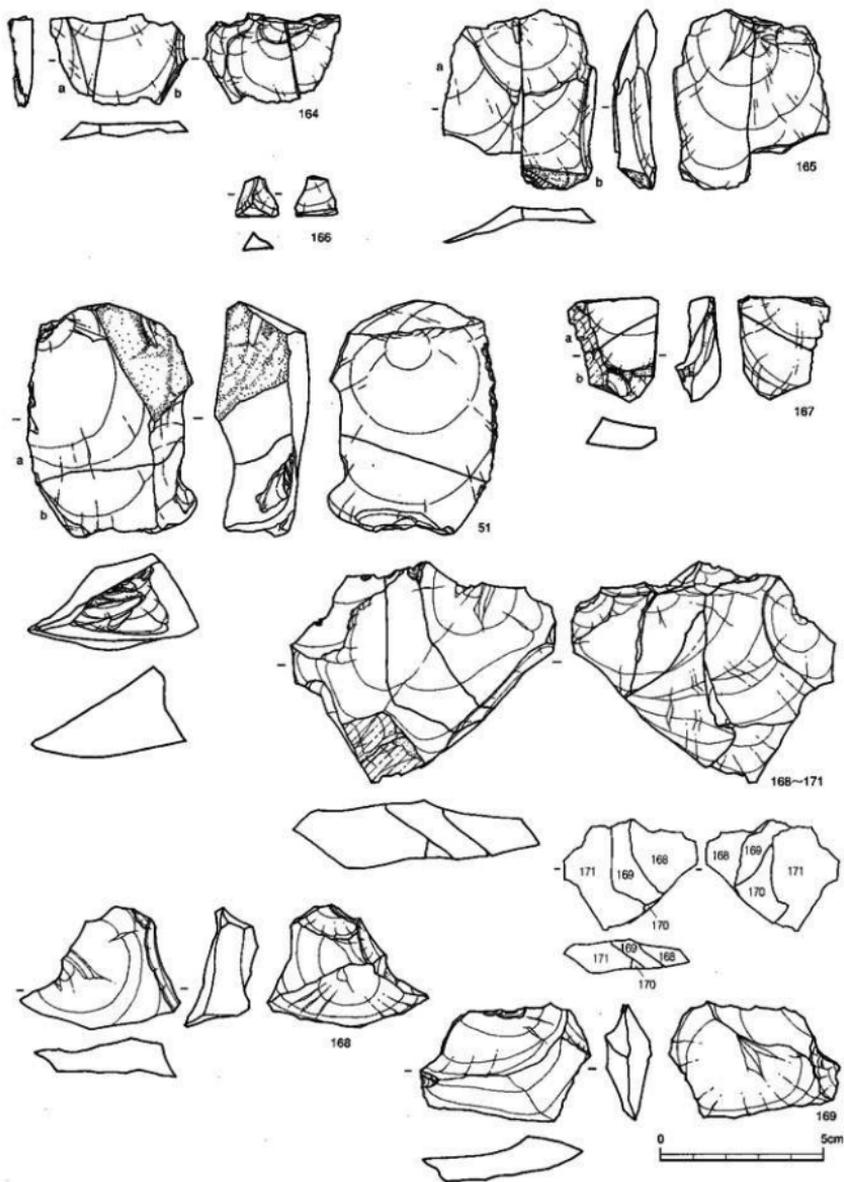
第40圖 第三文化層石器素描圖(21)(S=2/3)



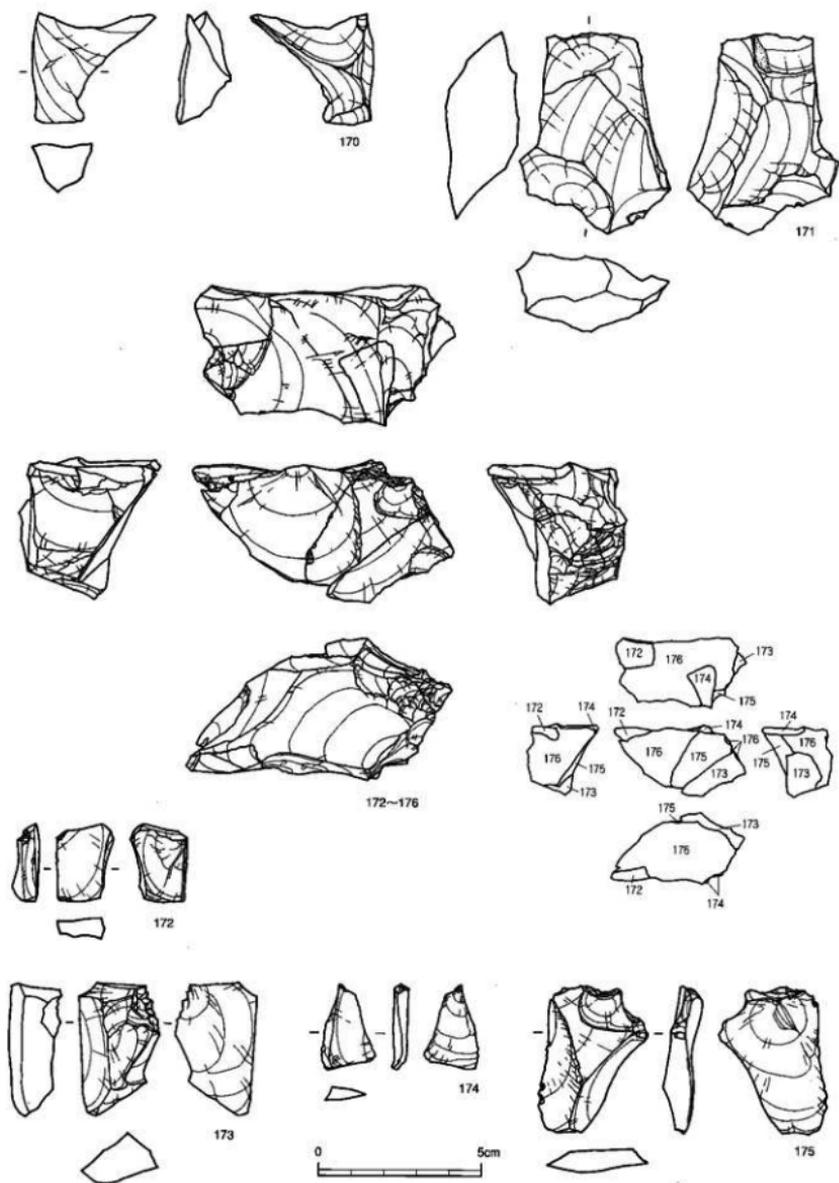
第41图 第三文化层石器实测图(22) (S=2/3)



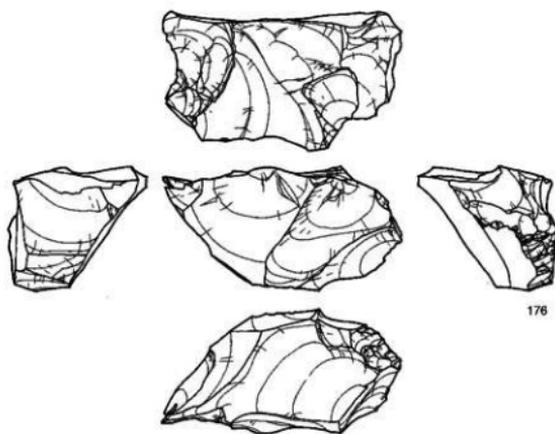
第43图 第Ⅲ文化层石器实测图(24)(S=2/3)



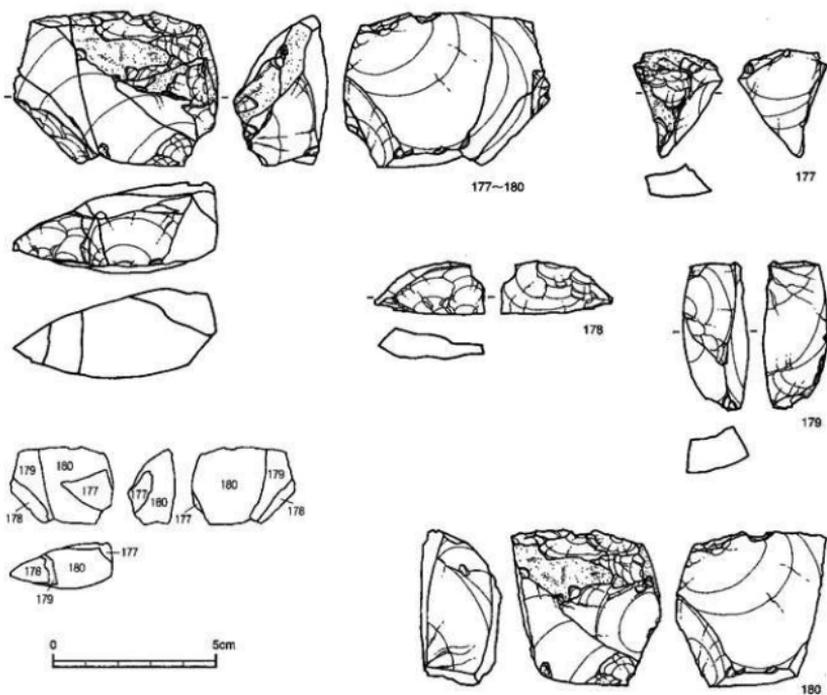
第44图 第Ⅲ文化層石器実測図(25)(S=2/3)



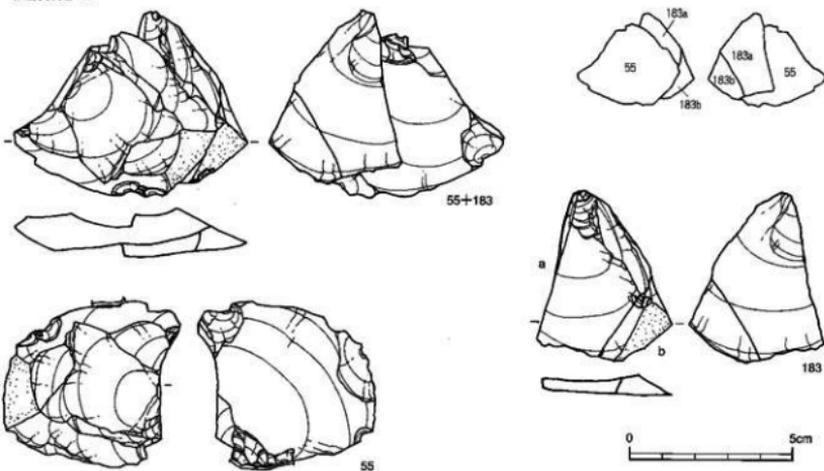
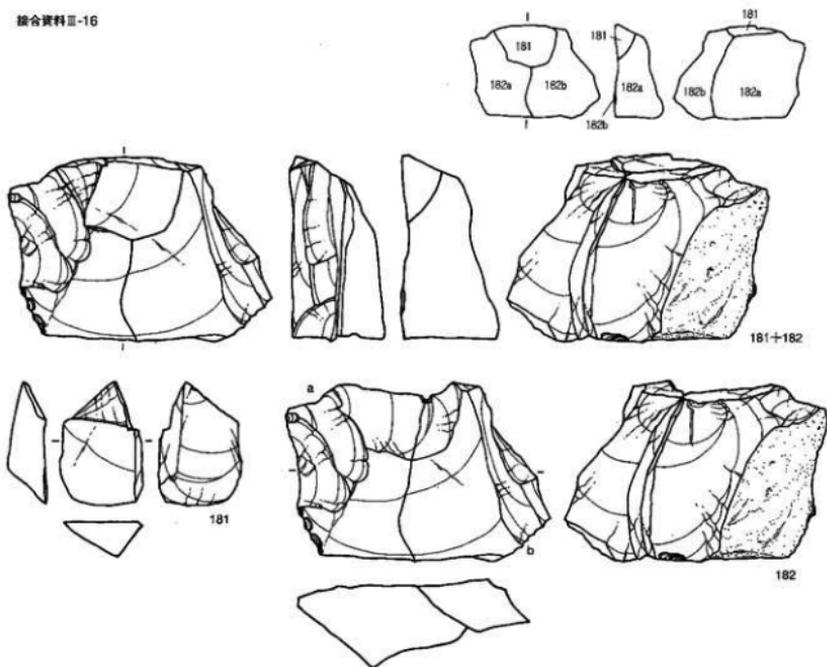
第45图 第Ⅲ文化层石器实测图(26) (S=2/3)



综合资料 II-15

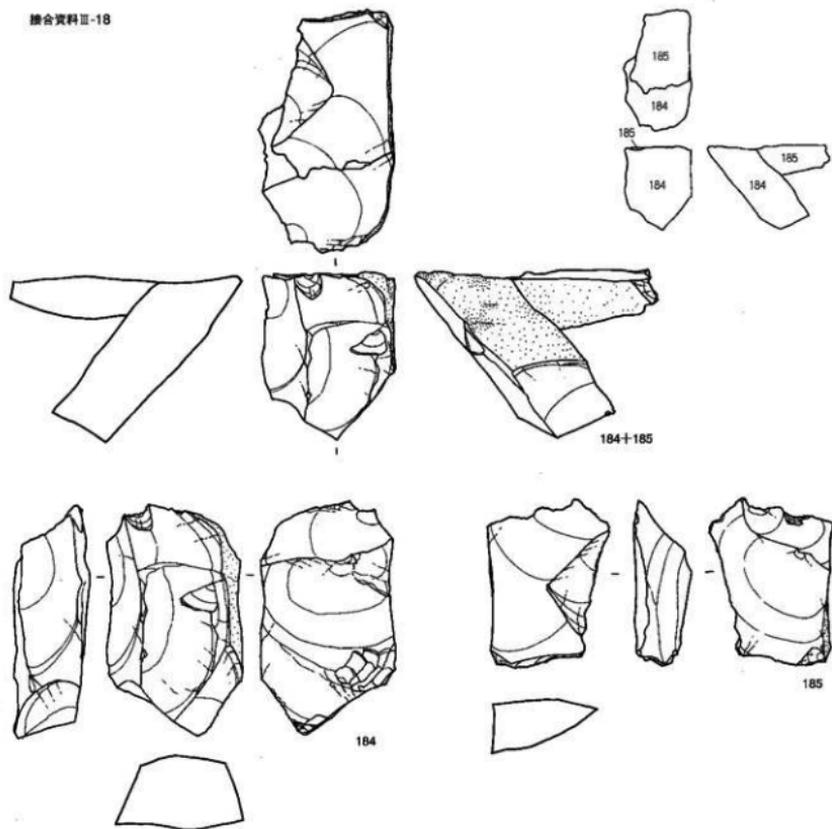


第46图 第Ⅲ文化層石器実測図(27)(S=2/3)

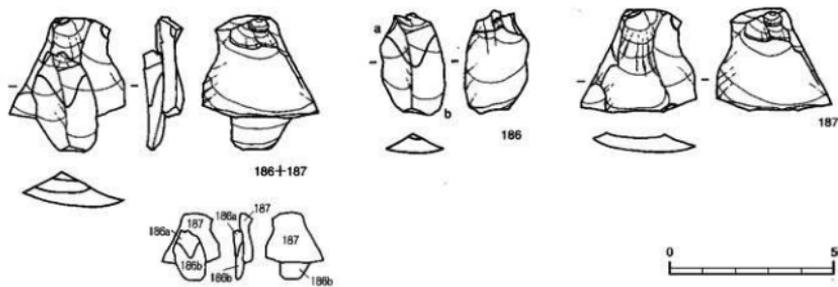


第47図 第Ⅲ文化層石器実測図(28)(S=2/3)

接合資料Ⅱ-18

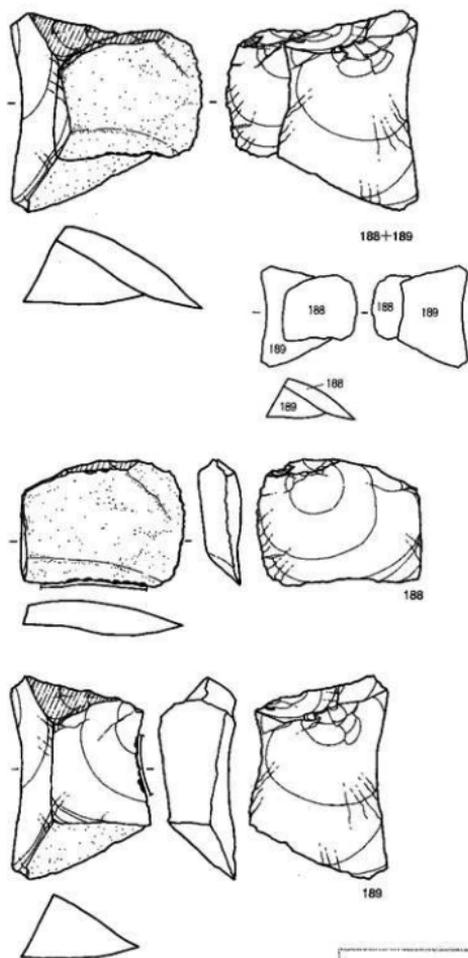


接合資料Ⅱ-19

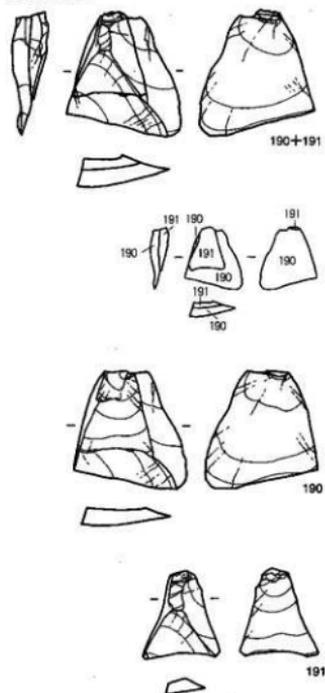


第48図 第Ⅲ文化層石器実測図(29)(S=2/3)

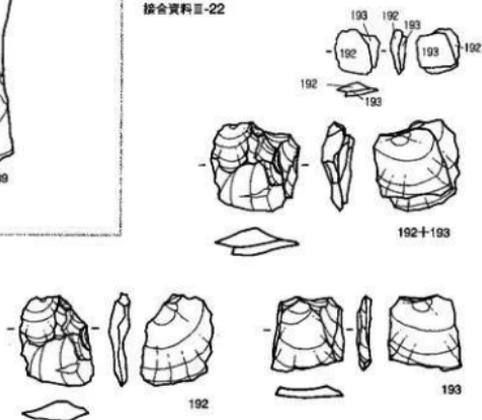
接合資料Ⅲ-20



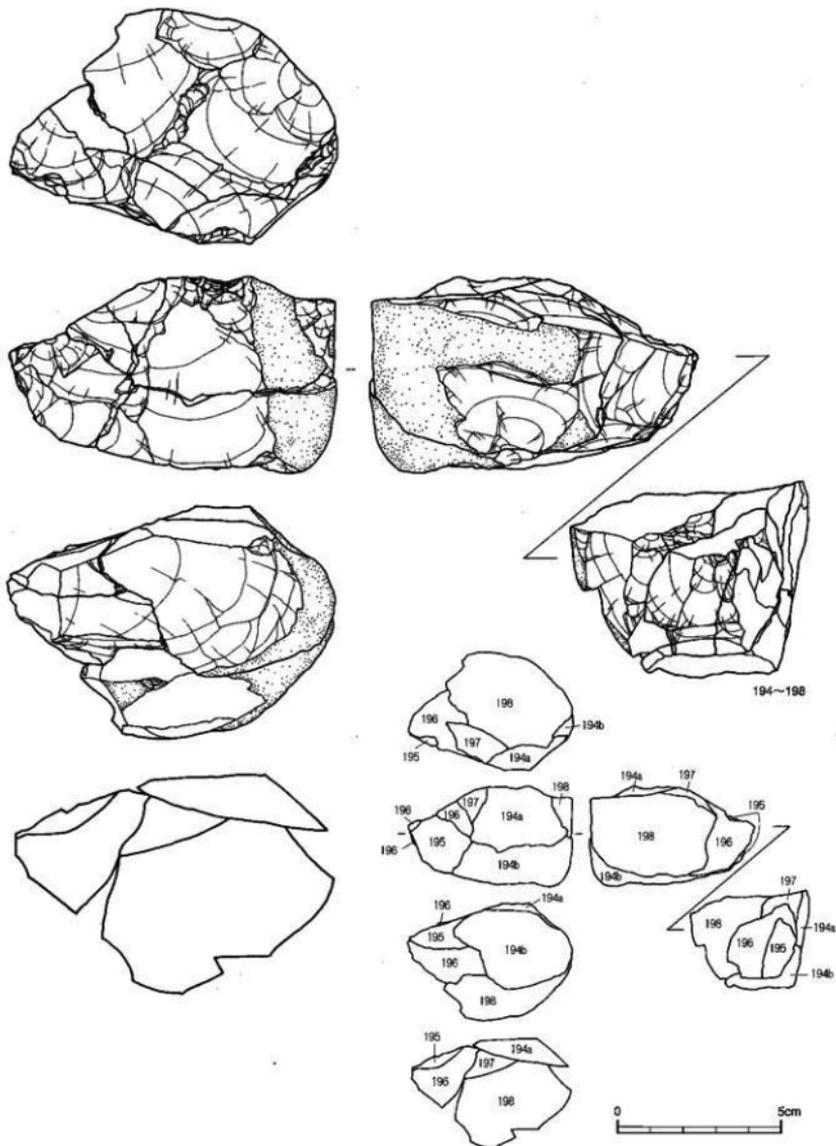
接合資料Ⅲ-21



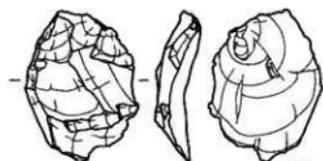
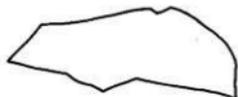
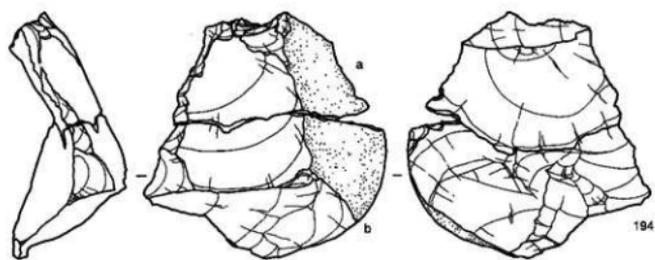
接合資料Ⅲ-22



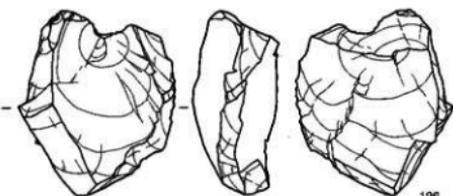
第49圖 第Ⅲ文化層石器実測圖(30)(S=2/3)



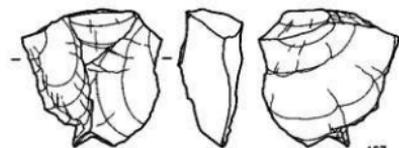
第50圖 第三文化層石器実測図(31) (S=2/3)



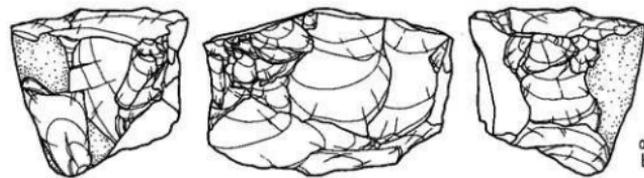
195



196



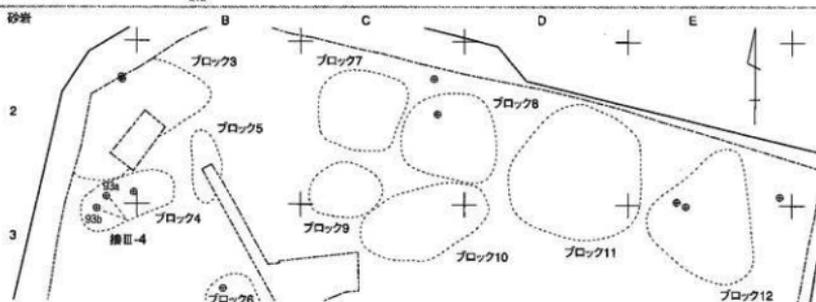
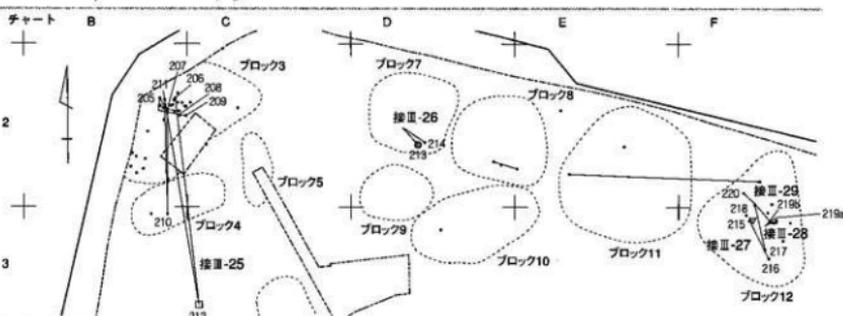
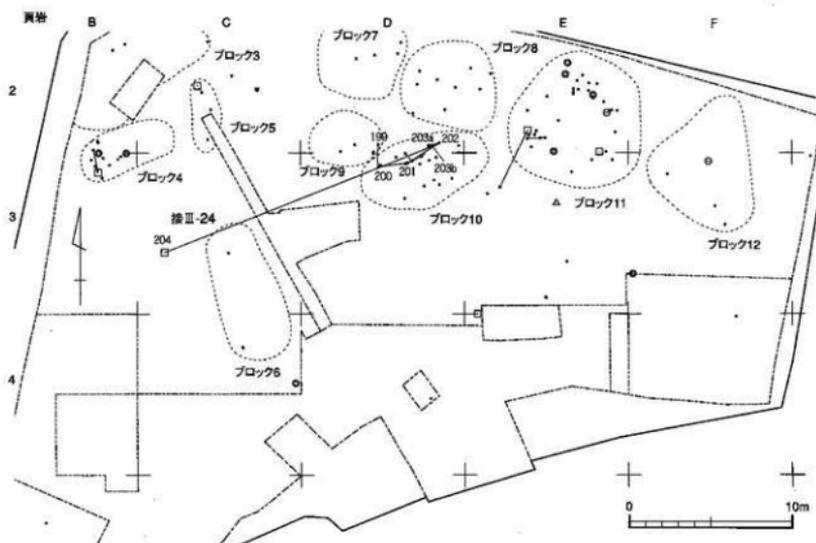
197



198

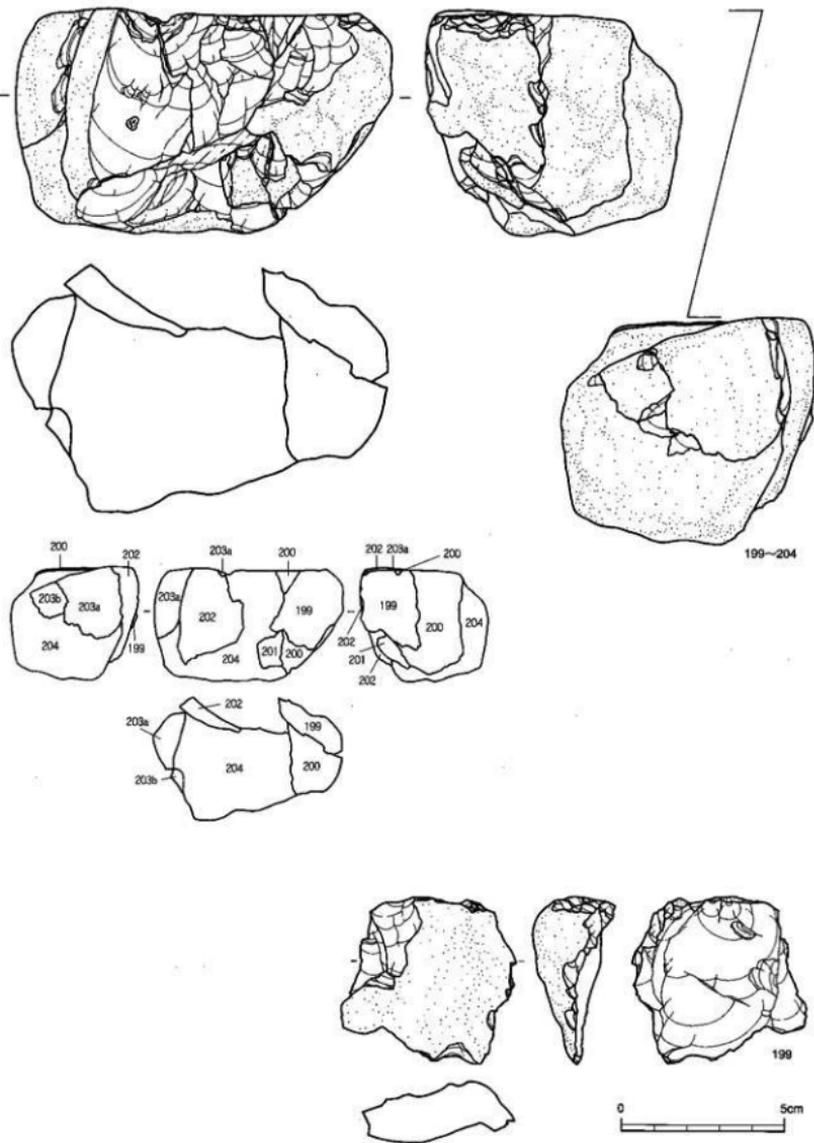


第51圖 第Ⅲ文化層石器実測圖(32)(S=2/3)

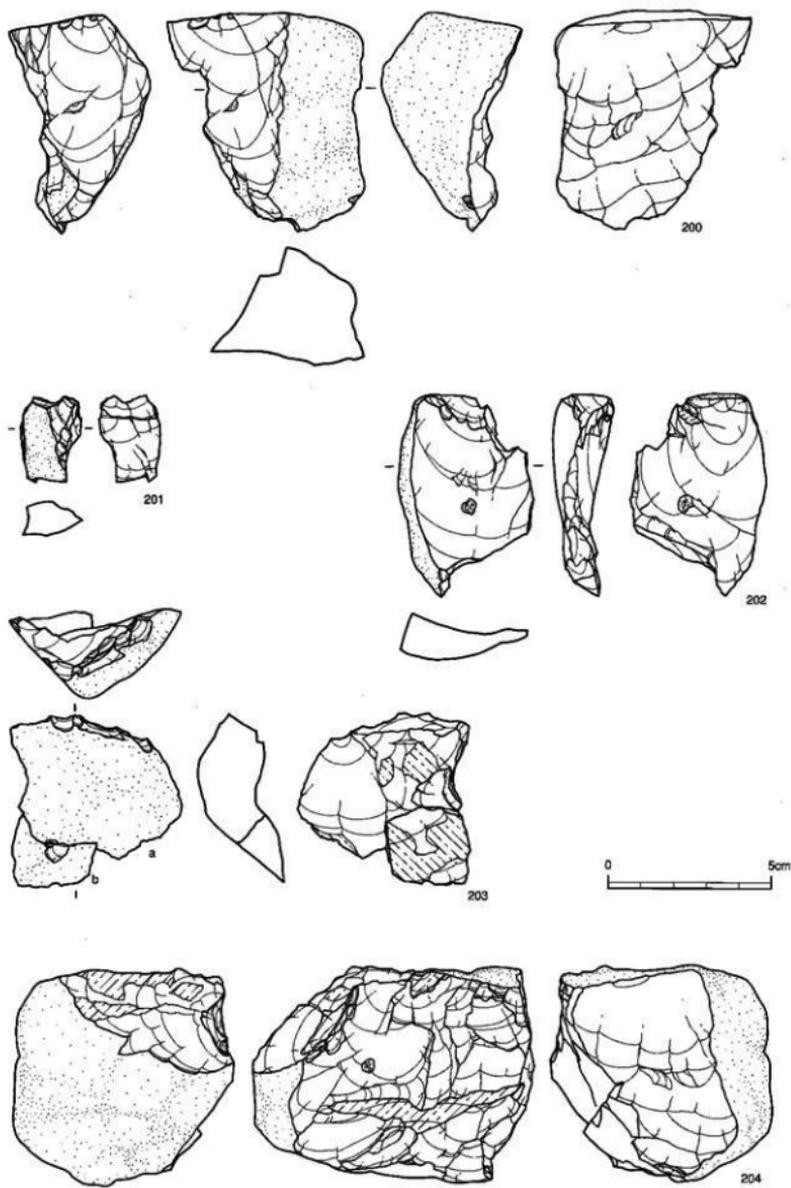


▽-台形棒石器 ○-スクレイパー・鋸歯状石器 ⊖-二次加工剥片・使用痕剥片 ●-剥片・砕片 □-石核 ⊕-礫塊石器(礫石・台石など)

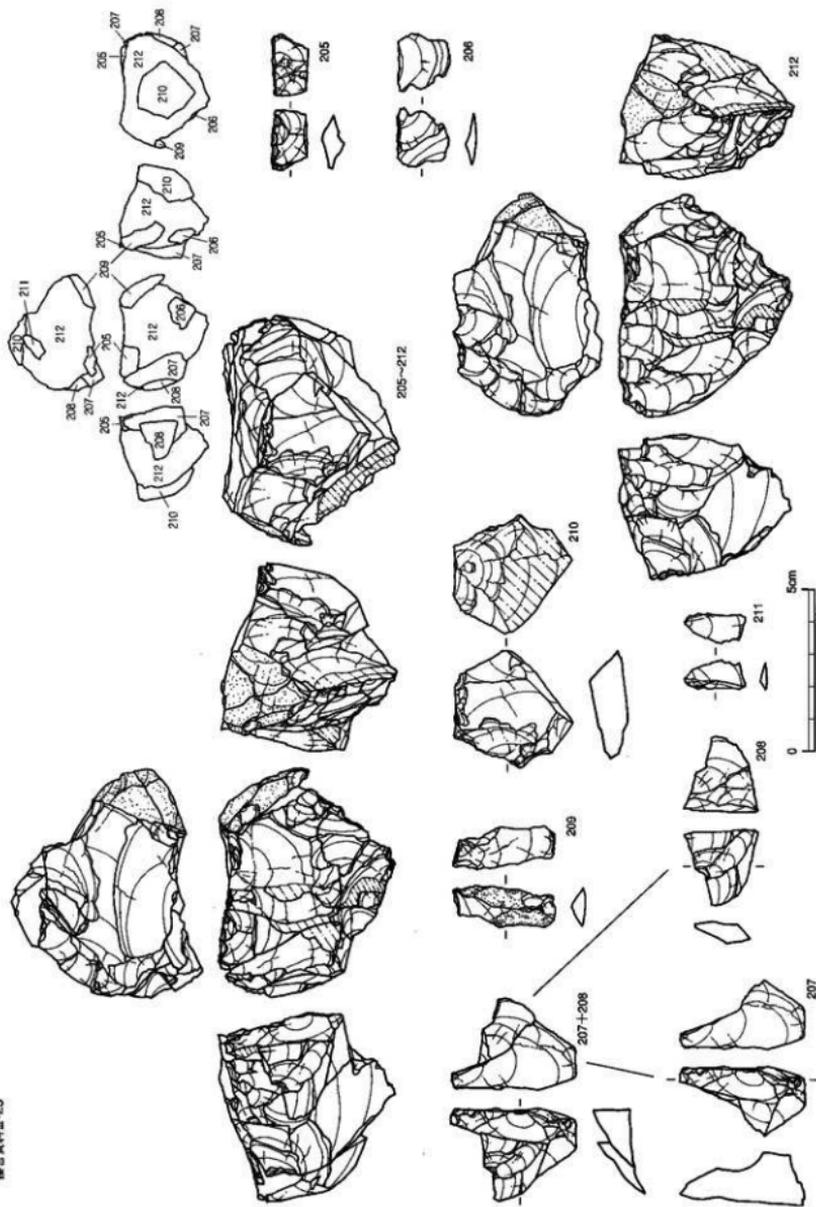
第52図 第Ⅲ文化層石材別分布図(3)(S=1/300)



第53図 第Ⅱ文化層石器実測図(33)(S=2/3)

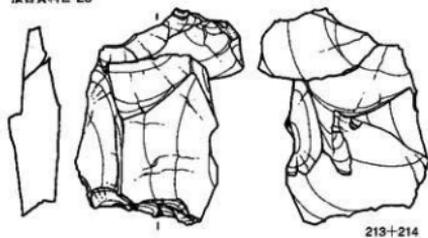


第54图 第Ⅲ文化层石器实测图(34)(S=2/3)

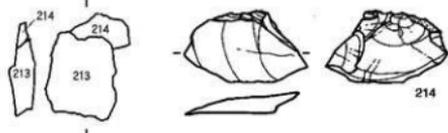


第55图 新石器时代黄源(35) (S=2/3)

接合資料Ⅱ-26

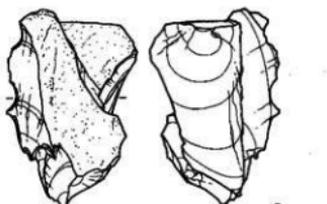


213+214



214

接合資料Ⅲ-28



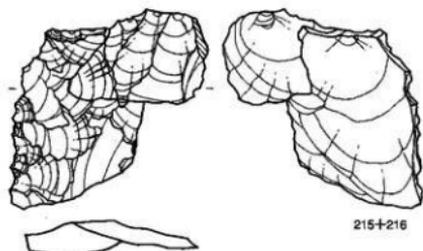
217+218

218

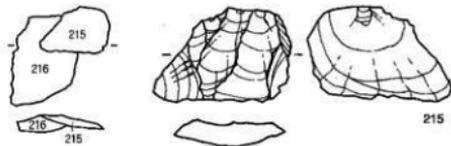
217

217

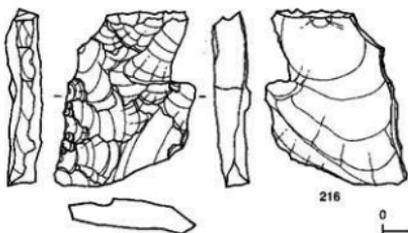
接合資料Ⅱ-27



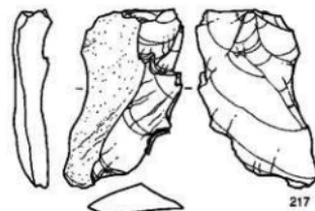
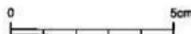
215+216



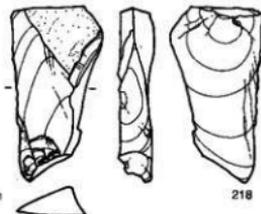
215



216

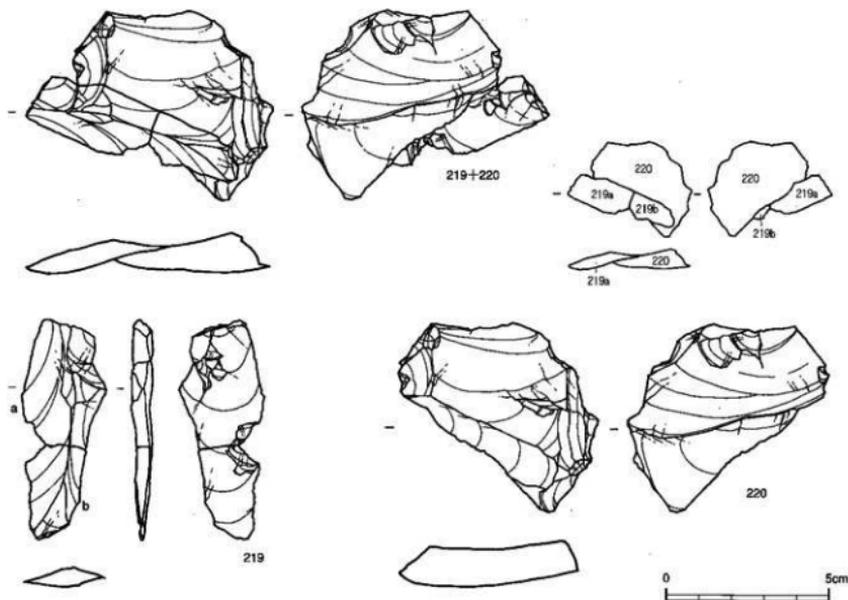


217



218

第56図 第Ⅲ文化層石器実測図(36)(S=2/3)



第57図 第Ⅲ文化層石器実測図(37)(S=2/3)

第6表 第Ⅲ文化層石器計測表

図面 番号	文化層	注記番号	器種	グランド	層位	ブロック	石材	接合 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
37	Ⅲ	Ⅲa層-121	ナイフ形石器	F-3	Ⅲa	12	流紋岩Ⅱ		1.81	0.85	0.40	0.6	
38	Ⅲ	Ⅲb層-42	ナイフ形石器	E-2	Ⅲb	11	ホルンフェルスⅡ		2.70	0.92	0.70	1.2	
39	Ⅲ	Ⅲc層-54	ナイフ形石器	E-2	Ⅲb	11	ホルンフェルスⅡ		2.73	1.30	0.70	2.0	
40	Ⅲ	Ⅲc層-189	ナイフ形石器	B-2	Ⅲc	3	黒曜石Ⅱ		3.35	1.18	0.60	1.5	
41	Ⅲ	Ⅲb層-20	ナイフ形石器	E-3	Ⅲb	11	流紋岩Ⅳ		3.45	1.50	0.85	2.9	
42	Ⅲ	Ⅲa層-158	ナイフ形石器	F-3	Ⅲc	外	ホルンフェルスⅡ		4.30	1.20	0.65	2.6	
43	Ⅲ	Ⅲb層-26	ナイフ形石器	E-3	Ⅲb	外	頁岩		4.45	1.85	0.79	5.8	
44	Ⅲ	Ⅲc層-21	ナイフ形石器	E-3	Ⅲb	11	ホルンフェルスⅡ		2.35	1.70	0.80	2.6	
45	Ⅲ	Ⅲb層-214	ナイフ形石器	F-2	Ⅲb	12	流紋岩Ⅲ	Ⅲ-6	1.40	1.35	0.38	0.5	
46	Ⅲ	Ⅲa層-8	ナイフ形石器	E-3	Ⅲa	11	ホルンフェルスⅡ		4.28	2.48	1.08	7.6	
47	Ⅲ	Ⅲb層-239	台形鎌石器	F-3	Ⅲb	12	チャートⅢ		2.40	2.08	0.40	2.0	
48	Ⅲ	Ⅲb層-163	台形鎌石器	D-2	Ⅲb	7	黒曜石Ⅱ		2.80	2.45	0.90	4.0	
49	Ⅲ	Ⅲc層-227+Ⅲc層-226	スクレイパー	B-3	Ⅲc	外	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-1	6.80	5.00	2.30	64.3	
50	Ⅲ	Ⅲa層-51	スクレイパー	E-2	Ⅲa	11	流紋岩Ⅱ		7.70	3.60	1.95	32.4	
51	Ⅲ	Ⅲc層-27+Ⅲc層-33	スクレイパー	D-3	Ⅲc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	7.20	5.20	2.87	93.2	

図面 番号	文化期	注記番号	器 種	グロッド	層 位	ブロック	石 材	接合 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
52	Ⅲ	Ⅱb層-100	スクレイパー	D-4	Ⅱb	外	ホルンフェルス		5.80	4.00	1.70	32.6	
53	Ⅲ	Ⅱb層-268	スクレイパー	C-4	Ⅱb	外	頁 岩		6.55	5.60	1.60	59.0	
54	Ⅲ	Ⅱc層-205	スクレイパー	B-3	Ⅱc	4	頁 岩		4.75	4.60	1.50	37.3	
55	Ⅲ	Ⅱb層-149	スクレイパー	D-2	Ⅱb	9	ホルンフェルスⅡ	Ⅱ-17	5.00	5.40	2.00	39.6	
56	Ⅲ	Ⅱb層-309	スクレイパー	B-2	Ⅱb	4	流紋岩Ⅳ	Ⅱ-7	3.95	5.20	2.30	43.5	
57	Ⅲ	Ⅱc層-198	スクレイパー	B-3	Ⅱc	4	頁 岩		7.40	6.98	2.80	109.8	
58	Ⅲ	Ⅱc層-231	スクレイパー	D-3	Ⅱc	10	流紋岩Ⅶ		7.68	6.00	2.16	113.3	
59	Ⅲ	Ⅱb層-64	スクレイパー	E-2	Ⅱb	8	流紋岩Ⅱ		5.95	4.30	1.55	35.1	
60	Ⅲ	Ⅱb層-73	スクレイパー	C-3	Ⅱb	6	ホルンフェルス		6.30	4.15	2.55	62.5	
61	Ⅲ	Ⅱb層-60	スクレイパー	E-2	Ⅱb	11	頁岩Ⅳ		3.85	4.15	1.60	24.2	
62	Ⅲ	Ⅱb層-68	スクレイパー	E-2	Ⅱb	10	游積礫灰岩	Ⅱ-9	6.40	4.50	2.53	65.1	
63	Ⅲ	Ⅱa層-15	スクレイパー	E-2	Ⅱa	11	ホルンフェルスⅠ		6.60	4.40	1.40	27.6	
64	Ⅲ	Ⅱc層-163	スクレイパー	D-2	Ⅱc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅱ-14	7.65	4.90	2.00	60.1	
65	Ⅲ	Ⅱa層-7	スクレイパー	F-3	Ⅱa	外	頁岩Ⅳ		6.00	3.70	1.60	36.4	
66	Ⅲ	Ⅱa層-10	スクレイパー	E-2	Ⅱa	11	頁岩Ⅳ		5.65	4.10	1.55	31.0	
67	Ⅲ	Ⅱb層-48	スクレイパー	E-2	Ⅱb	11	頁岩Ⅳ		6.10	3.80	1.45	28.6	
68	Ⅲ	Ⅱc層-81+Ⅱc層-87+Ⅱc層-91	スクレイパー	D-2	Ⅱc	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅱ-2	6.65	7.43	1.25	75.4	
69	Ⅲ	Ⅱb層-61	鋸歯状石器	E-2	Ⅱb	11	頁 岩		4.55	4.50	1.15	14.4	
70	Ⅲ	Ⅱc層-211	鋸歯状石器	F-2	Ⅱc	外	流紋岩Ⅱ		4.60	5.05	1.44	34.2	
71	Ⅲ	Ⅱc層-188	二次加工剥片	B-2	Ⅱc	3	ホルンフェルスⅠ		4.90	5.00	1.50	21.3	
72	Ⅲ	Ⅱc層-4	二次加工剥片	D-2	Ⅱc	10	流紋岩Ⅳ		7.75	4.80	1.45	43.7	
73	Ⅲ	Ⅱb層-181	使用痕剥片	D-2	Ⅱb	8	ホルンフェルスⅠ		2.30	7.00	2.40	25.0	
74	Ⅲ	Ⅱb層-330	二次加工剥片	C-2	Ⅱb	3	黒曜石Ⅱ		3.00	1.40	0.60	1.5	
75	Ⅲ	Ⅱc層-29	使用痕剥片	D-3	Ⅱc	10	ホルンフェルスⅡ		6.00	5.20	1.85	38.3	
76	Ⅲ	Ⅱa層-109	使用痕剥片	E-2	Ⅱa	11	頁 岩		5.25	2.60	1.10	11.9	
77	Ⅲ	Ⅱ層-6	使用痕剥片	F-3	Ⅱ	12	頁 岩		4.40	2.10	0.90	5.0	
78	Ⅲ	Ⅱc層-110	剥 片	F-3	Ⅱc	12	ホルンフェルスⅡ		8.60	3.30	1.90	29.0	
79	Ⅲ	Ⅱb層-178+Ⅱc層-86	剥 片	D-2	Ⅱb Ⅱc	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅱ-3	11.00	4.55	2.70	37.7	
80	Ⅲ	Ⅱb層-101	剥 片	D-4	Ⅱb	外	ホルンフェルスⅡ		1.98	2.35	0.90	2.8	
81	Ⅲ	Ⅱb層-80	剥 片	C-3	Ⅱb	6	ホルンフェルスⅠ		3.40	3.80	1.00	9.7	
82	Ⅲ	Ⅱc層-119	潤整剥片	E-2	Ⅱc	8	流紋岩Ⅱ		0.73	1.60	0.35	0.1	
83	Ⅲ	Ⅱb層-111	石 核	E-3	Ⅱb	外	頁 岩		3.86	7.05	5.47	131.8	
84	Ⅲ	Ⅱb層-329	石 核	C-2	Ⅱb	5	頁 岩		9.20	5.68	4.45	237.1	
85	Ⅲ	Ⅱb層-16	石 核	E-2	Ⅱb	11	建質頁岩		2.30	3.00	1.40	5.4	
86	Ⅲ	Ⅱb層-3	石 核	C-3	Ⅱb	外	黒曜石Ⅱ		2.20	2.40	1.28	5.2	
87	Ⅲ	Ⅱc層-144	石 核	D-2	Ⅱc	9	流紋岩Ⅱ		5.20	4.40	3.10	48.8	
88	Ⅲ	Ⅱb層-237	敲 石	F-2	Ⅱb	12	砂 岩		13.50	7.60	4.20	569.3	
89	Ⅲ	Ⅱc層-222	敲 石	B-2	Ⅱc	4	砂 岩		9.25	7.80	2.90	299.4	
90	Ⅲ	Ⅱb層-179	敲 石	D-2	Ⅱb	8	砂 岩		4.35	4.92	4.10	111.2	
91	Ⅲ	Ⅱb層-395	敲 石	D-2	Ⅱb	外	砂 岩		13.00	9.30	4.70	701.7	
92	Ⅲ	Ⅱb層-93	凹 石	C-3	Ⅱb	6	砂 岩		11.75	11.80	4.01	737.8	
93	Ⅲ	Ⅱc層-270+Ⅱc層-271	磨 石	D-2 B-3	Ⅱc	4	砂 岩	Ⅱ-4	10.40	7.40	3.95	448.2	
94	Ⅲ	Ⅱb層-258	台 石	F-2	Ⅱb	外	砂 岩		26.85	22.60	6.30	5200.0	
95	Ⅲ	Ⅱc層-214	台 石	D-2	Ⅱc	3	砂 岩		30.45	20.30	5.00	5000.0	

国 庫 番 号	文化層	注記番号	器 種	グリップ	層位	ブロック	石 材	整合 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
96	Ⅲ	Ⅱb層-238	台 石	F-3	Ⅱb	12	砂 岩		33.10	21.70	10.60	9500.0	
97	Ⅲ	Ⅱb層-150	剥 片	D-2	Ⅱb	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	1.80	3.45	0.54	3.0	
98	Ⅲ	Ⅱc層-47+Ⅱb層-145	剥 片	D-2	Ⅱc Ⅱb	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	8.00	5.65	2.20	56.9	
99	Ⅲ	Ⅱb層-147	剥 片	D-2	Ⅱb	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	9.15	4.58	3.10	61.3	
100	Ⅲ	Ⅱb層-143	剥 片	D-2	Ⅱb	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	6.70	4.35	1.50	35.5	
101	Ⅲ	Ⅱb層-171	剥 片	D-2	Ⅱb	7	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	6.85	7.64	2.82	129.1	
102	Ⅲ	Ⅱb層-152+Ⅱc層-33+Ⅱb層-151	剥 片	D-2	Ⅱb Ⅱa	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	10.45	5.90	3.60	102.5	
103	Ⅲ	Ⅱc層-45+Ⅱb層-144+Ⅱc層-48	剥 片	D-2	Ⅱb Ⅱc	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	5.73	4.49	1.12	23.5	
104	Ⅲ	Ⅱb層-193+Ⅱb層-196	剥 片	D-2	Ⅱb	8	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	5.80	6.57	1.60	42.1	
105	Ⅲ	Ⅱc層-164	剥 片	D-2	Ⅱc	10	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	5.50	4.25	1.53	24.8	
106	Ⅲ	Ⅱc層-161	剥 片	D-2	Ⅱc	10	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	4.80	3.35	1.40	11.2	
107	Ⅲ	Ⅱc層-179+Ⅱc層-49+Ⅱc層-36	剥 片	D-2 D-3	Ⅱc	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	2.20	3.78	0.82	31.8	
108	Ⅲ	Ⅱc層-166	剥 片	D-2	Ⅱc	10	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	2.40	4.00	1.37	10.5	
109	Ⅲ	Ⅱc層-135	剥 片	D-2	Ⅱc	7	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	2.00	2.56	0.65	2.5	
110	Ⅲ	Ⅱb層-161	剥 片	D-2	Ⅱb	7	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	2.90	2.70	0.85	4.5	
111	Ⅲ	Ⅱc層-51	剥 片	D-2	Ⅱc	7	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	3.70	3.00	1.10	7.1	
112	Ⅲ	Ⅱb層-162	剥 片	D-2	Ⅱb	7	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	3.75	3.20	1.15	8.9	
113	Ⅲ	Ⅱb層-140	剥 片	D-3	Ⅱb	10	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	0.46	2.43	0.46	0.3	
114	Ⅲ	Ⅱc層-41	剥 片	D-2	Ⅱc	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	5.40	6.78	2.40	64.7	
115	Ⅲ	Ⅱc層-153	剥 片	D-2	Ⅱc	7	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	1.90	3.40	0.88	5.0	
116	Ⅲ	Ⅱc層-43	石 核	D-2	Ⅱc	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	6.95	5.60	2.45	72.9	
117	Ⅲ	Ⅱc層-167	剥 片	D-2	Ⅱc	10	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	7.12	3.75	2.85	56.8	
118	Ⅲ	Ⅱb層-335	剥 片	D-3	Ⅱb	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	2.48	3.10	0.70	3.7	
119	Ⅲ	Ⅱb層-154	剥 片	D-2	Ⅱb	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	3.90	4.85	1.30	15.5	
120	Ⅲ	Ⅱc層-146	剥 片	D-2	Ⅱc	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	2.50	4.10	1.25	9.0	
121	Ⅲ	Ⅱb層-148	剥 片	D-2	Ⅱb	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	4.18	5.10	1.95	22.0	
122	Ⅲ	Ⅱc層-44	石 核	D-2	Ⅱc	9	流紋岩Ⅱ	Ⅲ-5	4.70	6.25	4.60	123.0	
123	Ⅲ	Ⅱb層-216	剥 片	F-3	Ⅱb	12	流紋岩Ⅲ	Ⅲ-6	3.65	2.30	0.90	5.2	
124	Ⅲ	Ⅱa層-2	剥 片	F-2	Ⅱa	12	流紋岩Ⅲ	Ⅲ-6	2.20	1.42	0.70	1.8	
125	Ⅲ	Ⅱb層-218	剥 片	F-2	Ⅱb	12	流紋岩Ⅲ	Ⅲ-6	2.85	2.50	1.20	6.6	
126	Ⅲ	Ⅱ層-4	剥 片	F-3	Ⅱ	12	流紋岩Ⅲ	Ⅲ-6	2.70	2.35	1.00	5.2	
127	Ⅲ	Ⅱ層-23	石 核	F-3	Ⅱ	12	流紋岩Ⅲ	Ⅲ-6	3.68	4.30	2.90	33.7	
128	Ⅲ	Ⅱc層-192	剥 片	B-2	Ⅱc	4	流紋岩Ⅳ	Ⅲ-7	6.15	6.25	2.20	83.6	
129	Ⅲ	Ⅱb層-327	バルバスク剥片	C-2	Ⅱb	4	流紋岩Ⅳ	Ⅲ-7	2.00	1.50	0.20	0.3	
130	Ⅲ	Ⅱc層-193	剥 片	B-2	Ⅱc	4	流紋岩Ⅳ	Ⅲ-7	4.40	2.35	1.25	7.6	
131	Ⅲ	Ⅱc層-223	剥 片	B-3	Ⅱc	4	流紋岩Ⅳ	Ⅲ-7	1.95	2.40	0.70	2.9	
132	Ⅲ	Ⅱb層-98	剥 片	C-2	Ⅱb	5	流紋岩Ⅴ	Ⅲ-8	2.90	2.55	0.50	2.1	
133	Ⅲ	Ⅱb層-331	石 核	C-2	Ⅱb	3	流紋岩Ⅴ	Ⅲ-8	6.00	5.50	4.37	142.2	
134	Ⅲ	Ⅱc層-92	剥 片	E-2	Ⅱc	8	海成凝灰岩	Ⅲ-9	1.70	2.30	0.92	2.5	
135	Ⅲ	Ⅱc層-122	剥 片	D-2	Ⅱc	10	海成凝灰岩	Ⅲ-9	2.70	2.80	0.28	6.8	
136	Ⅲ	Ⅱa層-17	剥 片	E-2	Ⅱa	外	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-10	6.60	2.90	1.60	11.4	
137	Ⅲ	Ⅱb層-200	剥 片	D-2	Ⅱb	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-10	7.90	3.90	1.60	24.1	

図面 番号	文化層	注記番号	器 種	グリップ	附 位	ブロック	石 材	接合 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
138	Ⅲ	Ⅰc器-66	剥片	D-2	Ⅰc	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-10	7.40	4.40	1.55	50.4	
139	Ⅲ	Ⅰb器-196+Ⅰb器-205	剥片	D-2	Ⅰb	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-11	5.08	5.86	1.77	44.6	
140	Ⅲ	Ⅰb器-204	剥片	D-2	Ⅰb	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-11	4.60	7.10	2.50	48.3	
141	Ⅲ	Ⅰb器-182	剥片	D-2	Ⅰb	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-11	5.00	4.30	1.20	18.2	
142	Ⅲ	Ⅰc器-131+Ⅰc器-71+Ⅰc器-76	剥片	D-2	Ⅰc	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-12	6.20	5.10	1.70	39.7	
143	Ⅲ	Ⅰc器-65	剥片	D-2	Ⅰc	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-12	5.10	2.80	2.30	14.6	
144	Ⅲ	Ⅰb器-203	剥片	D-2	Ⅰb	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-12	3.60	2.40	1.30	7.0	
145	Ⅲ	Ⅰb器-183	剥片	D 2	Ⅰb	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-12	2.60	4.60	2.10	14.2	
146	Ⅲ	Ⅰb器-184	剥片	D-2	Ⅰb	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-12	2.30	3.30	1.70	8.6	
147	Ⅲ	Ⅰb器-186	剥片	D-2	Ⅰb	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-12	4.70	5.30	2.40	43.9	
148	Ⅲ	Ⅰc器-89	剥片	D-2	Ⅰc	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-12	5.80	2.80	1.60	15.9	
149	Ⅲ	Ⅰc器-62+Ⅰc器-73	剥片	D-2	Ⅰc	8	ホルンフェルスⅠ	Ⅲ-12	6.90	4.80	2.60	44.0	
150	Ⅲ	Ⅰa器-116	剥片	F-3	Ⅰa	12	ホルンフェルスⅢ	Ⅲ-13	7.45	3.10	2.25	31.3	
151	Ⅲ	Ⅰ器-12	剥片	F-2	Ⅰ	12	ホルンフェルスⅢ	Ⅲ-13	3.22	1.70	0.95	3.9	
152	Ⅲ	Ⅰb器-219+Ⅰ器-16	剥片	F-2	Ⅰb Ⅰ	12	ホルンフェルスⅢ	Ⅲ-13	5.10	4.70	1.23	15.1	
153	Ⅲ	Ⅰb器-226	剥片	F-2	Ⅰb	12	ホルンフェルスⅢ	Ⅲ-13	3.10	2.45	0.70	4.4	
154	Ⅲ	Ⅰb器-223	剥片	F-2	Ⅰb	12	ホルンフェルスⅢ	Ⅲ-13	4.35	3.10	1.00	7.9	
155	Ⅲ	Ⅰb器-235	石核	F-2	Ⅰb	12	ホルンフェルスⅢ	Ⅲ-13	7.30	9.40	6.63	382.4	
156	Ⅲ	Ⅰc器-24	剥片	D-3	Ⅰc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	3.50	3.70	1.23	11.8	
157	Ⅲ	Ⅰa器-22	剥片	D-3	Ⅰa	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	1.51	1.70	0.33	0.8	
158	Ⅲ	Ⅰc器-165	剥片	D-2	Ⅰc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	3.20	2.65	0.90	6.0	
159	Ⅲ	Ⅰc器-3	剥片	D-2	Ⅰc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	2.90	4.30	1.20	10.0	
160	Ⅲ	Ⅰb器-67	剥片	E-3	Ⅰb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	2.05	2.80	0.52	1.7	
161	Ⅲ	Ⅰb器-114	剥片	D-3	Ⅰb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	2.15	3.05	0.70	2.7	
162	Ⅲ	Ⅰc器-26	剥片	D-3	Ⅰc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	5.30	4.40	1.30	32.2	
163	Ⅲ	Ⅰa器-25	剥片	D-3	Ⅰa	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	4.00	4.35	1.83	21.8	
164	Ⅲ	Ⅰb器-139+Ⅰb器-136	剥片	D-3	Ⅰb	外・10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	2.80	4.15	0.75	5.6	
165	Ⅲ	Ⅰa器-27+Ⅰa器-24	剥片	D-3	Ⅰa	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	5.50	4.70	1.35	21.9	
166	Ⅲ	Ⅰb器-116	剥片	D-3	Ⅰb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	1.25	1.35	0.63	1.0	
167	Ⅲ	Ⅰa器-26+Ⅰc器-170	剥片	D-3 D-2	Ⅰa Ⅰc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	3.20	2.73	1.40	9.3	
168	Ⅲ	Ⅰb器-141	剥片	D-3	Ⅰb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	3.73	4.83	2.25	18.5	
169	Ⅲ	Ⅰb器-136	剥片	D-3	Ⅰb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	3.58	5.20	1.38	19.4	
170	Ⅲ	Ⅰa器-23	剥片	D-3	Ⅰa	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	3.38	3.75	1.70	9.9	
171	Ⅲ	Ⅰc器-25	石核	D-3	Ⅰc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	4.60	6.25	2.40	52.2	
172	Ⅲ	Ⅰb器-137	剥片	D-3	Ⅰb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	2.40	1.75	0.85	3.4	
173	Ⅲ	Ⅰb器-358	剥片	D-3	Ⅰb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	4.05	2.45	1.60	13.8	
174	Ⅲ	Ⅰb器-128	剥片	D-3	Ⅰb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	2.60	1.65	0.50	1.8	
175	Ⅲ	Ⅰc器-174	剥片	D-3	Ⅰc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	4.50	3.30	1.20	11.1	
176	Ⅲ	Ⅰc器-82	石核	D-2	Ⅰc	8	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-14	3.80	7.22	4.25	103.2	
177	Ⅲ	Ⅰc器-169	剥片	D-2	Ⅰc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-15	3.30	2.65	1.16	6.8	
178	Ⅲ	Ⅰc器-388	剥片	D-2	Ⅰc	9	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-15	1.65	3.38	0.94	4.5	

図面 番号	文化層	注記番号	器 種	クワッド	階 位	ブロック	石 材	接合 番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
179	Ⅲ	Ⅹb層-153	剥片	D-2	Ⅹb	9	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-15	4.50	1.95	1.96	14.9	
180	Ⅲ	Ⅹc層-42	石核	D-2	Ⅹc	9	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-15	4.78	4.58	2.49	63.8	
181	Ⅲ	Ⅹb層-134	剥片	D-3	Ⅹb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-16	3.80	2.53	1.20	8.7	
182	Ⅲ	Ⅹc層-175+Ⅹc層-229	剥片	D-3 B-3	Ⅹc	10・外	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-16	5.48	8.00	2.98	123.4	
183	Ⅲ	Ⅹc層-160+Ⅹb層-126	剥片	D-2 D-3	Ⅹc Ⅹb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-17	5.25	4.10	0.60	16.9	
184	Ⅲ	Ⅹc層-123	剥片	D-2	Ⅹc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-18	7.10	4.10	2.35	85.5	
185	Ⅲ	Ⅹc層-162	剥片	D-2	Ⅹc	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-18	5.10	3.70	1.75	30.2	
186	Ⅲ	Ⅹc層-70+Ⅹb層-187	剥片	D-2	Ⅹc Ⅹb	8	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-19	3.05	1.95	0.65	3.6	
187	Ⅲ	Ⅹb層-323	剥片	C-2	Ⅹb	4	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-19	3.10	3.50	0.71	6.4	
188	Ⅲ	Ⅹc層-37	使用痕剥片	D-2	Ⅹc	9	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-20	3.90	5.00	1.30	27.3	
189	Ⅲ	Ⅹb層-71	使用痕剥片	E-3	Ⅹb	10	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-20	6.25	4.22	2.35	51.0	
190	Ⅲ	Ⅹa層-210	剥片	D-2	Ⅹb	8	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-21	3.55	3.40	0.68	6.7	
191	Ⅲ	Ⅹc層-127	剥片	D-2	Ⅹc	8	ホルンフェルスⅡ	Ⅲ-21	1.21	1.62	1.15	1.1	
192	Ⅲ	Ⅹb層-81	剥片	C-3	Ⅹb	6	ホルンフェルスⅣ	Ⅲ-22	2.77	2.04	0.68	3.1	
193	Ⅲ	Ⅹb層-4	剥片	C-4	Ⅹb	6	ホルンフェルスⅣ	Ⅲ-22	2.28	2.09	0.38	2.2	
194	Ⅲ	Ⅹc層-6+Ⅹc層-11	剥片	D-2 D-3	Ⅹc	10	ホルンフェルスⅤ	Ⅲ-23	7.60	7.35	3.60	118.2	
195	Ⅲ	Ⅹc層-22	剥片	D-3	Ⅹc	10	ホルンフェルスⅤ	Ⅲ-23	4.65	3.45	1.40	15.4	
196	Ⅲ	Ⅹc層-38	剥片	D-2	Ⅹc	9	ホルンフェルスⅤ	Ⅲ-23	5.65	4.79	2.63	62.6	
197	Ⅲ	Ⅹb層-354	剥片	D-3	Ⅹb	9	ホルンフェルスⅤ	Ⅲ-23	4.22	4.25	1.95	29.1	
198	Ⅲ	Ⅹc層-35	石核	D-3	Ⅹc	10	ホルンフェルスⅤ	Ⅲ-23	5.15	7.30	5.35	246.3	
199	Ⅲ	Ⅹc層-39	剥片	D-2	Ⅹc	9	頁岩Ⅲ	Ⅲ-24	5.10	5.25	2.55	47.6	
200	Ⅲ	Ⅹc層-23	剥片	D-3	Ⅹc	10	頁岩Ⅲ	Ⅲ-24	6.70	5.95	3.80	119.9	
201	Ⅲ	Ⅹc層-16	剥片	D-3	Ⅹc	10	頁岩Ⅲ	Ⅲ-24	2.65	1.85	1.11	5.1	
202	Ⅲ	Ⅹc層-5	剥片	D-2	Ⅹc	10	頁岩Ⅲ	Ⅲ-24	6.20	4.15	1.90	30.8	
203	Ⅲ	Ⅹc層-8+Ⅹc層-7	剥片	D-2	Ⅹc	10	頁岩Ⅲ	Ⅲ-24	5.20	5.30	2.78	50.5	
204	Ⅲ	Ⅹc層-1	石核	C-3	Ⅹc	外	頁岩Ⅲ	Ⅲ-24	6.70	8.55	6.80	501.5	
205	Ⅲ	Ⅹb層-345	剥片	B-2	Ⅹb	3	チャートⅡ	Ⅲ-25	1.10	1.90	0.75	1.4	
206	Ⅲ	Ⅹb層-337	剥片	B-2	Ⅹb	3	チャートⅡ	Ⅲ-25	1.60	1.80	0.45	0.9	
207	Ⅲ	Ⅹb層-294	剥片	B-2	Ⅹb	3	チャートⅡ	Ⅲ-25	3.85	2.10	1.72	8.8	
208	Ⅲ	Ⅹb層-296	剥片	B-2	Ⅹb	3	チャートⅡ	Ⅲ-25	2.35	2.25	0.80	2.9	
209	Ⅲ	Ⅹb層-299	剥片	B-2	Ⅹb	3	チャートⅡ	Ⅲ-25	3.12	1.35	0.80	1.9	
210	Ⅲ	Ⅹb層-313	剥片	B-3	Ⅹb	4	チャートⅡ	Ⅲ-25	3.60	3.62	1.25	13.0	
211	Ⅲ	Ⅹb層-293	剥片	B-2	Ⅹb	3	チャートⅡ	Ⅲ-25	1.85	0.90	0.23	0.3	
212	Ⅲ	Ⅹb層-92	石核	C-3	Ⅹb	外	チャートⅡ	Ⅲ-25	5.30	6.80	4.50	145.8	
213	Ⅲ	Ⅹc層-56	スクレイパー	D-2	Ⅹc	7	チャートⅢ	Ⅲ-26	5.50	4.35	1.95	38.4	
214	Ⅲ	Ⅹc層-136	剥片	D-2	Ⅹc	7	チャートⅢ	Ⅲ-26	2.20	3.78	0.82	6.0	
215	Ⅲ	Ⅹb層-261	剥片	F-3	Ⅹb	12	チャートⅢ	Ⅲ-26	2.90	4.35	0.85	9.4	
216	Ⅲ	Ⅹb層-243	剥片	F-3	Ⅹb	12	チャートⅢ	Ⅲ-26	5.40	4.25	1.20	27.5	
217	Ⅲ	Ⅹb層-242	剥片	F-3	Ⅹb	12	チャートⅢ	Ⅲ-26	5.50	3.68	1.20	17.8	
218	Ⅲ	Ⅹa層-4	剥片	F-2	Ⅹa	12	チャートⅢ	Ⅲ-26	5.40	2.80	1.10	15.8	
219	Ⅲ	Ⅹa層-63+Ⅹc層-64	剥片	F-3	Ⅹa	12	チャートⅢ	Ⅲ-26	6.70	2.60	0.65	8.7	
220	Ⅲ	Ⅹb層-221	剥片	F-2	Ⅹb	12	チャートⅢ	Ⅲ-26	5.80	6.10	1.55	44.1	

4. 第IV文化層の遺構と遺物

第IV文化層の調査では、第II章第2節でも述べたとおり、一部、人力による掘り下げを行い、他は重機でIXa層まで掘り下げを行った。VI層～VII層上部で礫群1基（礫群13）とそれに隣接してブロック1箇所（ブロック13）が確認されている。

(1) 礫群

礫は42点（5.409kg）確認されており、そのほとんどが礫群を構成する以外は周辺に散在する程度である。礫間接合は礫群内以外に1例確認されている（ブロック13内）。

礫群（第58図・第59図）

礫群13はVI層下部・F-3グリットで検出した。約1.5m×約0.6mの範囲に礫が比較的散漫な状態で分布する。そのうち南側には0.41m×0.39m、深さ9cmの浅い掘り込みがあり、掘り込み内には弧状に礫がまとまっている。総数32点の砂芯（総重量4.413kg）で構成されており、いずれも赤化し、大半が破砕している。礫間接合は5個体分（完形なし）ある。炭化物は周辺には認められたが、掘り込み内には認められなかった。

(2) 石器

石器は25点出土し、その内訳は使用痕剥片1点、剥片22点、石核2点である。石材は頁岩（15点・660.2g）やホルンフェルス（5点・58.1g）、チャート（1点・2.0g）、緑色珪質頁岩1点（1点・8.2g）、流紋岩（1点・9.2g）、黒曜石I類（1点・2.6g）、安山岩（1点・2.1g）が利用されている。接合資料は3例あり、そのうち1例はブロック外である。

ブロック（第58図・第59図）

ブロック13は、約1.6m×約0.5mの範囲に剥片10点、石核1点が散漫な状態で分布する。南に位置する2号礫群とは約2.5mである。接合資料は2例あり、ブロック外のもと接合する。

使用痕剥片（第58図・第59図）

1点のみ出土。複剥離打面を有する縦長剥片の両側縁に使用痕が認められる。

剥片（第58図・第59図）

222～224は幅広の剥片、225は不定形剥片、226の縦長剥片である。

石核（第61図・第59図）

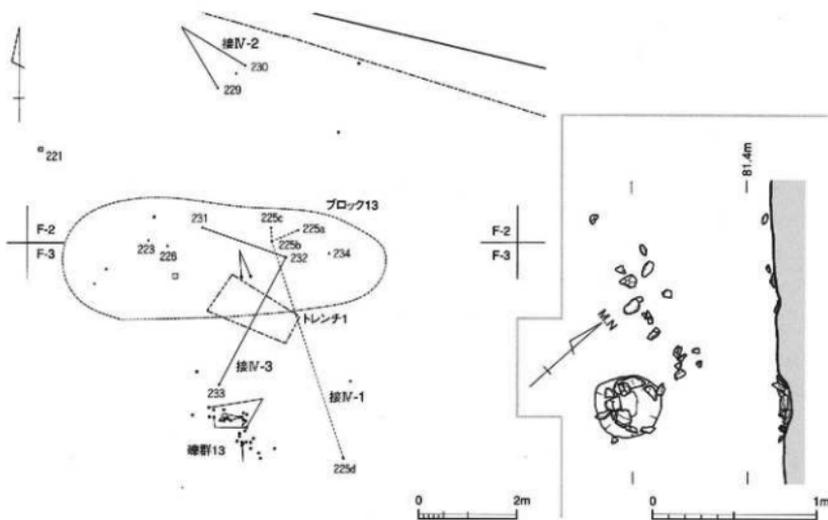
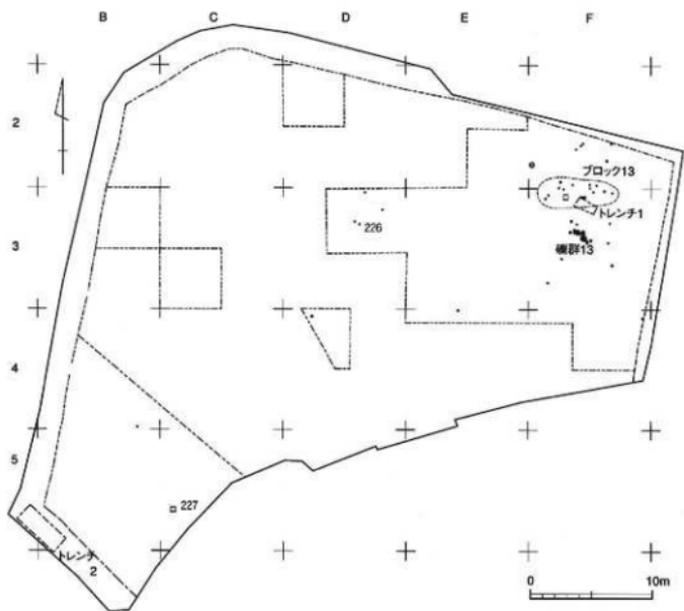
2点確認されており、227は礫の一端に打面を設定し、剥片剥離を行っており、チョッピングツール状を呈している。228は上下面を打面にして、剥片剥離を行い、その後上下面とも、打面再生を行っている。

接合資料（第60図225・第61図229～第62図）

接合資料は3例確認されており、そのうち接合資料IV-1は剥片剥離の際に節理などの要因により、5点に分割されたものと考えられる。

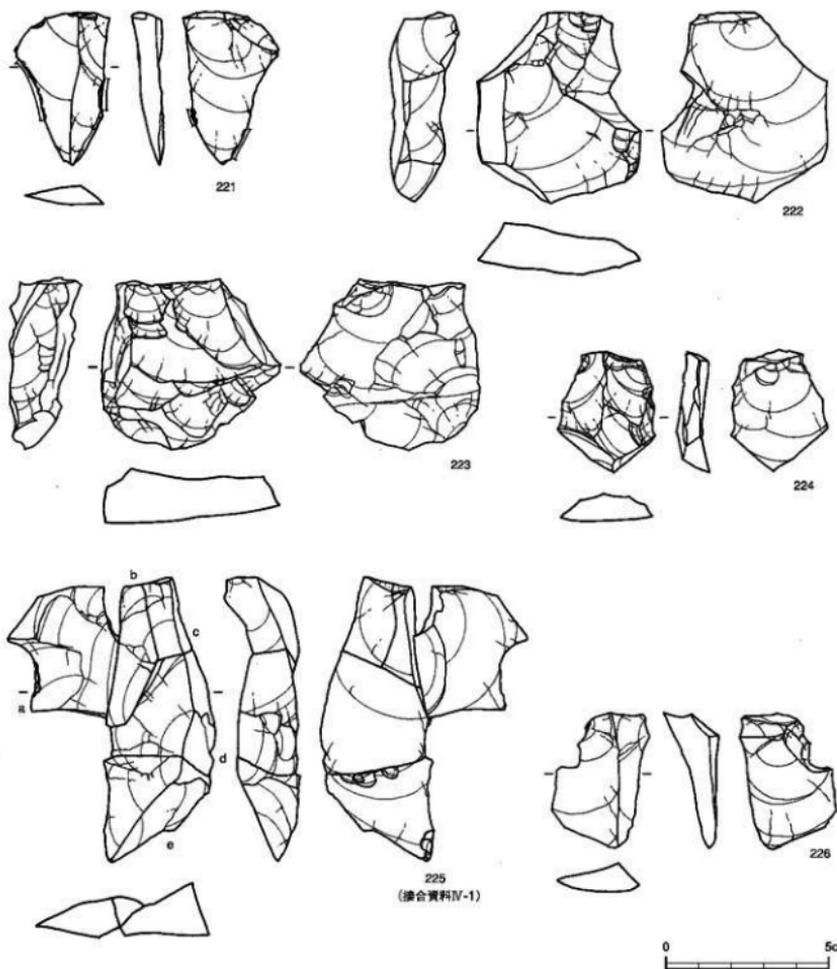
接合資料IV-2は、剥片2点の資料で平坦打面を有する石核から229→○→230と剥片を剥出する。229は剥離の際、垂直割れを起こす。

接合資料IV-3は、剥片3点の資料で剥片素材の石核から調整なしに231→232→233と連続的に剥離する。

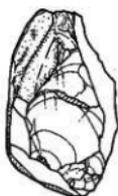
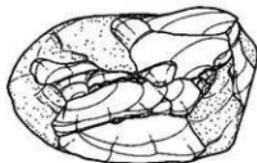
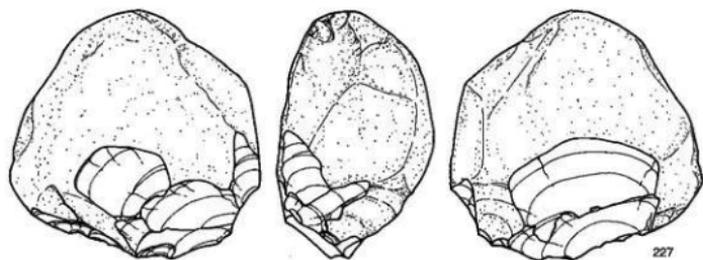


第58図 第IV文化層遺物分布図(S=1/400)(S=1/100)

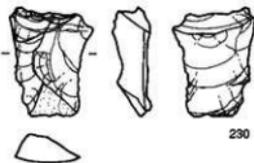
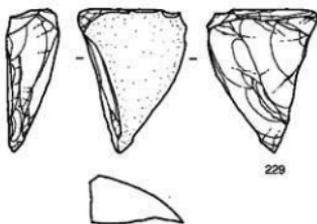
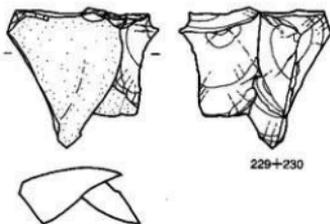
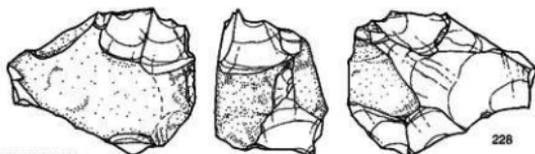
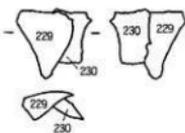
第59図 礫群13実測図(S=1/30)



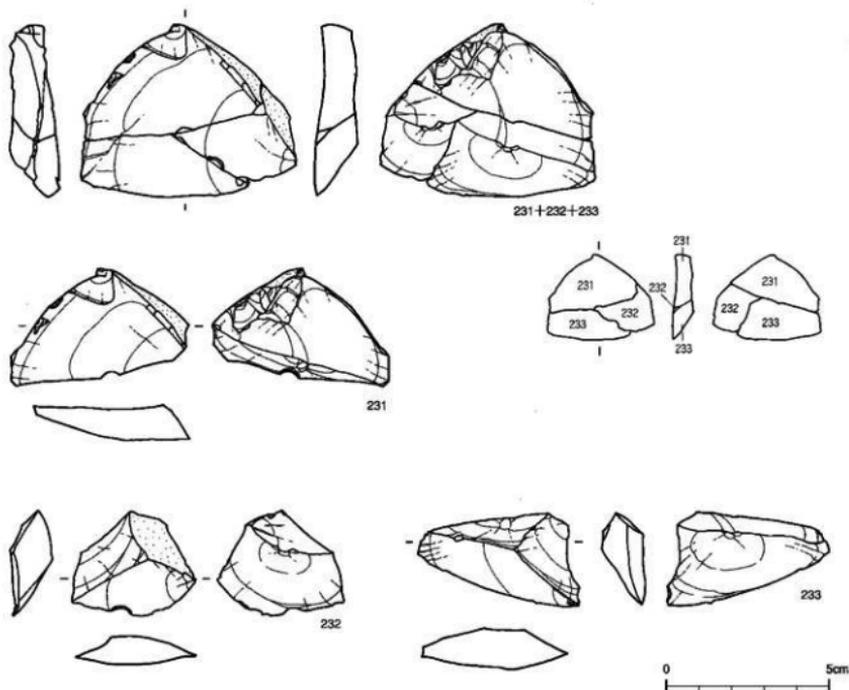
第60図 第Ⅳ文化層石器実測図(1)(S=2/3)



接合資料Ⅳ-2



第61圖 第Ⅳ文化層石器実測図(2)(S=2/3)

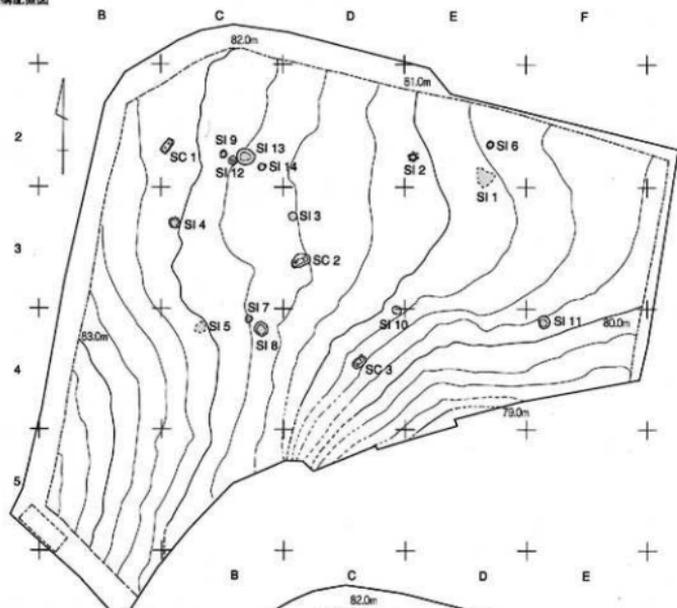


第62図 第Ⅳ文化層石器実測図(3) (S=2/3)

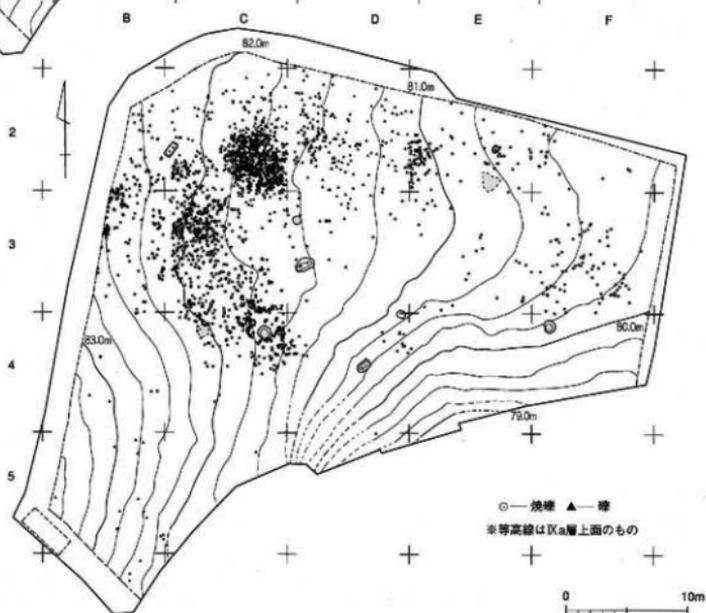
第7表 第Ⅳ文化層石器計測表

図面番号	文化層	注記番号	器種	グリッド	階位	ブロック	石材	接合番号	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
221	Ⅳ	Ⅳ層-12	使用痕測片	F-2	Ⅵ		緑色珪質頁岩		4.65	2.90	1.00	8.2	
222	Ⅳ	Ⅳ層-5	剥片	F-3	Ⅵ	13	頁岩		5.80	5.00	2.15	53.6	
223	Ⅳ	Ⅳ層-22	剥片	F-2	Ⅵ	13	頁岩		5.20	5.40	2.18	59.8	
224	Ⅳ	Ⅳ層-7	剥片	F-3	Ⅵ	13	流紋岩		3.70	2.90	0.95	9.2	
225	Ⅳ	Ⅳ層-6+Ⅳ層-18 +Ⅳ層-19+Ⅳ層-26+松木橋	剥片	F-2 F-3	Ⅵ	13+外	頁岩	Ⅳ-1	8.65	6.25	2.25	62.3	
226	Ⅳ	Ⅳ層-9	剥片	D 3	Ⅵ		頁岩		4.200	2.900	1.700	9.800	
227	Ⅳ	Ⅳ層-2	石核	C-5	Ⅵ		頁岩		7.700	7.600	4.750	358.100	
228	Ⅳ	Ⅳ層-21	石核	F-3	Ⅵ		頁岩		4.500	3.400	5.700	83.200	
229	Ⅳ	Ⅳ層-13	剥片	F-2	Ⅵ		頁岩	Ⅳ-2	4.400	3.350	1.650	18.100	
230	Ⅳ	Ⅳ層-15	剥片	F-2	Ⅵ		ホルンフェルス	Ⅳ-2	3.300	2.500	1.150	6.600	
231	Ⅳ	Ⅳ層-29	剥片	F 2	Ⅳ	13	ホルンフェルス	Ⅳ 3	3.600	5.350	1.380	19.400	
232	Ⅳ	Ⅳ層-20	剥片	F-3	Ⅵ	13	ホルンフェルス	Ⅳ-3	3.100	3.800	0.850	10.600	
233	Ⅳ	Ⅳ層-22	剥片	F-3	Ⅳ		ホルンフェルス	Ⅳ-3	2.800	4.850	1.350	12.600	

遺構配置図



散礫分布図



第63図 縄文時代早期遺構配置図および散礫分布図(S=1/400)

第2節 縄文時代早期以降の調査

1. 縄文時代早期の遺構と遺物

(1) 遺構

縄文時代早期では、散礫とともに、集石遺構14基、陥し穴状遺構3基が確認されている。散礫の分布をみていくと、集石遺構の周辺に多く、特にC列のSI9・12~14の周辺とその南に位置するSI4・5・7・8に礫が集中する傾向が認められる。散礫は約2,500点(244.5kg)で構成されており、そのうち約96%に赤化が認められる。大半の礫は砂岩で構成されており、破砕したもの(拳大より小)が多く、完形にちかいものは1/3にも満たない(第63図)。

集石遺構(SI)(第64図~第66図、第8表)

集石遺構は主にIVb層で14基が確認されている。そのほとんどが、調査区中央の比較的傾斜の緩やかな範囲に分布し、SI9・12~14を中心とするまとまりと、SI5・7・8、SI1・2・6といった3つのまとまりが認められる。

集石遺構は小規模のものが目立ち、1m以下のものが全体の約75%を占める。また12基が掘り込みを有し、そのうちSI11・12が配石を持つ。SI4では掘り込みの壁面に、SI11では掘り込みの埋土内に、部分的に焼土が認められている。構成礫はSI4・12・14でチャートや頁岩がわずかに認められる以外はすべて砂岩で構成されていた。

第8表 集石遺構一覧表

遺構番号	層位	グリッド	出土遺物	礫の範囲(m) 最大長×最大幅	掘り込み遺構(m) 最大長×最大幅×深さ	構成礫数 (計測個数)	構成重量 (kg)	礫の 密度	配石 有無	炭化物 有無	備 考
SI1	IVb	E-2	-	1.8×1.58	-	69	25.0	疎	×	○	砂岩で構成(すべて破砕)。中央の壁以外は赤化している。0.4~1cm 大の炭化物を若干含む。
SI2	IVb	E-2	-	0.82×0.71	0.69×0.55×0.22	112	24.7	密	×	○	砂岩で構成。掘り込み上面には礫が集中するが掘り込みの中・下部は炭化礫を若干含む。
SI3	IVb	D-3	-	0.68×0.57	0.69×0.57×0.16	73	24.68	密	×	○	砂岩で構成。定形礫4点。炭化物を少量含む。掘り込みを掘りた平たい拳大から拳大つ程度のものが多い。
SI4	IVb	C-3	-	0.91×0.9	0.85×0.85×0.2	381	73.2	密	×	○	1点のみチャート(10.6kg)、礫は砂岩で構成。定形礫2点(7.3kg)。赤化が著しく破砕しているものが多い。土壌上部~中部にかけて焼土が認められ、底面には炭化物が集中。
SI5	IVb	C-4	打製石斧	1.43×0.94	-	142	19.9	密	×	×	砂岩で構成。定形礫7点(1.9kg)。
SI6	IVb	E-2	-	0.57×0.53	0.58×0.56×0.18	63	7.6	疎	×	○	砂岩で構成。定形礫2点(2.6kg)。
SI7	IVb	C-4	-	1×0.78	0.62×0.54×0.12	83	9.2	密	×	○	砂岩で構成。定形礫2点(0.9kg)。炭化物はごく微量に含まれる。
SI8	IVb	C-4	-	1.81×1.32	1.14×1×0.24	576	38.85	疎	×	○	砂岩で構成。定形礫15点(2.1kg)。炭化物が多量に含まれる。 礫の大きさは拳大より小さいものも少なくない。
SI9	IVb	C-2	-	0.66×0.5	0.67×0.53×0.08	77	14.8	密	×	○	砂岩で構成。定形礫6点(0.8kg)。礫はほとんど揃っている。 炭化物(厚5mm以内)が底面に少量含まれる。
SI10	IVb	D-3・4	-	1.0×0.7	0.77×0.73×0.35	271	55.8	密	×	○	砂岩で構成。赤化しているものも多い。
SI11	IVb	F-4	-	1.8×0.99	1.01×0.87×0.31	538	71	密	○	○	砂岩で構成。定形礫5点(2.5kg)。礫は揃っているが、揃っていないものもある。 炭化物・焼土ともに埋土中にみられ、そのうち炭化物(厚4mm)は底面付近に多く含まれる。 ¹⁴ C年代: 8150±40 (コナラ炭コナラ層)。
SI12	IVb	C-2	-	0.9×0.72	0.66×0.62×0.16	170	40.2	密	○	○	1点のみチャート(2.1kg)、礫は砂岩で構成。定形礫5点(1.1kg)。 ¹⁴ C年代: 8200±50。
SI13	IVb	C-2	-	1.65×1.42	1.5×1.3×0.4	1,739	279.1	密	×	○	砂岩で構成。定形礫3点(7.9kg)。 ¹⁴ C年代: 8410±50(コナラ層)。
SI14	IVb	C-2	-	0.84×0.71	0.5×0.47×0.12	73	2.4	疎	×	○	礫は小礫が多。大半が砂岩、一部頁岩で構成。 赤化はそれほど著しくない。

陥し穴状遺構 (SC) (第63図、第67図、第9表)

遺構は3基確認されている。そのうちSC2についてはV層上面で検出したが、他の2基 (SC1・3) については、IV層調査時には確認できず、重機でIV層まで除去した際に誤って、遺構上面を削平してしまった。しかし、埋土やプラン、底面に小穴を有する等、SC2と共通することから、おそらく同時期のもと考えられ、同様の深さまであったものと考えられる。これらは北西方向から南東方向に向かって、列状に配置され、遺構間の距離はSC1からSC2までが約14.5m、SC2からSC3まで約10mを測る。いずれも楕円形プランを呈し、逆茂木痕と考えられる小穴がSC1・3には2個、SC2には3個が長軸方向に配置されている。そのうちSC2については本来、小穴が2個だったものが、あらたに1個追加された可能性も考えられる。

第9表 陥し穴状遺構一覧表

遺構番号	層位	グリッド	出土遺物	主 軸	規模 最大長×最大幅×深さ (m)	平面プラン	小穴	備 考
SC1	IXa	H・C-2	-	N-38° -E	1.28×0.58×0.9	楕円形	2	調査時に遺構上面を削平。
SC2	V	D-3	-	N-64° -E	1.58×1.01×1.81	楕円形	3	上面北側は崩落している。
SC3	IXa	D-4	-	N-51° -E	1.21×0.74×0.56	楕円形	2	調査時に遺構上面を削平。

(2) 縄文土器 (第69図、第10表)

縄文時代早期の土器は31点出土しているが、遺存状況が悪く表面の摩滅が著しい。また、器壁1cm前後の小規模な土器片が目立つため、土器の分類は文様を中心に行った。土器を大別すると貝殻条痕文を施す一群と押型文を施す一群に分けられる。

235~238は、外面に貝殻条痕文を施す一群である。条痕による文様と調整の境は殆どみられない。235のみやや内湾する口縁部片で、その他は胴部片である。235は外面に斜位方向に条痕を施した後、条痕とは垂直に交わる方向で口縁上端部に浅い沈線を施す。内面は、粗いナデ調整である。236は外面に斜位方向に数条の浅い条痕を施す。内面は、ナデ調整である。237は外面に浅く細い沈線により幾何学的な区画を施した後、区画内に3~4条単位の条痕を施す。内面は、条痕の後ナデ調整である。238は外面に斜位方向の条痕を施した後、深い沈線を施す。内面は、斜位方向の条痕である。

239~242は押型文土器片である。施文原体が小さく2単位であり、小ぶりの山形文が丁寧なナデ調整の後、施文されている。これらの土器は、胎土や調整、施文単位等の雰囲気から同一個体の可能性が高い。239・240は緩やかに反外しやや波状になる口縁部片で、241・242は緩やかに膨らむ胴部片である。239・240は外面に縦方向あるいは斜位方向の山形文を施し、内面には横方向に山形文を施す。

残存状況から土器型式の判断には苦慮するが、可能性と類似資料をあげるとすれば、235は桑ノ丸式に類するもので、天ヶ城遺跡第VI類に分類された土器群に類似資料がみられる。237・238は壺ノ神式の可能性が高い。押型文土器については、器形と文様からヤトコロ式段階が最も可能性が高いと思われる。しかし、原体の単位や大きさ、襷状文の有無や器形等を総合すると、何れの土器型式にも符号しないことから下菅生B式~ヤトコロ式までの時期幅で捉えておきたい。以上、これらの土器群は大枠で早期中葉にあてはまると思われる。

第10表 縄文土器観察表

番号	出土位置	層位	部位	文様および調色		坑底	色 調		胎 土	備考
				外 面	内 面		外 面	内 面		
235	D-2	IVb	口縁部	斜方向の条痕のうち沈 部文	斜方向の条痕文	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	1mm以下の黒色光沢粒多量 淡黄・灰白粒少量 1mm次の赤色粒少量	
236	D-2	IVa	胴部	斜方向の条痕文	ナデ	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	黄褐色 (2, 5YR5/3)	2mm程度の透明光沢粒やや多く 1mm次の黒色光沢粒やや多く 1mm次の赤褐色粒少量	
237	B-2	IVa	胴部	幾何学沈線のち区画 内に条痕文	ナデ	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	透明光沢粒 3mm前後の黒色光沢粒 1mm以下の乳白・にぶい黄褐色粒	
238	D-2	IVa	胴部	条痕のうち斜方向の沈 部文	条痕文	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	1mm前後の黒色光沢粒 淡黄・乳白粒少量	
239	D-2	IVa	口縁部	斜方向の山形文	横方向の山形文	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	橙(7.5YR6/6)	3mm以下の赤褐色粒 3mm以下の灰褐色粒 1mm以下の黒色光沢粒	
240	C-2 D-2	IVa	口縁部	斜方向の山形文	横方向の山形文	良好	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	6mm以下の赤褐色粒 1mm以下の黒褐色粒 1mm以下の黒色光沢粒	
241	C-2 D-2	IVa	胴部	縦方向の山形文	ナデ	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	1mm前後の透明光沢粒 灰・淡黄色粒 1mm以下の赤褐色粒	
242	C-2 D-2	IVa	胴部	斜方向の山形文	ナデ	良好	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	1mm次の黒色光沢粒 1mm前後の透明光沢粒 2mm以下の灰・淡黄色粒	

(2) 石器 (第70図、第11表)

縄文時代早期の石器は、遺構内および包含層合わせて12点出土しており、その内訳は石鏃2点、剥片9点、打製石斧1点である。

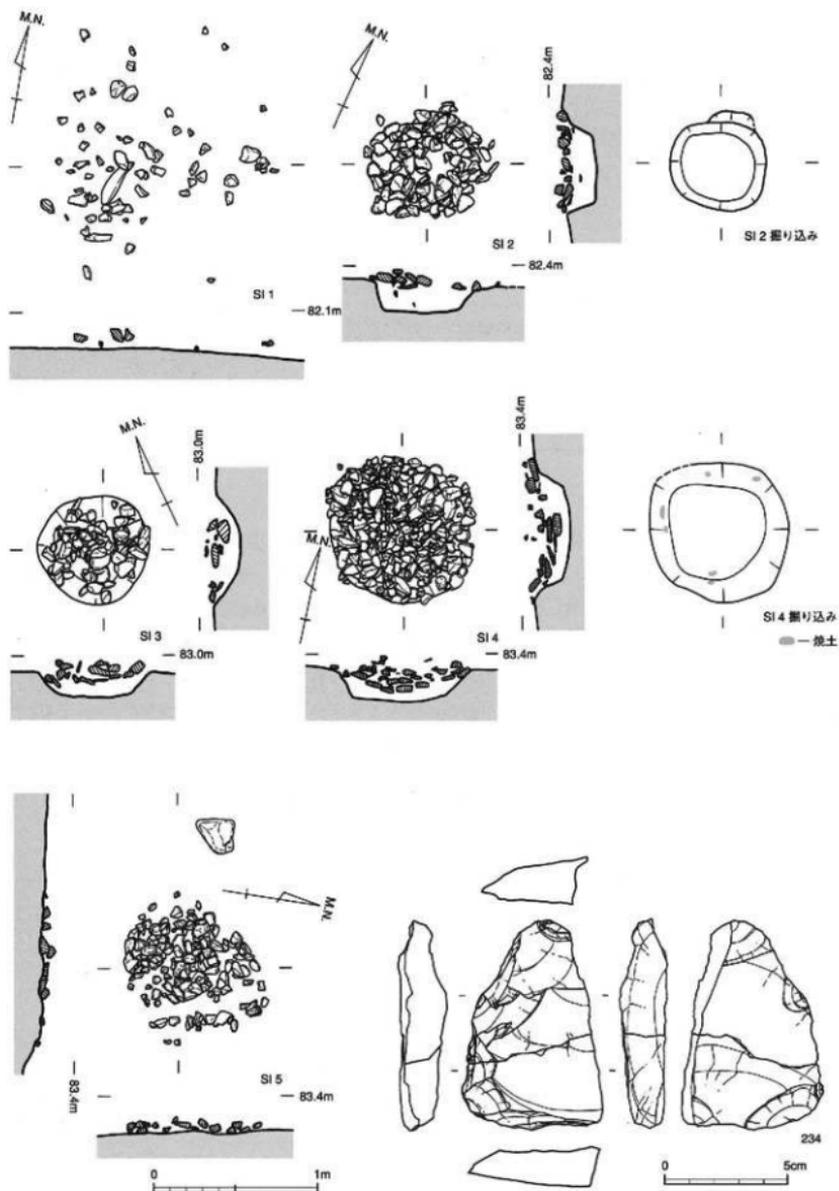
石鏃のうち、243は黒曜石製で二等辺三角形を呈し、基部には浅い抉りが認められる。また、244は姫島産黒曜石製で、先端部と片脚が欠損している。基部には抉りが認められ、脚端が尖る。

剥片は流紋岩(2点)、黒曜石(2点。うち1点は姫島産)、頁岩(4点)、チャート2点、砂岩(1点)の石材が利用されており、横長のもの(245、246)や幅広のもの(247)、不定形等が認められる。

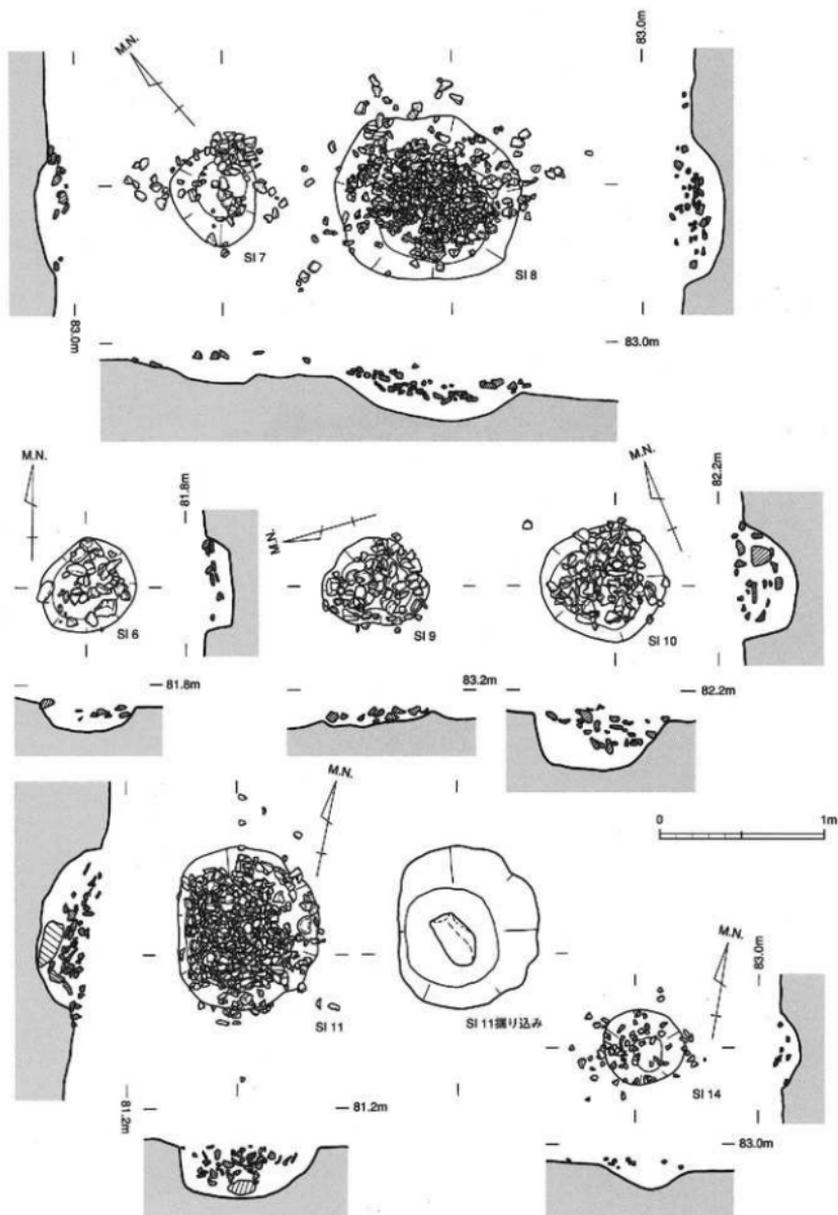
打製石斧はSI5内出土で砂岩製である。右側面を欠損しているが、撥状を呈し、左側面と刃部には比較的粗い加工が施されている。

第11表 縄文時代石器計測表

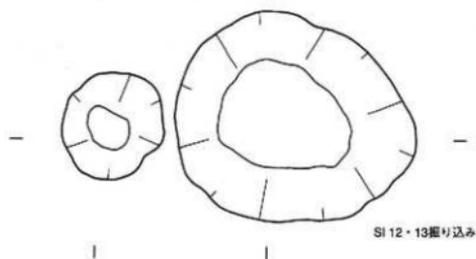
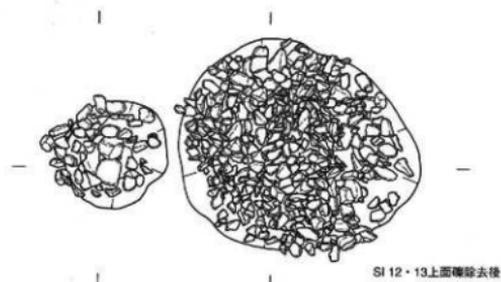
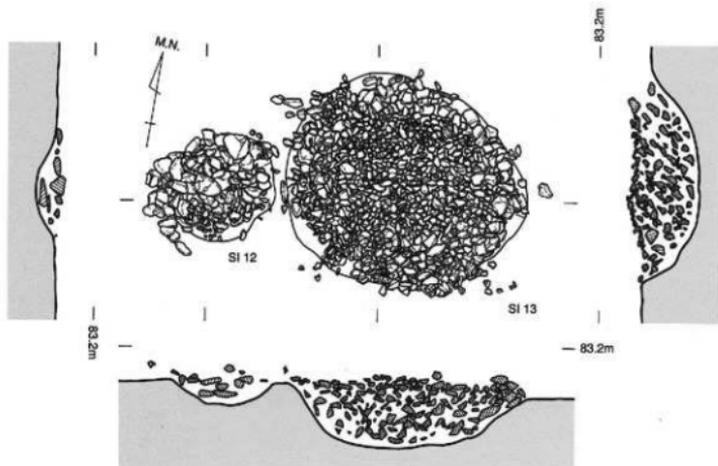
図面 番号	注記番号	部 種	出土 位置	層位	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
234	J-SI5	打製石斧	SI5		砂岩	8.6	5.8	2.0	92.5	全体的に赤化
243	IV層-17	打製石鏃	F-2	IV	黒曜石	2.5	1.4	0.3	0.8	
244	IV層-2	打製石鏃	F-2	IV	黒曜石(姫島産)	1.3	1.4	0.4	0.5	先端部・片脚欠損
245	IV層-4	剥片	F-3	IVb	砂岩	5.2	7.6	2.5	84.3	
246	IV層-31	剥片	E-3	IV	頁岩	3.1	4.5	1.7	22.8	
247	IV層-32	剥片	F-2	IV	頁岩	4.0	4.1	1.5	19.7	



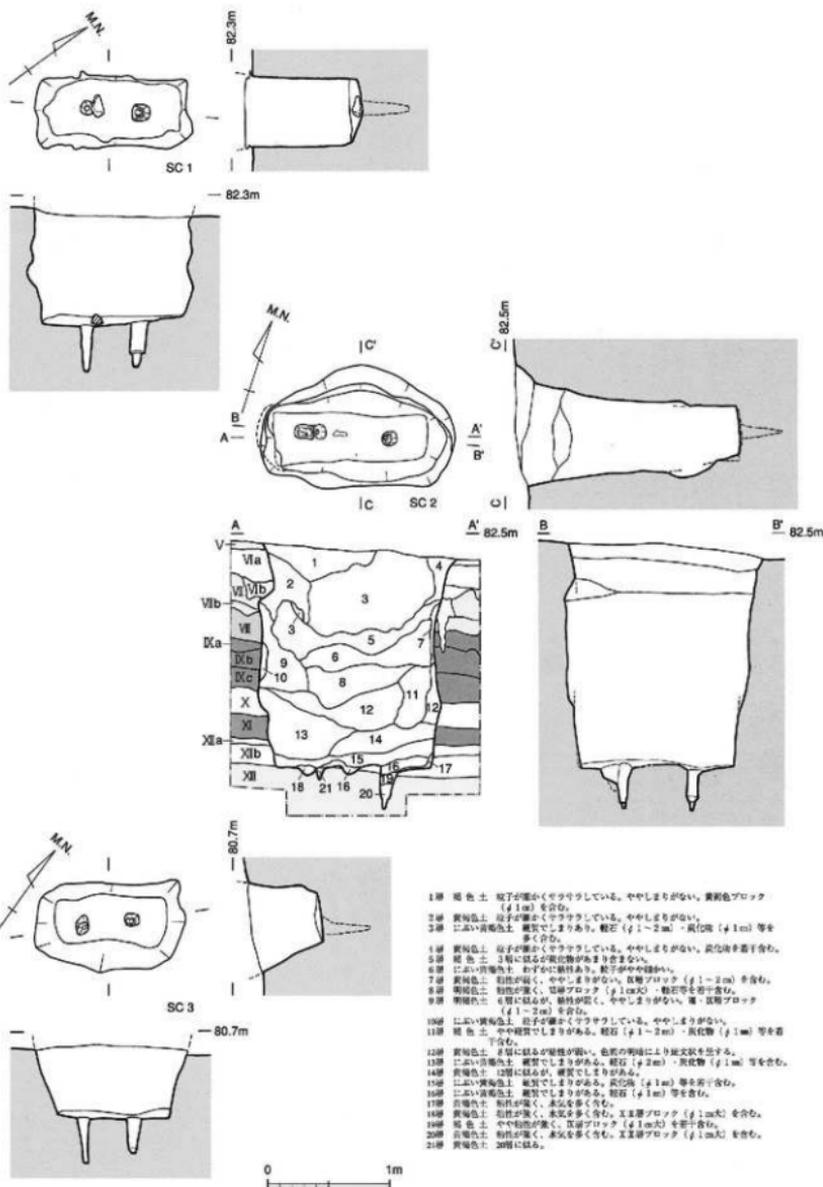
第64図 集石遺構実測図(1)(S=1/30)および出土遺物実測図(S=1/2)



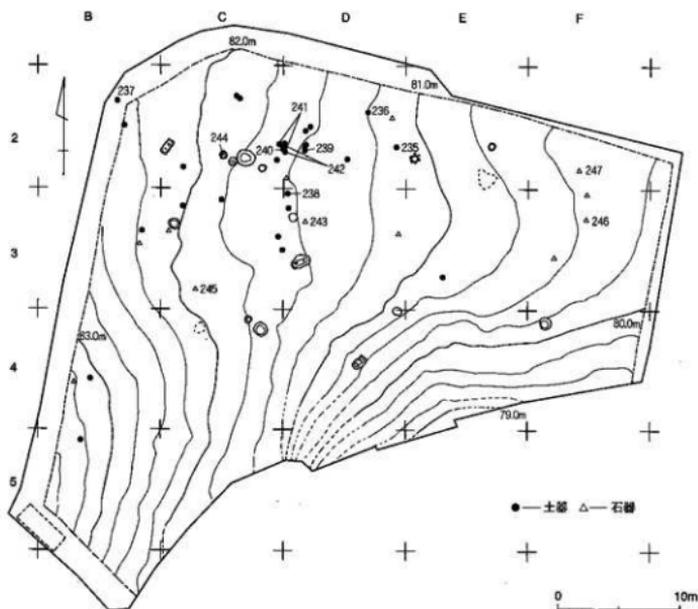
第65図 集石遺構実測図(2)(S=1/30)



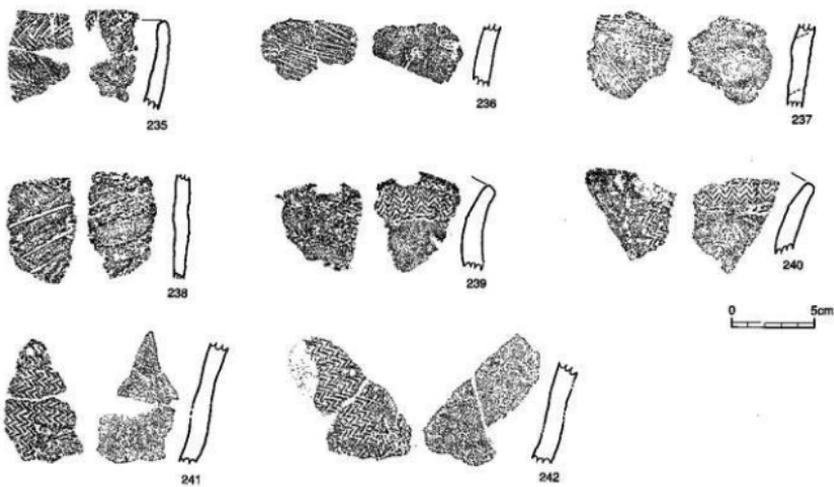
第66図 集石遺構実測図(3)(S=1/30)



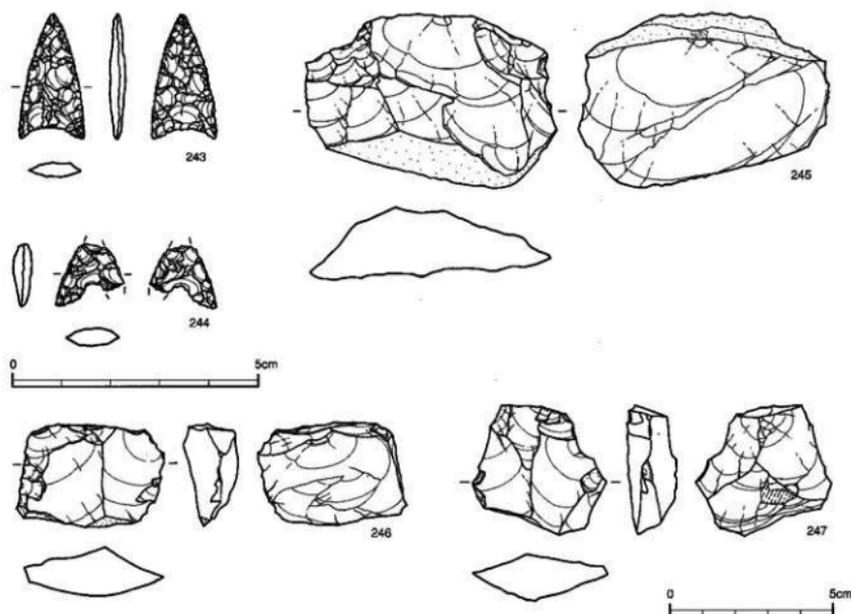
第67図 陥し穴状遺構実測図 (S=1/40)



第68圖 縄文時代早期遺物分布図 (S=1/400)



第69圖 縄文時代早期土器実測図 (S=1/3)



第70図 縄文早期石器実測図(15)(S=2/3)

2. その他の遺構と遺物

(1) 遺構

土 坑 (SC) (第71図、第72図、第12表)

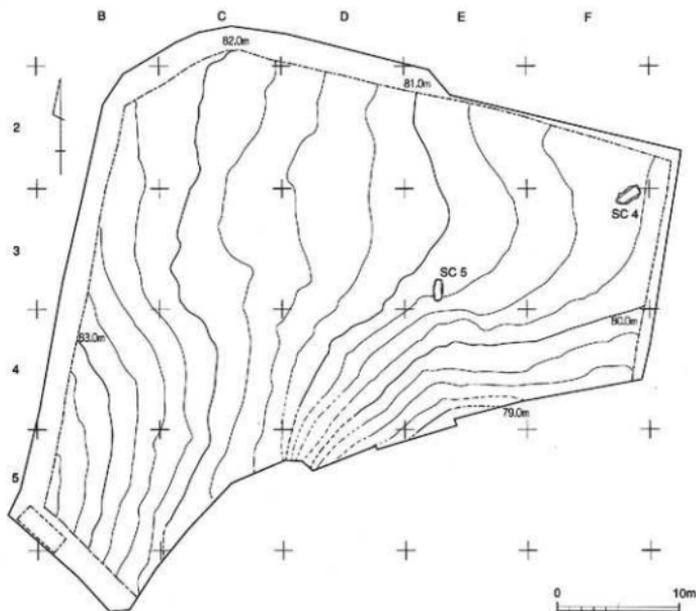
土坑は調査区東側で2基確認されている。いずれも楕円形プランを呈し、埋土はⅡ層に似た明褐色土主体でまじりがなく、Ⅴ層やⅦ層がブロック状に混入している。どちらも遺物等が確認されていないため、時期の特定には至らなかったが、アカホヤ火山灰降灰以後の所産と考えられる。

第12表 土坑一覧表

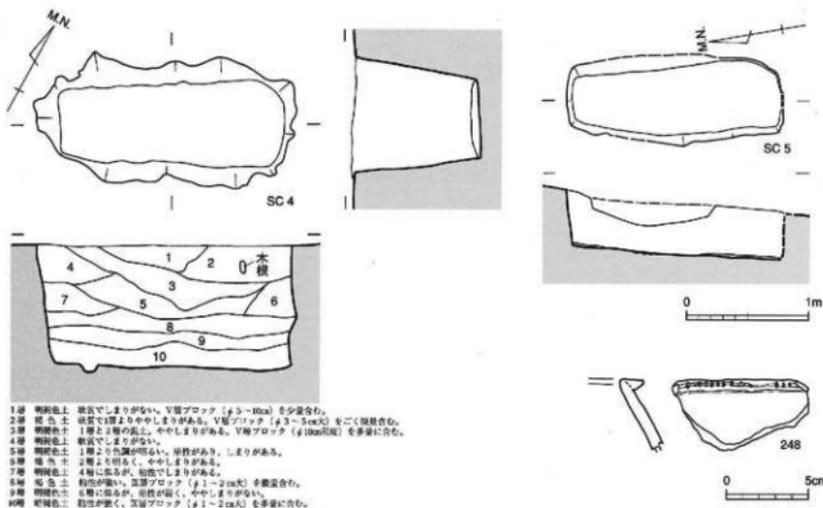
遺構番号	層位	グリッド	出土遺物	主 軸	規 準 長×幅×深さ	概(m) 長×幅×深さ	平面プラン	備 考
SC4	Ⅶ	F-2・3	-	N-4°-E	2.12×0.93×0.98		楕円形	
SC5	Ⅶ	E-3	-	N-56°-E	1.83×0.74×0.44		楕円形	

(2) 遺物 (第72図)

表採資料で1点、弥生土器(甕)が確認されている。248は口縁部が内湾し、口縁端部には刻目突帯を貼付けており、内外面にナデ調整が施されている。焼成は良好で、胎土は4.5mm以下の茶褐色、3.5mm以下の灰白色・灰褐色の砂粒を含む。色調は内外面ともにぶい赤褐色土を呈する。上記の特徴より、亀の中式に類似することから、弥生時代中期前半と考えられる。



第71図 時期不明遺構配置図(S=1/400)



第72図 土坑実測図(S=1/40)および表採資料実測図(S=1/3)

第Ⅳ章 自然科学分析

株式会社 古環境研究所

第1節 テフラ分析

1. はじめに

宮崎県中南部に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、始良、鬼界、阿蘇などのカルデラ火山や、桜島や霧島などの成層火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで層位や年代が不明な土層が認められた高野原遺跡第5地点においても、地質調査、火山ガラス比分析、屈折率測定を行い、指標テフラの検出同定を試みるようになった。調査分析の対象となった地点は、第2トレンチである。

2. 土層の層序

第2トレンチでは、下位より赤色がかった褐色スコリア層（層厚3cm以上、スコリアの最大径5mm）、暗灰色や褐色のスコリアを含む褐色土（層厚34cm、スコリアの最大径6mm）、灰褐色土（層厚13cm）、黄色軽石混じり暗灰褐色土（層厚11cm、軽石の最大径3mm、11b層）、黄色軽石を少量含む暗灰褐色土（層厚15cm、軽石の最大径3mm、11a層）、褐色土（層厚13cm）、黄色軽石に富む暗灰褐色土（層厚20cm、軽石の最大径5mm）、黄色軽石を多く含む暗灰褐色土（層厚20cm、軽石の最大径5mm）、黄色軽石混じり灰褐色土（層厚13cm、軽石の最大径2mm）、黄灰色土（層厚8cm）、黄白色土（層厚8cm）、灰色がかった褐色土（層厚12cm）、黄色軽石混じり褐色土（層厚20cm、軽石の最大径3mm）が認められる（第73図）。これらのうち、最下位の褐色スコリア層は、その岩相から霧島アワオコシテフラ（Kr-Aw、遠藤ほか、1962、町田・新井、1992）と考えられる。

3. 火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

第2トレンチにおいて、基本的に厚さ5cmごとに設定採取された試料のうち、試料6～14のうちの偶数番号の5点を対象に火山ガラス比分析を行い、火山ガラスで特徴づけられるテフラの堆積層準の把握を試みた。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により1/4-1/8mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調形態別比率を求める。

(2) 分析結果

第2トレンチにおける火山ガラス比ダイヤグラムを、第74図に示す。また火山ガラス比分析結果の内訳を、第13表に示す。分析では、いずれの試料からも火山ガラスを検出することができた。試料10では、とくに平板状のいわゆるバブル型ガラス（無色透明）が多く認められる（20.0%）。より下位の試料にも、バブル型ガラス（無色透明）は比較的多く含まれているものの、試料10により多く含まれていることから、試料10付近にバブル型ガラス（無色透明）で特徴づけられるテフラの堆積層があると推定される。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

野外観察の際に、軽石が多く認められた土層から採取された試料29と試料20の2点を対象に、日本列島とその周辺のテフラ・カタログ作成にも利用された温度一定屈折率測定法（新井, 1972, 1993）により、テフラ粒子の屈折率の測定を試みた。

(2) 測定結果

屈折率の測定結果を第14表に示す。試料29には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。そのうち斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.720-1.730である。この試料には、 β 石英が比較的多く含まれている。一方、試料20には、重鉱物として斜方輝石のほか、ごく少量の単斜輝石や角閃石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.722-1.729である。この試料には、 β 石英が多く含まれている。

5. 考察

試料29（11b層）に多く含まれるテフラ粒子は、層位、岩相、重鉱物の組合せ、斜方輝石の屈折率などから、約3万年前^{*1}に始良カルデラから噴出した始良大塚テフラ（A-Ot, 長岡, 1984, 町田・新井, 1992, 奥野ほか, 2000, 長岡ほか, 2001）に由来すると考えられる。その上位の暗灰褐色土（試料18~21）中にとくに多く含まれる軽石については、層位、岩相、重鉱物の組合せ、斜方輝石の屈折率、岩相や層位などから、約2.65万年前^{*1}に始良カルデラから噴出した始良深港テフラ（A-Fm, Nagaoka, 1988, 町田・新井, 1992, 奥野ほか, 2000, 長岡ほか, 2001）に由来する可能性が高い。

試料10付近に堆積層があると推定されるテフラについては、層位や火山ガラスの特徴などから、約2.4~2.5万年前^{*1}に始良カルデラから噴出した始良Tn火山灰（AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 村山ほか, 1993, 池田ほか, 1995）と考えられる。

6. まとめ

高野原遺跡において、地質調査を行って土層層序を記載するとともに、火山ガラス比分析と屈折率測定を行った。その結果、下位より霧島アワオコシテフラ（Kr-Aw）、始良大塚テフラ（A-Ot, 約3万年前^{*1}）、始良深港テフラ（A-Fm, 約2.65万年前^{*1}）、始良Tn火山灰（AT, 約2.4~2.5万年前^{*1}）などを検出することができた。

*1 放射性炭素 (^{14}C) 年代。おもな旧石器時代の指標テフラの較正年代は次のように考えられている (長岡ほか, 2001)。

始良Tn火山灰 (AT)	: 約2.7万年前
始良深港軽石 (A-Fm)	: 約3.1万年前
始良大塚軽石 (A-Ot)	: 約3.25万年前

文献

- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p. 254-269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p. 138-148.
- 近藤 尚・杉田 剛・法元敏一・見玉三郎 (1962) 日向海岸を構成する段丘について。宮崎大学学芸要報, 14, p. 9-28.
- 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫 (1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による ^{14}C 年代。第四紀研究, 34, p. 377-379.
- 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義。科学, 46, p. 339-347.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
- 松本英二・前山保夫・竹村憲二・西田史朗 (1987) 始良Tn火山灰 (AT) の ^{14}C 年代。第四紀研究, 26, p. 79-83.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦 (1993) 四国沖ピストンコア試料を用いた AT火山灰噴出年代の再検討—タンデロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の ^{14}C 年代。地質雑, 99, p. 787-796.
- 長岡信治 (1984) 大隅半島北部から宮崎平野に分布する後期更新世テフラ。地学雑, 93, p. 347-370.
- Nagaoka, S. (1988) The late Quaternary tephra layers from the caldera volcanoes in and around Kagoshima Bay, southern Kyushu, Japan. Geogr. Rept. Tokyo Metropol. Univ., 23, p. 49-122.
- 長岡信治・奥野 充・新井房夫 (2001) 10万~3万年前の始良カルデラ火山のテフラ層序と噴火史。地質雑, 107, p. 432-450.
- 奥野 充・福島大輔・小林哲夫 (2000) 南九州のテフロクロロジー—最近10万年間のテフラ。人類学研究, 12, p. 9-23.

第13表 火山ガラス比分析結果

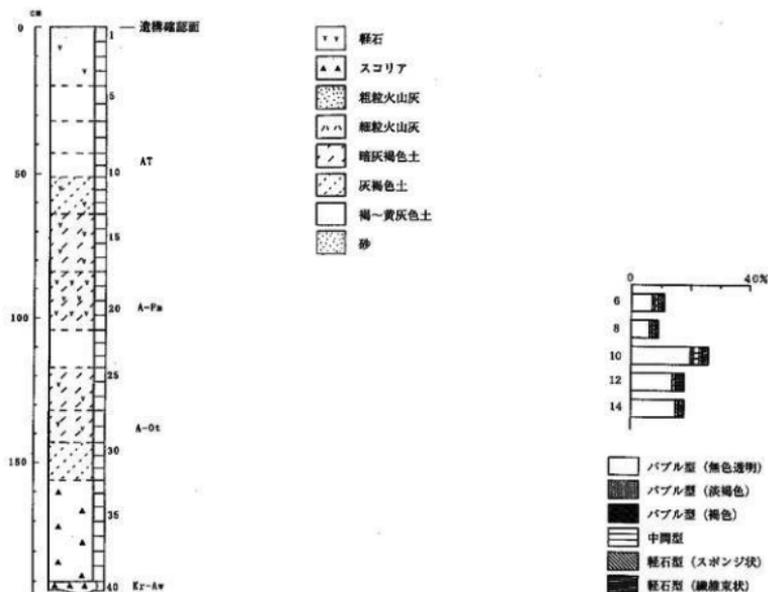
トレンチ	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
第2	6	18	2	0	2	1	2	225	250
	8	14	0	0	2	1	2	231	250
	10	50	1	0	3	1	5	190	250
	12	34	0	0	2	0	8	206	250
	14	37	0	0	0	1	4	208	250

数字は粒子数。bw：バブル型、md：中間型、pm：軽石型、cl：透明、pb：淡褐色、br：褐色、sp：スポンジ状、fb：繊維束状。

第14表 屈折率測定結果

トレンチ	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)	角閃石 (n_z)
第2	20	-	opx,(cpx,ho)	1.722-1.729	-
第2	29	-	opx>cpx	1.720-1.730	-

屈折率の測定は、温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）による。opx：斜方輝石、cpx：単斜輝石、ho：角閃石。重鉱物の（ ）は、量が少ないことを示す。



第73図 土層柱状図(数字はテフラ分析の試料番号)

第74図 火山ガラス比ダイヤグラム

第2節 放射性炭素年代測定結果

1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定法
No 1	SI11, 集石遺構	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No 2	SI12, 集石遺構	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No 3	SI13, 集石遺構	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS

※AMSは加速器質量分析法: Accelerator Mass Spectrometry

2. 測定結果

試料名 (Beta-)	測定No (年BP)	^{14}C 年代 (%)	δ ^{13}C (年BP)	補正 ^{14}C 年代	暦年代 (西暦)
No 1	183463	8150 \pm 40	-27.3	8110 \pm 40	交点: cal BC 7070 1 σ : cal BC 7090~7060 2 σ : cal BC 7170~7050
No 2	183464	8200 \pm 50	-25.7	8190 \pm 50	交点: cal BC 7170 1 σ : cal BC 7300~7080 2 σ : cal BC 7340~7070
No 3	183465	9410 \pm 50	-26.5	9390 \pm 50	交点: cal BC 8630 1 σ : cal BC 8730~8600 2 σ : cal BC 8770~8550

1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

2) δ ^{13}C 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値

δ ^{13}C 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を較正することにより算出した年代 (西暦)。calはcalibrationした年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、お

よびサンゴのU-Th年代と¹⁴C年代の比較により作成された校正曲線を使用した。最新のデータベースでは約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正¹⁴C年代値と暦年代校正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ ^{95%} (68%確率)と2 σ (95%確率)は、補正¹⁴C年代値の偏差の幅を校正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1 σ ・2 σ 値が表記される場合もある。

3. 所見

加速器質量分析法による放射性炭素年代測定の結果、No 1の炭化物では8110 \pm 40年BP (1 σ の暦年代でBC7090~7060年)、No 2の炭化物では8190 \pm 50年BP (1 σ の暦年代でBC7300~7080年)、No 3の炭化物では9390 \pm 50年BP (1 σ の暦年代でBC8730~8600年)の年代値が得られた。

文献

Stuiver, M., et. al. (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

第3節 樹種同定

1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から概ね属レベルの同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は、集石遺構のSI11とSI13から採取された2点の炭化材である。

3. 方法

試料を割折して新鮮な基本的三断面(木材の横断面、放射断面、接線断面)を作製し、落射顕微鏡によって75~750倍で観察した。同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果と所見

分析の結果、SI11集石遺構の炭化材はコナラ属コナラ節、SI13集石遺構の炭化材はクリと同定された。以下に同定根拠となった特徴を記し、各分類群の顕微鏡写真を示す。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1~数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小

道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靱で弾力に富み、建築材などに用いられる。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科

横断面：年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

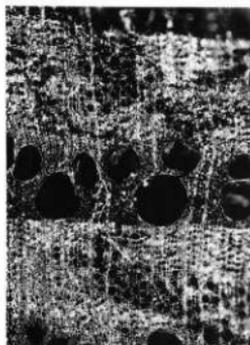
以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。耐朽性強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木などに広く用いられる。

文献

佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞。木材の構造, 文永堂出版, p.20-48.

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞。木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.

高野原遺跡の炭化材



横断面 ————— : 0.4mm
SI 13 クリ



放射断面 ————— : 0.4mm



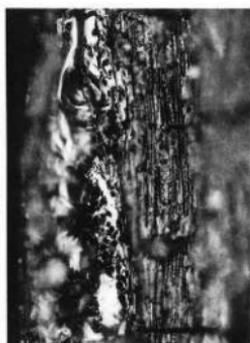
接線断面 ————— : 0.2mm



横断面 ————— : 0.4mm
SI 11 コナラ属コナラ節



放射断面 ————— : 0.4mm



接線断面 ————— : 0.2mm

第V章 まとめ

高野原遺跡第5地点の調査では、旧石器時代から縄文時代早期にかけて遺構・遺物が確認されている。そのうち旧石器時代では4期の文化層が確認され、そのうち、始良Tn火山灰（以下AT）下位のものが3期に細分される。中でもAT直下の黒色帯については、比較的良好な堆積を示し、近年、宮崎平野部で鍵層として注目されつつある始良大塚軽石や始良深港軽石が層的に分離できた状態で確認されており、その黒色帯から下位の暗褐色土まで3期の文化層が層的に確認できたことは意義が大きい⁽⁴¹⁾。ここでは時期別に簡単にまとめていきたい。

第I文化層はXI層からXII層にかけて確認されており、スクレイパーや二次加工剥片などが確認されている。石材では緑色珪質頁岩等が利用されており、本遺跡の他のAT下位文化層では利用されておらず、特徴的である。部分的な調査であり、台形楕石器等の定型的なツールが出土していないため、実態が不

明瞭と言わざるをえないが、XIIa層に遺物出土のピークが認められ、XI層、XIIb層の順に出土量が減少することから始良大塚軽石降灰以前と考えられる。しかし始良大塚軽石自体が一次堆積ではないため、同軽石降灰以降の可能性も捨てきれない。

第II文化層はIXc層下部からX層で確認されており、出土量が少ないが、台形椀石器やスクレイパー、楔形石器などが確認されている。台形椀石器は幅広い剥片を素材に両面から平坦剥離を施しており、このような特徴から、牟礼越遺跡第I文化層（大分県）や耳切遺跡A地点-I石器文化（熊本県）等出土の台形椀石器に近いと考えられ、後期旧石器時代でも古い段階に位置付けられる（村崎2002、2003、綿貫2002）。ただし、牟礼越第I文化層で見られるような斧型石器は確認されていない。また剥片剥離技術をみていくと打面を固定して剥離を行なうものや、打面転位を繰り返しながら剥離するものが認められ、幅広い剥片や不定形剥片の他、縦長剥片、横長の剥片等が認められる。また石材についてはチャートI類と黒曜石I類が主体となるが、そのうち黒曜石I類については、産地が不明であり、今後分析等を行なう必要がある。時期的には台形椀石器の特徴から古い段階と考えられるが、出土層位について他地域と比較すると、それらが黒色帯下部から下層の粘質土層にかけての出土であるのに対し、本遺跡のものについては黒色帯中位の出土であり、相違が認められる。地域ごとの堆積状況も考慮していく必要もあり、資料の増加を待つ必要があるが⁽³²⁾、層位的所見を加味すれば、村崎編年の第II期に位置付けられよう。

第III文化層はIX層が主体となり、小型のナイフ形石器や台形椀石器、スクレイパー、鋸歯状石器などが確認されている。ナイフ形石器はいわゆる「茂呂型ナイフ形石器」に相当し、窪谷遺跡第I文化層（熊本県）などで類例が認められ、小型ナイフ形石器とエンドスクレイパーが石器組成の中で顕著などの共通性も認められるが、台形椀石器が伴わない点では相違がみられる。次に剥片剥離技術をみていくと打面を固定、もしくは180°転移して剥離を行なうものや、打面と作業面を90°入れ替えながら剥離を行なうもの、打面転位を繰り返しながら剥離するもの、剥片を素材として主要剥離面側を作業面として剥片剥離を行なうもの等認められる。そのうち剥片素材のものについては両面がボジ面で構成される幅広いもしくは横長剥片を剥出するもので、牟礼越遺跡第I文化層や矢野原遺跡第I文化層（北方町）、後牟田遺跡第II文化層（川南町）等でも類例が認められ、東九州で共通の技術的な様相をもつものと考えられる。剥片については幅広い剥片が主体を占め、その他に縦長剥片や不定形剥片などが認められる。縦長剥片のなかには「石刃」と呼べる資料も確認できるが量的に少なく、阿部氏が後牟田遺跡第II文化層の剥離技術について指摘する縦長剥片剥離技術がその他剥片類を剥離する技術と明確に分離されない傾向が本遺跡でも看取できる。また時期的な位置付けとして、ナイフ形石器が主体となる村崎編年の第III期に相当すると考えられる。

また、礫群では第III文化層で10基確認されているが、そのうち礫群5・7・9では、25m離れた礫群間で接合関係が認められる。礫自体は赤化が認められず、分割された状態でそれぞれ確認されている。また礫群7では17点中、約7割が完形礫であり、礫群7から礫を使用するために分割して持ち出された可能性も考えられ、興味深い。

第IV文化層はVI層で確認されており、AT上位にあたる。遺物量が少なく、定型的な石器が認められないため、時期的な位置付けが困難であるが、しいて挙げれば、剥片素材の石核から横長の剥片を剥離する点から見ていけば、偶発的な可能性が高いものの瀬戸内技法の影響を受けているとも解釈できる。

縄文時代早期では、集石遺構14基と陥し穴状遺構3基が確認されている。遺物は少量ながら、押型文土器や桑ノ丸式土器、塞ノ神式土器が出土しているが、中でも押型文土器が主体を占める。集石遺構内ではSI5で打製石斧が出土しているのみで、時期を特定できないが、おおよそ上記の土器と伴うものと考えられる。集石遺構のうち3基については¹⁴C年代分析を行ない、8,150±40年BP (SI11)、8,200±50年BP (SI12)、9,410±50年BP (SI13)の年代が得られた。前者2試料 (SI11・12) については、押型文土器の年代とおおよそ合うが、後者 (SI13) については遺跡内出土土器の年代より古くなる。谷を挟んで隣接する第1地点では知覧式土器が出土しているため、その可能性も考えられるが、SI12・13は隣接して構築されており、検出面もほとんど同じであることから、コンタミネーションの可能性も考えられる。集石遺構や散礫に使用されている礫は、そのほとんどが砂岩で構成されており、段丘礫層中や大淀川で見られることから、露頭等で採集されたものと考えられる。

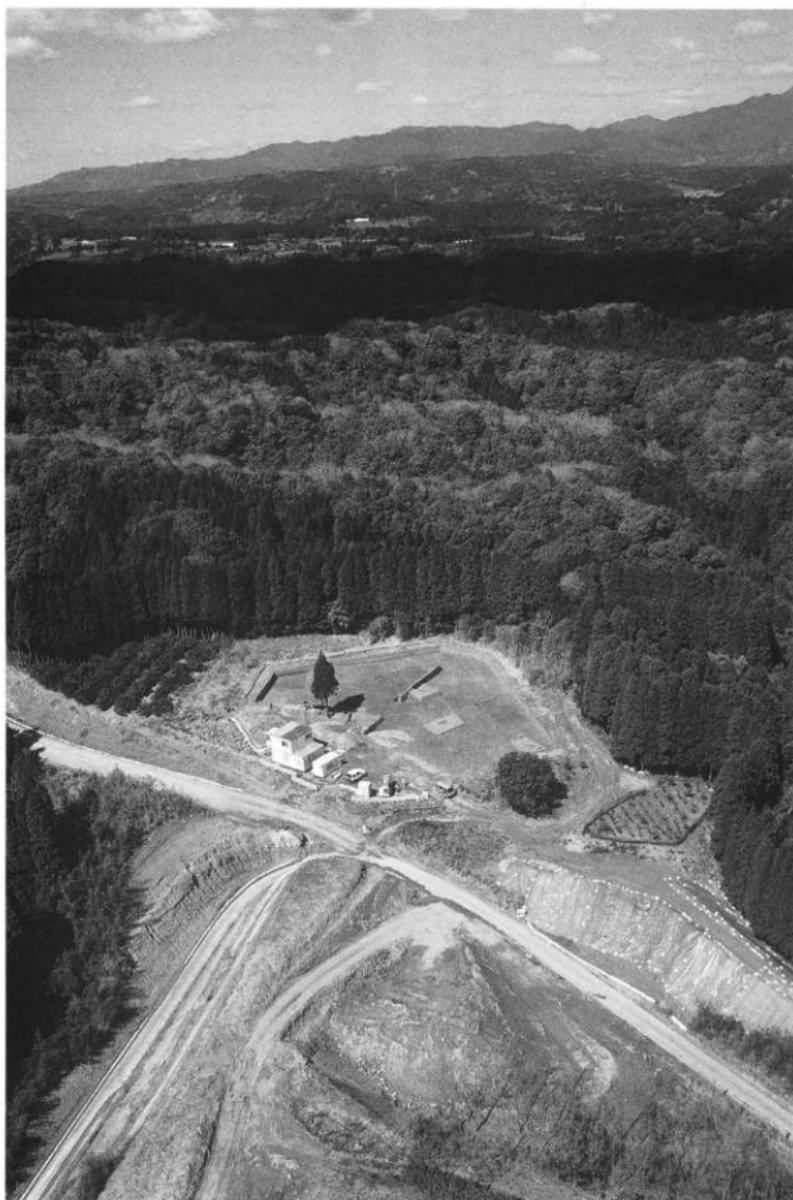
また陥し穴状遺構が3基確認され、等高線とやや並行に列状に配置されており、その分布から南北に延びる可能性があり、「けもの道」に沿って設置されていたものと考えられる。遺構内からは遺物の出土が認められないため、時期については不明と言わざるをえないが、遺構検出面より散礫形成時より古く構築されたものと考えられ、埋土中に礫などが混入していないことからそのことが言える。同時代の陥し穴状遺構は高岡町教育委員会が調査した第1地点、第4地点でも確認されており、遺構内出土遺物および底面小穴内埋土の植物珪酸体分析により、7,500年以前 (1・3号土坑)・以降 (2・7号土坑)の2時期があると推定されている。今回の調査では植物珪酸体分析を行なっていないが、検出状況から前者の時期に近いと考えられ、平面形態や底面に配置された小穴の特徴等、類似する点が多い。

註

- (1) 松本茂氏によれば、東九州自動車 (西都~都農間) でも両種石が確認されている例が多くなってきているが、層的に分離できない例が多いとのことである。
- (2) 高野原遺跡をはじめ、隣接する水迫第1・第2遺跡でも黒色帯の堆積状況が良好であり、本遺跡同様、黒色帯中で給良大塚軽石や給良深港軽石が確認されている。両遺跡ともX層相当層での遺物確認例がないが、今後、こういった堆積状況が良好な地域での確認例の増加を待って検討していきたい。

引用・参考文献

- 秋成雅博・藤本聡・松本茂 2003「宮崎県域における旧石器資料の再検討(1)-北方町矢野原遺跡第1文化層(AT下位)石器群-」『古文化誌』第50集(中)九州古文化研究会
- 阿部敬 2002「3 後半山遺跡時局色帯の剥片剥離技術」『後半山遺跡-宮崎県川南町後半山遺跡における旧石器時代の研究-』後半山遺跡調査団・川南町教育委員会
- 木崎康弘・藤昭志 1987「窪谷遺跡」熊本県文化財報告書第50集 熊本県教育委員会
- 木崎康弘 2002「ナイフ形石器文化の変遷と中期旧石器的要素の変容」『九州旧石器』第6号 九州旧石器文化研究会
- 橋本信 編 1999『牛乳鉢遺跡』三重町文化財調査報告書第5集 三重町教育委員会
- 橋本信・佐藤宏之・山田哲 編 2002「後半山遺跡-宮崎県川南町後半山遺跡における旧石器時代の研究-」後半山遺跡調査団・川南町教育委員会
- 志賀智史 2000「大分県における当該期遺跡-大野川流域を中心として-」『九州における後期旧石器時代文化の成立』九州旧石器文化研究会
- 志賀智史 2002「AT下位の石刃技法」『九州旧石器』第5号 九州旧石器文化研究会
- 廣田晶子 2002「高野原遺跡」高岡町風土文化財調査報告書第23集 高岡町教育委員会
- 廣田晶子 2003「水迫第2遺跡」高岡町埋蔵文化財調査報告書第25集 高岡町教育委員会
- 村崎孝宏 2002「九州における後期旧石器文化成立期に関する編年的研究」『九州旧石器』第5号 九州旧石器文化研究会
- 村崎孝宏 2003「給良Tn火山灰降灰以前の石器群に関する基礎的研究-耳切遺跡A地点第1石器文化石器群を中心として-」『先史学・考古学論究』Ⅳ 鹿田考古会
- 韓貫俊一 2002「九州の旧石器時代後期初頭石器群」『九州旧石器』第6号 九州旧石器文化研究会



高野原第5地点遺景



土層堆積状況



旧石器時代第Ⅰ文化層遺物出土状況（南より）



第Ⅱ文化層礫群1（南東より）



第Ⅱ文化層遺物出土状況（東より）



第Ⅱ文化層スクレイパー出土状況（東より）



第Ⅲ文化層礫群3（南東より）



第Ⅲ文化層遺物出土状況1（北東より）



第Ⅲ文化層遺物出土状況2（南東より）



第Ⅲ文化層ナイフ形石器出土状況



第Ⅳ文化層遺物出土状況（南西より）



第Ⅳ文化層3号礫群（北より）



縄文時代早期散礫出土状況（北より）



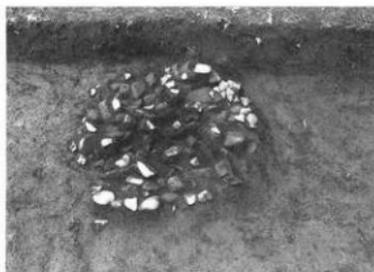
SI 1（南より）



SI 2（南より）



SI 3（東より）



SI 4（東より）



SI 5 (南より)



SI 6 (南より)



SI 7・8 (南より)



SI 10 (東より)



SI 11 (北より)



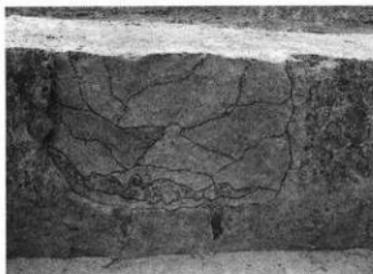
SI 11配石 (南より)



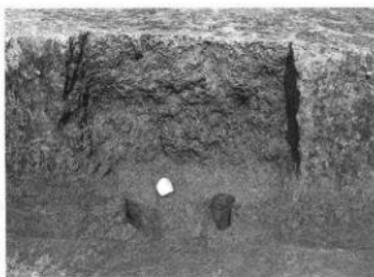
SI 12・13 (南東より)



SI 12・13掘り込み (東より)



SC 1 (1) (南より)



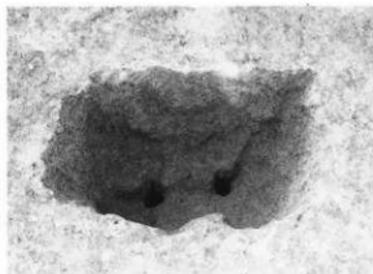
SC 1 (2) (南より)



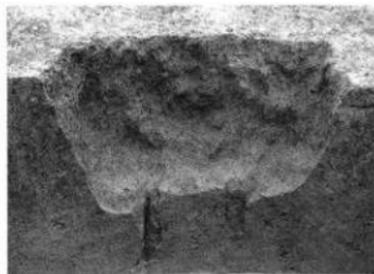
SC 2 (1) (南より)



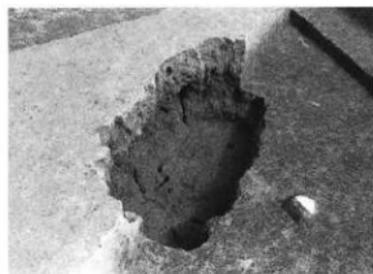
SC 2 (2) (南より)



SC 3 (1) (南より)



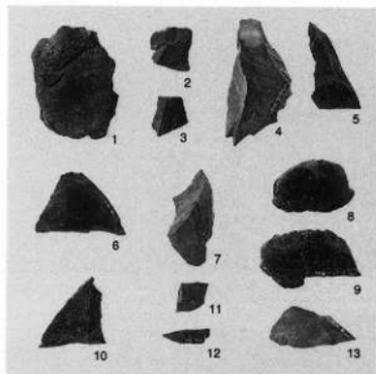
SC 3 (2) (南より)



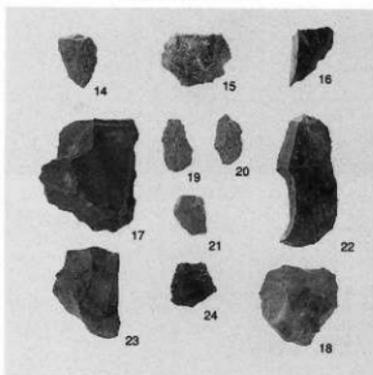
SC 4 (南より)



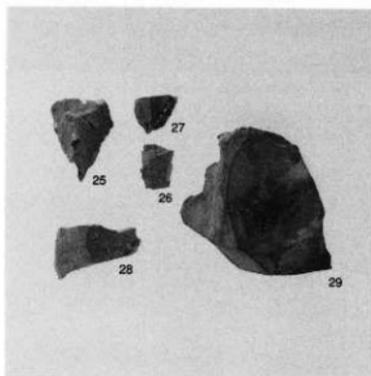
SC 5 (南より)



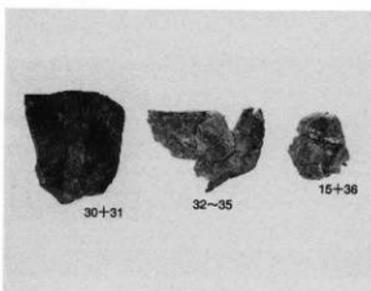
第 I 文化層出土石器



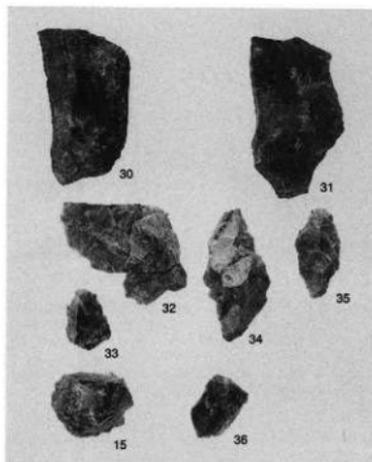
第 II 文化層出土石器 (1)



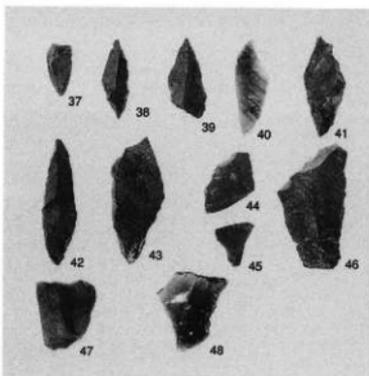
第 II 文化層出土石器 (2)



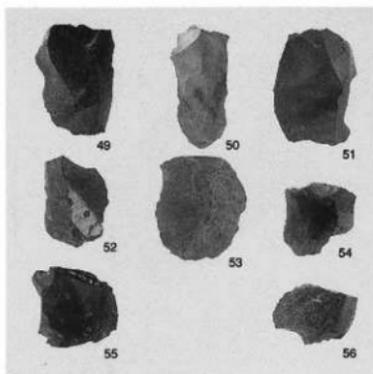
第 II 文化層出土石器 (3)



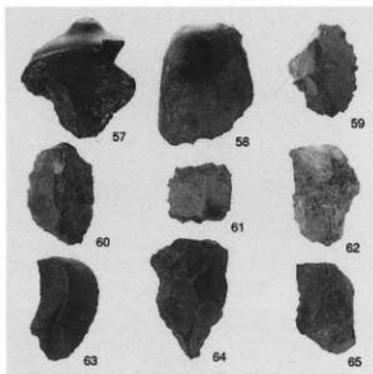
第 II 文化層出土石器 (4)



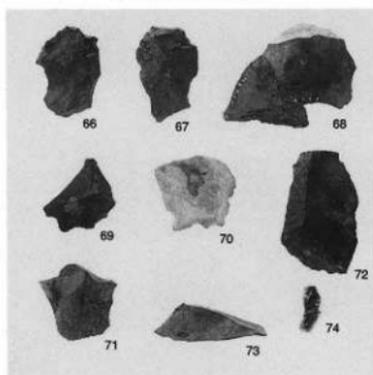
第 III 文化層出土石器 (1)



第Ⅲ文化層出土石器 (2)



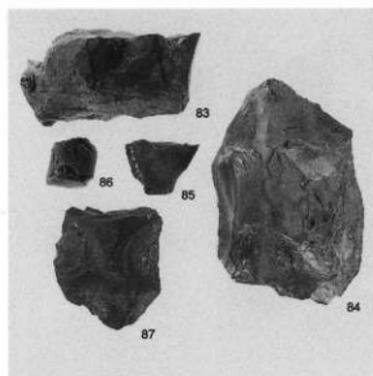
第Ⅲ文化層出土石器 (3)



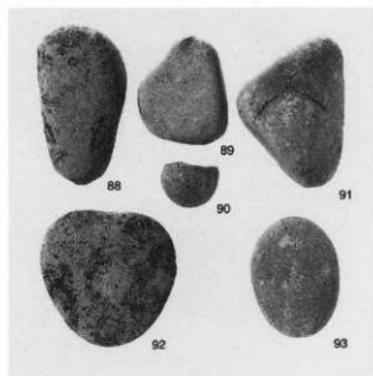
第Ⅲ文化層出土石器 (4)



第Ⅲ文化層出土石器 (5)



第Ⅲ文化層出土石器 (6)



第Ⅲ文化層出土石器 (7)